

日本キリスト改革派教会 大会教育委員会

# 教会学校 教案誌



church school curriculum



いと高きところには栄光、神にあれ、  
地には平和、御心に適う人にあれ。

ルカによる福音書2章14節

vol. **79**

2020年10-12月

「救済史」  
に基づく二年サイクル 第2年

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 長老の持つべき資質・モラル&常識(1).....     | 豊川修司  |
| 障がいのある人と共に(2).....           | 申 成日  |
| 【教会学校紹介】「ようこそ、日曜学校ツアーへ」..... | 川瀬真美  |
| CS教師の一言「コロナ禍と子どもたち」.....     | 市川貴規  |
| 【信仰告白の証】「祈りの実践」.....         | 小峯あかり |

## 2020年10～12月カリキュラム（第79号）

—『子どもと親のカテキズム』に基づく2年サイクル 第1年—

月 日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
10月4日	人間・神と人と共に	問17	ウ小4,10、ウ大17、ウ告4章、ハイデ6
		創世記1:26－27	コリント一10:31
神は人をご自身のかたちに造られ「創造の冠」とされた。			
10月11日	人間の使命	問18	ウ小12、ウ大20,98,102,122、ウ告4章
		マルコ12:28－34	ヨハネ15:12
神の愛にこたえて、隣人を愛して生きる。			
10月18日	人間・罪の起源	問19	ウ小13－19、ウ大21、ハイデル7
		創世記3:1－13	創世記3:9
神の言葉に背いた人間は祝福の状態から罪と悲惨へと墮落した。			
10月25日	罪とは何か	問20	ウ小14,15、ウ大24
		ルカ15:11－24	ルカ15:20
神の愛を拒絶する頑なな人間の愚かさを知る。			
11月1日	罪人の悲惨	問21	ウ小14－19、ウ大25－29
		エフェソ2:1－10	ヨハネ8:34
人間は生まれながら神との交わりを失い神に背きつつ生きる者となった。			
11月8日	罪人の歩み	問22	ウ小16－19、ハイデル6－8
		創世記6:1－8	詩編51：7
罪によって人間は生きるべき道を正反対に歩き出した。			
11月15日	わたしの罪・ 神の怒りと裁き	問23	ウ小14,15、ハイデル2,3
		ローマ7:7－25	テモテ一1:15
わたしは神の御前に罪人で、神の怒りに値する者です。			
11月22日	完全な墮落・ キリストの贖罪	問24	ウ小19、ハイデル13
		マタイ18:21－35	ローマ7:19
人間は自力で自分を救えない。罪の償いが必要である。			
11月29日	救い主の約束	問25	ウ小19,20、ハイデル13－15
		ヨハネ10:7－18	ヨハネ10:11
神は罪人を見捨てず、憐れんで神の子の身分を回復して下さる。			
12月6日	子なる神・二性一人格	問26	ウ小21－22、ウ大36,37,40
		ルカ1:26－38	使徒4:12
神は私たちに救い主イエス・キリストを与えて下さった。			
12月13日	子なる神・真の神	問27	ウ大38,39、ハイデル14－18
		ヘブライ9:23－28	ローマ5:8
イエス・キリストは神として私たちの罪を完全に償ってくださった。			
12月20日 クリスマス	キリストの降誕	(問26)	—
		ヨハネ3:16	マタイ1:23
私たちの救い主イエス・キリストが与えられた恵みに感謝しよう。			
12月27日	子なる神・真の人	問28	ウ大38,39、ハイデル16,17
		ヘブライ2:5－18	ヘブライ2:18
罪人の私たちに代わって人としてキリストは罪を償ってくださった。			

も く じ

2020年10・11・12月カリキュラム

まえがき「カテキズム教育への挑戦」	相馬 伸郎……………	4
巻頭説教「救いの恵みを語り伝える」	金原 義信……………	5
教会学校教師のための説教準備ガイドⅢ	牧野 信成……………	9
長老の持つべき資質・モラル&常識 (1)	豊川 修司……………	12
障がいのある人と共に (2)	申 成日……………	16
教会学校紹介「ようこそ、日曜学校ツアーへ」	川瀬 真美……………	22
信仰告白の証「祈りの実践」	小峯あかり……………	25
CS教師の一言「コロナ禍と子どもたち」	市川 貴規……………	29

聖書黙想・説教展開例・分級展開例……………31

10月 4日 ……………	32
10月11日 ……………	42
10月18日 ……………	48
10月25日 ……………	55
11月 1日 ……………	62
11月 8日 ……………	69
11月15日 ……………	75
11月22日 ……………	82
11月29日 ……………	88
12月 6日 ……………	95
12月13日 ……………	102
12月20日 ……………	108
12月27日 ……………	115

聖句カード……………	121
次号カリキュラム (2021年1・2・3月)……………	123
教案誌自由募金案内……………	124
大会教育委員会出版物案内……………	125
執筆者よりひとこと・あとがき……………	126

まえがき

## カテキズム教育への挑戦

相馬伸郎

子どもと親のカテキズムは「一番大切なものとは何ですか」との問いから始めます。しかしそもそも、一番大切なことを教えることは可能でしょうか。

カテキズムの多くは問答形式を採用しています。私の小さな経験ですが、十代のキリスト教のことをまったく知らない大学生たちに、「あなたの人生の目的は、何ですか」「あなたは何のために、生きて来たのですか」と問いかけ続けたことがあります。一番多いのは、困った顔をしつつ「これまで真剣に考えたことはありません」というもの。次に多いのは、恥ずかしがりながらも「こう思っています。こんな感じです」と分かち合ってくれます。また、「答えはありませんが、それを求めています」というものもあります。一方で、「この問答には、違和感を覚えました。何故なら、人生の目的は人それぞれで良いのではないのでしょうか」という否定的な応答もありました。

ここに、問答形式のカテキズムによる教育の一つの醍醐味があると思います。したがって、この第一の「問い」に代表される神からの問いかけを教師がどのように用いるかが重要になるはずで、神からの問いかけの前に共に立ちながら、先に教えを受け、信じて生きる恵みに与った者として向き合うのです。それは、学ぶ者ひとり一人の最も深いところに眠っている問い、願い、憧れを引き出すことでもあります。そしてまさにそのところで、何のために生まれて

きたのかという究極の問いへの答えは、自分自身で出せないことに気付かせるのです。そこから創造者なる神の存在や啓示としての聖書の必要性、カテキズムを学ぶことの必要性へと橋渡しすることを試みるのです。教える者は、すべての問答を貫いて「自ら問う」ことを促すことが求められます。それゆえ私自身は、基本的にマンツーマンで行っています。その人(個人)の信仰と生活、救いと聖化の課題を扱うからです。

カテキズム教育は、真理の正確な伝達と共に深く思考することを結びつける営みです。もとより、両者を止揚させることは、ただまことの教師でいらっしやる聖霊によってのみ可能です。しかし、教師は自らそれを祈り求めることが大切です。たとえば、「求めなさい。探しなさい。叩きなさい」(マタ7:7)との主イエスの招きのみ言葉を教えるとき、まさに神の問いの前に立たされます。しかし、神の前に立たされるとき、自分自身の神を求め、探し、叩くその営みの不確かさを示されるだろうと思います。そこでこそ、「ひるがえり」つまり、主イエスがどれほど私どもを求め、探し、心の扉を叩き続けておられるかに気づかされて行くのだらうと思います。神と人との問い、問われる関係のなかで神との人格関係、交わりは深められてまいります。

カテキズム教育という不可能の可能性への挑戦を続けて参りたいと願います。

(名古屋岩の上教会牧師)

## 巻頭説教

## 救いの恵みを語り伝える

出エジプト記 12章 21～28節

金原義信

教案誌の巻頭説教として、出エジプト記 12章に記されている過越祭の制定箇所から、ご一緒に御言葉に聞いてまいります。

この箇所から聞きたいと思ったのは、イスラエルの民が、過越しの儀式の意味を子どもたちに教えるように命じられる記事に、心を惹かれたからです。私たちが教会学校で行っていることは、まさにここに記されたことを、現代において受け継いでいると思うからです。イスラエルの民が子どもたちに教えるように命じられたことは、過越しの儀式の意味でした。それは27節にある通り「これが主の過越しの犠牲である。主がエジプト人を撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々を過越し、我々の家を救われたのである」というのがその内容です。それを端的に言えば、救済体験を語り伝える、ということです。ではこの救済、とは何でしょうか。

このときイスラエルの民が経験した救いの体験とは、エジプトの奴隷の家から救い出されたことでした。この救いというのは、私たちにとっては、「罪と死の奴隷」状態から解放される、ということです。エジプトにいたとき、彼らはその苦役のゆえに、うめき、苦しんでいました。「その間イスラエルの人々は労働のゆえにうめき、叫んだ」のです(2:23)。この言葉から、創世記の御言葉を思い起こします。「お前は、

生涯食べ物を得ようと苦しむ。……お前は顔に汗を流してパンを得る……塵にすぎないお前は塵に返る」(創世3:17～19)とあるとおりです。エジプトでの奴隷生活のうめきは、丁度神さまから離れ、神の怒りと呪いのもとで額に汗して労苦し、しかも塵に返るほかない人間、罪と死の奴隷状態で苦悩する私たち人間のうめきに重なり合ってきます。

そのように呻き苦しむイスラエルの民を、そして私たち人間を、神さまはそのままにしておかれませんでした。その叫びは神さまに届いたのです。出エジプト記に戻りますが、神さまはエジプトで苦しむ民の叫びを聞いてくださり、彼らを顧みてくださいました。「神はその嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。神はイスラエルの人々を顧み、御心に留められた」(2:24, 25)。神さまは、モーセを遣わし、さまざまな奇跡をもってファラオの手からイスラエルの民を解放してくださいました。それが過越しの夜の出来事でした。ファラオはなかなか民を去らせませんでした。イスラエルの民にとって、エジプトの奴隷のくびきは強い力を持っていて、自分たちの力ではどうしようもなかったのです。ただただ神さまの力強い御手によってのみ、そこから逃れることが出来ました。いくつかの奇跡をもってしても

民を去らせないかたくななファラオを屈服させる決定的な奇跡が、この過越しの出来事だったのです。

私たち人間を、罪と死の奴隷状態に縛りつける霊的な力もまた、とても強いものです。私たち人間の救いは、神さまの御力によってのみ可能となりました。私たちが縛りつける霊的な力に対する決定的な勝利を、この過越しの出来事は指し示しています。

ファラオを屈服させる決定的な出来事を過越しの儀式は記念し、その意味を代々にわたって語り継いでいくようにと、神さまはここで民にお命じになったのです。

私のことで恐縮ですが、私はキリスト者の家庭で育てられました。二代目のキリスト者です。父も母も青年の時にそれぞれ別の教会ですが、改革派教会で求道して洗礼へと導かれました。私は父から、洗礼に至る経緯を何度も聞かされました。父はいわゆる「昭和一ケタ世代」で、生まれて最初に受けた国家神道教育を素直に信じて育ったようです。それが敗戦によって崩れ、本当に悩み苦しみ、いろいろな思想を学びつつも平安を得られず、たまたま通りがかった改革派教会の看板に興味をもってその門をくぐった、そこからキリスト信仰へと導かれた、ということでした。そこで聞かされたのは、生けるまことの神から離れた人間の労苦のゆえに助けを求める叫びと、そこから救われた体験でした。ひとことで言えば救済体験、それも強烈な救済体験でした。これを何度も聞かされて、息子として思う所はいくらかあったとはいえ、何はともあれ、このことは自分の信仰形成にとって、とても大きなものだったことは間違い

ないと思っています。これはいわば各家庭における信仰の語り継ぎ、という作業だと言えるかもしれません。過越祭でも、子どもの質問に親が答える、というのは、各家庭で行われることでした。

しかしこのことは、ひとつの家庭で行われるだけでなく、イスラエルの民全体で行われることでした。同時にそこで語られるメッセージも、個人的な救いの体験にとどまらず、それをも含みこむ、民全体の救いの体験でした。みんなに共通する福音のメッセージ、そしてそこで行われるのは過越しの儀式という、共通の信仰の行為でした。イスラエルの民はエジプトでファラオに仕える労働に苦しみました。しかし今度は神さまから命じられた過越祭という、神さまに仕える喜ばしい労働を行うのです。それは救済体験を語り継ぐという、神の民が行う儀式、神に仕える喜ばしい労働でした。ですから過越し祭は、形式的な儀式ではなく、救済体験を語り伝えるという命あふれる喜ばしい営みです。その救済体験に、ひとりひとりの人生が導き入れられていくのです。そこにひとりひとり十人十色の求道や洗礼に導かれる人生経験が生まれるということが出来るでしょう。過越祭は、現代において、教会の福音宣教、信徒教育、次世代の信仰者を育てる働き、教会学校といった、教会の働き全般に受け継がれていると言ってもよいのではないのでしょうか。

そこには信仰者の家庭の子どもたちだけでなく、未信者の御家庭から教会に導かれる子どもたちも当然入ってきます。そして同じ神さまの救済の御業にあずかっていきます。そのために教会学校は勿論、教会の働き全体が用いられるのです。出エジプト

記12章に記された過越祭の制定は、そのことを指し示すとても重要な出来事です。

イスラエルの民が神さまからの裁きを免れ、エジプトの奴隷生活から解放されるためには、小羊の血が流されなければなりません。それはいうまでもなく、主イエス・キリストの贖いの犠牲を指し示しています。神の御子が私たちのために血を流して下さらなければ、私たちの救いはありませんでした。イスラエルの民が小羊の血を家の門の柱と鴨居に塗るように命じられたことは、その犠牲の血が必要であったことを、民に見せるものでした。そして子どもたちに語り伝える過越しの儀式の内容も、門の柱と鴨居に塗られた小羊の血、その犠牲を見せることと同じでした。教会学校はもとより、教会が語り伝える救いのメッセージは、私たちのために十字架に血を流し、およみがえりになられたイエス・キリストを、信仰の目をもって見ることに繋がっていきます。すべてがキリストに向かっていく、それが教会の働きであり、私たちの信仰生活です。そのために教会学校も行われていくと言ってよいと思います。

自分自身が育てられたことを思い起こしますと、教会学校教育、主日礼拝、そして礼拝説教、教会の主にある交わり、中会や大会が行う高校生会、学生会、青年会、それらすべてが用いられてきました。また、はじめて都会に出て一人暮らしを始めたときも、迎え入れた下さった教会の主にある交わりがありました。教会員特に役員の方々が、御家庭の食卓に招いてくださいました。そうしたことをすべてが用いられて、

一人のキリスト者が育てられていくのだと思います。私自身が受けた恵みを省みて、そう思います。教会学校の働きは、子どもにとってその一番基礎的なところを担っているように思えるのです。それらの働きはすべて、過越しの小羊としてほふられ、およみがえりになった主イエス・キリストによって支えられています。イスラエルの民が代々にわたって継続してこの儀式を守り、次の世代にその意味を伝えるように命じられたその御命令を、私たちもまた受け継いでいるのです。信仰継承が思うようにいかなくても、近隣の子どもたちがなかなか集まらなくても、特別な行事の時には来ても、普段なかなか継続しなくても、結果は主に委ねて、子ども伝道、教会における次世代への信仰継承の働きを、続けていきたいと願っています。

最後にもうひとつ。教会学校に来ていた子どもたちが成長していった後のことも心にあります。それぞれ青年期を迎えた子どもたちが生涯にわたって信仰を持ち続けてほしいと祈り願っています。私自身、自分の子どもたちはそれぞれ成人しています。彼らに対して自分がしてきた信仰教育を振り返ると、思うことはたくさんあります。もっとこうすればよかったとか、あれは子どもたちにしんどい思いをさせてしまったのではないとか、律法主義的になっていたのではないか、など考え出したらきりがありません。しかしこうやったからこういう結果になった、というふうに、原因・結果論で考えるのは慎重にしたいと思っています。それは因果応報の考え方につながるように思えるからです。私たちには説明しきれない面がたくさんあります。それより

も大切なのは、神さまにお委ねしつつ祈り、働きかけ続けることだと思います。子どもたちひとりひとりの人生に対して、神さまの御計画があります。それは私たちの考えをはるかに越えたものです。私たちが気付いていないところで、あるいはまだ知らないところで、私たちの予想を超えた神さまの御業があるかもしれないのです。私たちはただ、そのときそのときに、主によりたのんで出来る限りの信仰教育に励み、その上で主にすべてを委ね、福音を携えて子どもたちに関わっていくほかないのだと思

ます。そして私たち自身が、復活の主イエス・キリストに人生の方向をしっかりと定めて生き、そして信仰の生涯を全うすることが、私たちの道なのです。私たちのために血を流してくださった主イエスによる赦しをいただいて、ただひたすら主の救いを語り継いでいきましょう。それが私たちに主が命じておられることなのですから。

「あなたたちはこのことを、あなたと子孫のための定めとして、永遠に守らねばならない」(出エ12:24) (豊明教会牧師)



連載

## 教会学校教師のための説教準備ガイドⅢ

牧野 信成

### 〈説教原稿作成 その1〉

今回は説教準備の事例として、78号に掲載されたテキスト（7月12日分）を元と一緒に作業を進めます。

主題は『子どもと親のカテキズム』問6で、聖書のテキストは新共同訳新約聖書テモテの手紙二3章10～17節です。まず、聖書のテキストから手をつけてみましょう。

10 しかしあなたは、わたしの教え、行動、意図、信仰、寛容、愛、忍耐に倣い、11 アンティオキア、イコニオン、リストラでわたしにふりかかったような迫害と苦難をもいといませんでした。そのような迫害にわたしは耐えました。そして、主がそのすべてからわたしを救い出してくださったのです。12 キリスト・イエスに結ばれて信心深く生きようとする人は皆、迫害を受けます。13 悪人や詐欺師は、惑わし惑わされながら、ますます悪くなっていきます。14 だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、15 また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。16 聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。17 こうして、神に仕える人は、どのような善

い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。

一度黙読したら、声に出して読んでみましょう。それから、特に重要と思われる語句に印をつけてみましょう。調べておく必要のある語句にも注意しておきましょう。

この箇所の前後の文脈を確認しておきます。10節からしてテモテはパウロの生徒であることが明らかです。この手紙はパウロが愛弟子であるテモテを誤った教えから守り励ますために書き送られたものです。3章1～9節では、世の終わりに直面した今という時の困難が教会を襲う様子が描かれます。教会の人々が形ばかりの信心を装うようになり、イエス・キリストの御心を損なうような振る舞いが蔓延していると指摘します。しかし、パウロら使徒たちから学び、聖書にも親しんでいるテモテはそういう者たちとは異なり、真実な道を歩んでいる。だから、その道から離れないようにとパウロは愛を込めて勧めの言葉を与えているのがこの段落です。4章以下ではさらに具体的な勧めが続きます。パウロの仕事でテモテが引き継ぐことを願って強い言葉で御言葉を伝える宣教の勧めをします。

### 〈ステップ その2 聖句の検討〉

10節に「行動」とある言葉は、他の翻訳では「生き方」としている場合が多くある通り、パウロの生き方全体が、テモテにとつ

て、キリストに仕える僕としてこの上ないお手本でした。パウロの「教え、行動、意図、信仰、寛容、愛、忍耐」という生き様全体については、パウロの書簡全体から学ぶ必要がありますが、一言で言うなら、それはイエス・キリストに習う事でした（例：フィリピ1章20・21節など）。ですから、イエスが十字架への苦難を忍ばれたように、パウロにも迫害に耐えねばならない試練が降りかかりました。「アンテオキア、イコニオン、リストラ」での迫害については、使徒言行録13章と14章に記されています。テモテがパウロによって見出されたのはその後のことですが（使徒16：1）、テモテは宣教の務めの厳しさに臆することなく、パウロと行動を共にしました。

信仰者が受ける「迫害」については旧約聖書にもいくつもの言及があります。パウロが12節で述べている背景には神の民イスラエルの証があります。コンコルダンスで調べると次のような箇所が見つかります。申命記30：7、士師記2：18、エステル8：11、9：2、詩69：27、詩119：84,86,150,157,161,142：7、エレミヤ15：15,17：18,20：11。この全てを開いてみる価値がありますが、とりわけ詩編は、その苦しみからの解放を願う切実さを訴える点で、イエスとパウロの信仰のお手本と言えるでしょう。特に詩編119編は、迫害の中で御言葉にすがる真の信仰を教えてください。そこにある通りの救いをパウロは経験して、主に結ばれて生きることの確かさを得たのに違いありません。

13節にある「悪人・詐欺師」の墮落ぶりも、パウロがただ自分で見聞きしたことでなく、上記の御言葉から学んだことに違いありません。だから、テモテに対しても

強く聖書の勧めをするのでしよう。

イエス・キリストに対するパウロとテモテの信仰は、聖書を堅い基盤としていることが14節以下からわかります。人が惑わされて悪に落ち込むのは、その基盤が確かでないからです。聖書に対するテモテの信仰は親から受け継いだものであり（1：5）、パウロら先輩の教育によって育まれたものです（2：2、3：19）。

15節後半から16節にある聖書への言及は、聖書靈感論の根拠としてよくあげられるので、後ほどカテキズムで確認しますが、ここでは悪に対抗するための手段としての聖書の効用がテモテへの訓戒として述べられていることをおさえておきます。

17節の「神に仕える人」は他の翻訳では「神の人」となっています。この語法は旧約聖書ではモーセやダビデなどの預言者に用いられますが（申命記33：1、ヨシュア記14：6、詩編90：1、エレミヤ35：4など）新約ではこの他にはテモテへの手紙一6章11節でパウロがテモテに対する呼びかけとして用いるだけです。それで、これはキリスト者全般を指すのではなく、パウロやテモテのようなキリストの務めに召された働き手を直接的には指すものと言えます。そこを汲み取って「神に仕える人」という訳が成り立つのでしよう。これを信徒一般に広げるには、主の僕として召されている教会員全体がこの務めを負うとの教会論が必要になります（『子どもと親のカテキズム』問44など参照）。

以上のような考察には、『実用聖書注解』（いのちのことば社）、『新聖書注解・新約3』（いのちのことば社）、フランシスコ会聖書研究所訳注『聖書・原文校訂による口語訳』などの解説が役に立ちます。

### 〈ステップ その3 教理の検討〉

先に触れた通り、16節の聖句は聖書靈感論の論証聖句に取り上げられます。パウロの言う「聖書」は旧約聖書のことですが、それはすべて「神の霊の導きの下に書かれ」た、とあります。新しい聖書教会共同訳や新改訳2017、上記のフランシスコ会訳はすべて「神の靈感によって書かれた」と率直に訳していますが、原文は「神の息吹による」という表現です。この言葉の解釈は聖書全体を考慮に入れて判断しなければなりません。私たちの教会ではここに神の言葉の権威を認めてきました。袴田清子姉が掲げた教理問答の箇所はそれを指示しています。加えて『ウェストミンスター信仰告白』1・4を引用しておきます。

「聖書がそのために信じられ服従されねばならないところの聖書の権威は、どのような人間や教会の証言にも依拠せず、(真理そのものであり)その著者であられる神に、全く依拠する。従って聖書は、神の御言葉であるという理由から、受け入れられなければならない」。ここで参照されている聖句は、2ペトロ1:19、2テモテ3:16、1ヨハネ5:9、1テサロニケ2:13です。合わせて同信仰告白の1章全体とその解説書を参照しておきましょう。

### 〈ステップ その4 パラフレーズ〉

では、以上のような調査を踏まえて、パウロの語る御言葉を、説明を加えながら書き直してみましょう。

キリストの僕パウロは弟子のテモテに手紙を書き送って言いました。神が定めた終わりの時代には人々の心が神から離れ、キリストを信じる教会には厳しい時代がやってきます。人々は神を畏れなくなり、互い

に傷つけあい、キリスト者であっても信仰を捨てたり、神に逆らったりし始めます。だから、(テモテ)あなたは周りに流されないように、私(パウロ)に習い、今までと同じようにキリストに従う信仰を守り通してください。イエス・キリストに従う者には、主イエスと同じような苦しみが試練として与えられますが、あなたが受け継いだ信仰は確かで、同じ信仰に生きる教会の仲間たちもいるのですから、聖書を学ぶことにますます精進して、自分と兄弟姉妹のために、主から与えられた務めを全うしてください。神を恐れぬ人々は聖書を軽んじて学ぼうとしませんが、聖書は主の救いを確かにし、主イエスが今も生きて働くために神が私たちにお与えになった恵みなのです。神の救いのご計画は、私とあなたの上に働いて、終わりを目指して確実に進んでゆきます。人を恐れず、裁き主である神を畏れて、神の言葉を伝える働きをたゆまず教会で続けましょう。

以上は、そのまま説教になりそうですが、これはまだ下書きです。

### 〈ステップ その5 梗概をつくる〉

では、説教原稿を書き始める前に、全体の見通しを立てておきましょう。

テーマ：道の光としての聖書・聖書の内容序。どうして世界には悪いことが多いの？

1. パウロが働いた時代とその教会
2. イエスさまと神さまの救いのご計画
3. 教会で生まれたテモテの信仰
4. 聖書を道の光として歩む

今回は、解説を加えながら、実際に説教原稿を作成してみます。

(教案誌編集部・長野佐久伝道所)

連載

# 長老の持つべき資質・モラル&常識 (1)

——御言葉と政治規準から——

豊川 修司

## 序論 本論の目的

日本キリスト改革派教会創立70周年記念宣言の序文を読みますと、今の教会を取り巻く政治・社会情勢はかつてないほど緊迫しています。宣言はこのような環境に生きる教会・会員が社会に押し流されることがなく、「福音に生きる」ことと「善き生活」を目指して歩むことを奨めています。

現実的に長老方は、多忙な日常を送っている中で、牧師と共に教会の運営・群れの世話する働きをしていますが、時には教会がトラブルになったり、長老自身が疲弊することがあります。今まで多くの教会・伝道所でそのような現象を見てきました。

そこで、社会人・長老・牧師の経験から、証も含めて「教会を牽引する長老の資質・モラル&常識」を共に考えてみます。極言ですが、教会は長老の働きなくしては福音の前進はありません。よって、本稿は長老のみでなく、執事および伝道所委員にも読んでいただきたいと願っています。

## 1. 御言葉から学ぶ長老の資質

(1)主の御声に聞き従う (サムエル記上15:22~23)

「サムエルは言った。『主が喜ばれるのは焼き尽くす献げ物やいけにえであろうか。むしろ、主の御声に聞き従うことではないか。見よ、聞き従うことはいけにえにまさり、耳を傾けることは雄羊の脂肪にまさる。反

逆は占いのらない占いの罪に、高慢は偶像崇拜に等しい。主の等しい。主の御言葉を退けたあなたは王位から退けられる。』

(2)へりくだって神と共に歩む (ミカ書6:8)  
「人よ、何が善であり主が何を前にお求め、られるかはお前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神と共に歩むこと、これである。」

(3)神と人に仕える (ルカ22:26)

「しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようにになりなさい。」

(4)キリストの謙遜に倣う。へりくだりと従順 (フィリピ2:3~8)

「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。」

「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」

(5)高慢は神の敵、謙遜に歩む（ペテロ一5:5, 6）

「同じように、若い人たち、長老に従いなさい。皆互いに謙遜を身に着けなさい。なぜなら、『神は、高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる』からです。だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。」

(6)役員は信頼されること（コリント二7:15, 16）

「テトスは、あなたがた一同が従順で、どんなに恐れおののいて歓迎してくれたかを思い起こして、ますますあなたがたに心を寄せています。わたしは、すべての点であなたがたを信頼できることを喜んでいきます。」

## 2. 政治規準、職務の原点を忘れない。

政治規準第9章(治会長老)の条項をじっくり読み、小会で学びましょう。

### 第52条（治会長老）

旧約時代の教会に民の長老が立てられていたように、新約時代の教会にも長老が立てられている。キリストは、御言葉の教師以外に教会員の中から治会の任を託し得る人々を教会のために備えられた。これを治会長老と言う。

### 第53条（治会長老の職務）

- 一 治会長老は、教会員を代表するために教会員の中から選ばれ、教師と共に各個教会の政治と訓練を行い、靈的状态を見守る。
- 二 治会長老は、小会で選ばれた場合、中会議員あるいは大会議員として議会権

能を行使する。

- 三 治会長老は、教会の会議において、教師と同等の権能を有する

### 第54条（治会長老の資格）

この職務を担当する者は、健全な信仰を持ち、家をよく治め、生活に恥じるところがなく、言葉と行いにおいて、群れの模範である者でなければならない。

### 第55条（治会長老の任務）

治会長老が、長老として個別的に、あるいは小会議員として共同的に行う任務は、次のとおりである。

- 一 ゆだねられた群れの中に、教理と道徳の腐敗が生じないように見守ること。
- 二 個人的訓戒によって正し得ない悪事を、小会に知らせること。
- 三 教会員の家庭を訪問し、病める者を見舞い、悲しむ者を慰め、教会員を教え、契約の子を養い守ること。
- 四 個々のキリスト信者が愛の律法によって果たすべき一切の義務を、特に治会長老として果たすこと。
- 五 教会員と共に、また教会員のために祈ること。
- 六 説教の結ぶ実を、注意深く見守ること。
- 七 教会員の身体的・靈的問題で、牧会的配慮を要する事柄を、牧師に知らせること。
- 八 御言葉を教えることに努め、教会員に率先して伝道すること。

## 3. 教会紛争から学ぶ「牧会事例研究報告」 一読の勧め

(1)牧会事例研究とは

わたしが長老の働きをしていた時代、幾

つかの教会で教会トラブルが発生しました(今も時々発生しています)。

当時の連合長老会は、助言教師の指導を仰ぎつつ、「教会の伝道と牧会を推進する専門部会」を立ち上げ、その下に「牧会小部会」を設置しました。その目的は「牧会事例法記憶」のまえがきに記してあります。

「牧会小部会の研究テーマは、主に教会紛争の事例研究であり、この中で治会長老の職務の在り方を学んだ。当所、先輩長老からこのテーマを扱うことに関し疑問が出された。これに対し、教会にはトラブルがあることを前提に、これを客観的かつ建德的に研究し、事例から教訓を学びトラブルを未然に防ぐことに役立てることが狙いがある。よって、首都圏の諸教会が健全な教会形成を目指すための研究である旨、テーマ選定の目的の理解を得て調査・研究に入った。」とあります。(※1988年2月14日「牧会事例研究報告—教会紛争の未然防止のために—」教会の伝道と牧会を推進する専門部会 牧会小部会発行)

#### (2)牧会事例報告の大切なポイント

今、教会で何が起きているのかを。

- ①教会紛争で牧師又は長老が教会を去る。
- ②長老が2名以下になり、教会から伝道所に種別変更される。

#### (3)長老が気を付けること

- ①牧師のメンタル・ケア(ストレス・うつ)に気を配る。(心の健康)
- ②牧師の疲弊(ひへい)を見逃さない。
- ③牧師と長老のコミュニケーションが上手くいっているか。
- ④小会／牧師／長老も相談できる教師を持つこと。

⑤教会トラブル(紛争)は必ずある。でも、紛争を起こさないように小会内で努力する。

⑥牧会事例研究報告を次世代に引き継ぐこと。

#### (4)教会会議の心得

- ①意見をはっきり伝える。
- ②意見の強い人の会議にならない。
- ③牧師のイエス・マンにならない。
- ④感情的にならない。
- ⑤相手の意見を聞いて、自分の考え方を修正していく。
- ⑥箴言に学ぶ知恵 15、16章全体を読みましょう。

### 4. 長老が心得ること

#### (1)先輩長老に見倣うこと。

長老には模範となる多くの先輩長老がいます。彼らの信仰、群れを見守る知恵、困難を乗り越える忍耐など、多くの経験を持っています。彼らを見習うことをお奨めします。

#### (2)意見の衝突を避ける

長老は牧師と会議の機会が多く、時には議論の衝突があります。傲慢になったり、意見を無理やり押し付けたりしてトラブルになることがあります。どの様な状況になっても、怒ったり、激情して大切な霊的案を破壊しないように注意が必要です。まずは一にも謙遜、二にも謙遜です。(ペテロ一5:5, 6)

#### (3)牧師と距離を置く

牧師に協力するとかしないということではなく、日頃から牧師にべったりしないこ

とです。これが強いと、いろいろなことを頼まれたり、長老（役員）を越えて個人的な関係になり、公的な意見が言えない状況になってしまいます。私の長老時代の心の距離は、「牧師とは接せず、離れずの等距離外交」というスタンスでした。牧師になってからも「長老とは接せず、離れず」の姿勢で、長老の時も牧師になってからもスタンスは同じです。それは小会で問題が発生したとき、きちんと立場を表明できるからだです。長老は群れの代表ですから常に立ち位置を心得ましょう。

## 5. 本稿の結論、長老の人間性

### (1) 驕り高ぶらない。

いつの間にか注目され、「長老、長老」と呼ばれることに自己満足し、自分を誇る姿勢が目立つようになる。仕えるより仕え

られることを好む。高慢は神の最高の敵、長老もこのような状況に陥る時があるのです。

### (2) 御言葉に聞き従う

長老として人間が行っている業であり、人間の考えに左右されることがある。だから御言葉に聞き従って歩む長老を目指す。特に社会経験の多い長老は、ややもするとこの世の基準を教会に持ち込む恐れがあるので、注意が必要です。

### (3) 御言葉が示す長老の人格・人間性の向上を目指す。

### (4) 究極は神・キリストの愛に基づく（一コリント13：1～13）。

（東部中会引退教師 宇都教会代理牧師）

連載

## 障がいのある人と共に (2)

申 成 日

### 第1課 教会と障がい者

#### 1 心のバリアフリー

英語で「バリア (Barrier)」とは、「障壁」「防壁」「障害物」と訳せる言葉です。したがって「バリアフリー (Barrier free)」と言うならば、それはこのような障壁や障害物がないことから、「対象者である障がい者を含む高齢者等が、社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障害や、精神的な障壁を取り除くための施策、若しくは具体的に障害を取り除いた事物および状態を指す用語」と定義します (フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

一般的に「バリアフリー」と言うならば、建物の段差を無くして車いすの人も自由に出入りすることが出来ることを考えていますが、それだけではなく精神的な障壁 (障害物) も取り除く、心のバリアフリーも必要だと思えます。

特にキリスト教の礼拝堂は、キリスト教信仰を求めて共に集まる場所です。教会が建物 (礼拝堂) を意味するのではなく、「信じる者の集まり」として考えているように、教会としてのバリアフリーも建物のバリアフリーは勿論、そこに集まっている人々が共に喜んで信仰生活が出来るような、心のバリアフリーが必要だと思えます。

障がい者が教会の中で感じるバリアはどんなことがあるのでしょうか。いろいろあると思いますが、一言で言うならば皆同じことをしなければならぬことだと思いま

す。

例えば、礼拝の中では立つ時と座る時があります。多くの教会においては※印などを付けてこの時は立つように案内しています。でも立ちたくても立つことが出来ない、あるいは立つのが辛い方がいます。これに心配することで「立つことが出来ない方は結構です」というようなコメントを司式者が言うこともあります。でもよく考えるならば、このコメントも「立つことが出来る側」の言葉です。障がい者の側から言うと「私は立つことが出来ないんだ」というネガティブな思いが生じるはずです。

広島教会では、このことにならないように「立ちたい方は立ってください」という文言に変えたことがあります。これはまた逆の立場の人に重荷を与えることになりました。今は「※印の時、起立・着席はご自由に行ってください」という文言で落ち着きました。

障がい者でなくても年を取ると礼拝中立つことがとても辛くなる場合があります。昔は座って讃美歌を歌うことに反対した方も、本人が年を取ると立つことが辛くて、座ったまま礼拝に与りたくなくなります。

神さまは決して立って歌う讃美歌のみを喜んで受け入れてくださるとは思いません。一緒に礼拝をささげる者が、心一つにして喜んでささげる礼拝を神さまは望んでおられるでしょう。



## 2 信仰のバリアフリー

教会には、多くの信仰的背景を持っている人が集まっています。最初から改革派教会でずっと育た人がいるならば、また他の教派、教会で信仰生活をし、途中会員となられた人もいます。また、信仰歴の古い人、浅い人、その性格によって情熱な信仰を持つ人や静かな信仰を持つ人もいます。そして、その人の様々な背景がその人の信仰を色づけています。

障がい者は、やはり聖書に出て来る病人、障がい者に関心が深かったり、人権問題などに強い関心を寄せる方もいます。また、知的障がいや発達障がい、精神障がいを持つ方は、あることに強いこだわりを持つこともあります。さらに自分の言葉で信仰を表すことさえできない方もおられます。しかし、そのような方でも暖かく受け入れることのできる信仰共同体が必要だと思えます。

以前通ったある教会にはダウン症の障がいを持っている少年がいました。礼拝中讃美歌を歌う時になると、彼はいつも会堂を回って踊ったりしました。それは彼なりの神さまに対する信仰だったのです。しかし、ある人にとってはそのような行動を受け入れられないこともあるかもしれません。

またある人は精神障がいを持っていて、礼拝後いつも泣いていました。聖書の言葉がすべて自分を責めていると思っていたので怖かったそうです。これは決して信仰が弱いからではありません。その人が持つ精神障がいによって起こることです。そのことを理解して受け入れる教会でありたいです。

## 3 主に在って共に生きる

新約聖書の中には教会における多くのバリアが記されています。ユダヤ人クリスチャンと、ギリシャ人クリスチャンのバリア（使徒15章）、パウロ派とアポロ派のバリア（コリー3章）、偶像に供えられた肉を食べる人と食べない人のバリア（コリー8章）、特定の日を重んじることに對するバリア（ロマ14:6）など、同じイエス・キリストによって救いに与っている人々が、様々なバリアによって一つになれない姿があることを聖書は語っています。

しかし、パウロは語っています。「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」（エフェ2：14～16）

主イエスは実に、十字架の御業によってすべての壁（バリア）を取り壊し、平和を与えてくださいました。教会がイエス・キリストによって救われた人の集まりであるならば、すべての心のバリア、信仰のバリアを取り壊し、皆が快く集って共に生きる信仰共同体を作るために努めて行きたいと願います。

## 第2課 弱さを助け合う

### 1 創造の傑作としての人間

神がお創りになった人間はどのような存在でしょうか。聖書は「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」（創世1:

27) と言っています。この世のすべてのものを造られた神は、特に人間を御自分にかたどって造られました。それは神にとって最も大切な存在であることを物語っています。

神によって造られた人間の中には、男と女がいます。その男と女を通して子孫が与えられ、家族が形成され、親族が生じ、また民族が生まれます。人類の歴史がそこから始まったのです。そしてその人類の歴史が始まった以来、多くの人が生れましたが誰一人同じ人はなく、皆違う人が生まれました（創造されました）。神はその一人一人を大切にしてください。

その大切な人の中には、障がい者も含まれています。見た目は他の人と違ってびっくりしたり、好奇心を誘発したり、醜いと思うことがあるかもしれませんが、神の目から言えば、それは尊い神の被造物であり、神が愛しておられる魂であることは言うまでもありません（イザ43：1～4）。

そのことを考えるならば、神がこの世に生を与えてくださった人を私たちは大切に接しなければなりません。そこにおいてどんな偏見や差別もあってはいけません。もちろん個人的な好みまで禁じることはありません。ただ一人一人の魂が神の最高の傑作として造られたものであることとして認め、その人格を尊重することを神は望んでおられます。

ヨハネによる福音書9章に出てくる生まれつき目の見えない障がい者について、主イエスは「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と語られました（ヨハ9：3）。神はその障がいを持っている人を通してご自身の栄光のために御業を現

わす方です。人はどのような人であれ、神がその人を創造した目的があるのです。

## 2 罪人としての人間

人が神御自身にかたどって創造されたという尊さがある反面、また人はアダムの罪によって入ってきた罪の本性を持って生まれる罪人であることも私たちは認めなければなりません。それは神を神として認めない、神が悲しまれる方向に赴く人間の姿です。

この罪の本性は人間の靈魂と肉体すべてに及び、自分の力ではその状態から抜け出すことが出来ないほど墮落しました。この世に生きるすべての人々は根本的にこのような状態に置かれている人間であることを私たちは認めなければなりません。

それは普通の健常者だけではなく、障がい者も同じです。また生まれたばかりの赤ん坊も例外ではありません。そのことを考えるならば、この世に生きるすべての人々は神を悲しませる罪を犯す余地が十分であることを私たちは認めざるを得ません。

そういう意味で、私たちはある人に対して「その人は罪を犯すはずがない」と絶対化してはいけません。誰よりも善い業を率先して行う人であってもそうであるし、罪を犯すことなど考えられない障がい者や赤ん坊でさえそのように思っただけでいいけません。それは言い換えるならば、この世のどんな人でもイエス・キリストによる罪からの救いが必要であることを物語っています。

## 3 助け合う人としての人間

神が男を造り、彼のあばら骨を取って女を造ったのは、「人が独りでいるのが良く

ない。彼に助ける者を造ろう」と思っておられたからです（創世2：18）。アダムの罪によって弱さを覚えながら生まれるようになったすべての人間は、なおさら助け手が必要でしょう。人は助け合うことなしにはこの世で生きることが出来ません。

「障がい者」という名称から感じることは、自らバリア（障害物）を持っているというニュアンスがあります。他の人と共に生きることが出来ないのは、自らバリアを持って、そのことで普通に生きることが出来ない人が障がい者だと勘違いすることがあります。

しかし必ずしもそうではありません。体や心の病気などを持っている人に対して、自分と違うからと言ってバリア（障壁）を立ててしまう健常者がいるから共に生きることが出来なくなってしまうことだってあるのです。

言ってみれば、この世で健常者は一人もいません。何よりも聖書が「正しい者は一人もいない」と言っているように（ロマ3：10）、皆が罪人であるし、弱い者でありますのでお互いに助け合わないと生きることができません。

事実、「障がい者」と言われる人は何の役にも立たない人間ではありません。私たちが感じないことが多くありますが、障がい者も多くの健常者を助けて生きています。素晴らしい音楽を作ったベートーヴェンは聴覚障がい者だったし、アインシュタインも自閉症の発達障がいを持っていたと言われています。そのような障がい者が人類に残した遺産は本当に大きなことです。

有名な人でなくても、あなたの身近なところにいる障がい者も必ず他の人々のために良き役割を果たしているはずです。なぜ

ならば、神は一人一人をそのようなことを通して神の栄光を現す者として創造されたからです。

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。」（ヨハ一4：10～11）

聖書は、私たち人間が共に愛し合う根拠として、神がイエス・キリストを通して示してくださった愛を取り上げています。この愛すべき人の中には何の条件も含まれていません。もし、そこに何か条件が含まれているならば、もしかしてあなたも神の愛される対象の中に入ってなかったかもしれません。

差別や偏見なく、ただ神が愛するが故に、愛し合い助け合う私たちになりたいと願います。

### 第3課 神の国と障がい者

#### 1 障がい者の洗礼・信仰告白

神さまがすべての人々にイエス・キリストによる救いを与えてくださるならば、それは障がい者にも例外はありません。障がい者にもイエス・キリストを信じて救われるチャンスがあるし、権利があります。それは、私たちの福音伝道の対象の中で障がい者も含めないといけないうことを意味します。

そのことに異議を唱える人はあまりいないと思いますが、しかし、精神障がいや発達障がいを持っている人の場合は、最初から「解らないでしょう」と決めつけて福音を伝えることに躊躇する場合も少なくあり

ません。言葉で解からない場合は他の手段を用いるなど、その人に合った方法を取らなければなりません。

障がい者の中には、信仰者の家族によって教会に来られる人や幼児洗礼を受けている人もいます。そのような障がい者の洗礼式や信仰告白式を行う場合、その人の信仰はどのように確認することが出来るでしょうか。

言語障がい者の場合は筆談などを用いたり手話を用いることができます。しかし、発達障がい者の場合、意志相通もできずその信仰を確認することがなかなか難しい場合もあるでしょう。

教会はそのような人の場合は、一回の試問ですべてを判断しようとするのではなく、その人の毎主日の礼拝の姿勢や家庭における信仰生活を確認する必要があります。何よりも、神がある信仰者の家庭に与えてくださった一人の魂を通してなさろうとする神の御心を祈りの中で吟味し、信仰の中で洗礼式や信仰告白式を行わなければなりません。そして、そのことを通してもたらされる教会の益を見守る必要があります。

そういう意味で、障がい者の洗礼式や信仰告白式は、教会の信仰を試すことであり、教会が大きく成長する切っ掛けとなるでしょう。一人の障がい者が、一人の信仰者として信仰共同体に公に受け入れられる儀式です。他の人々の信仰がなければそのようなことは簡単にはできないはずです。中風を患って寝たきりになり友人たちによって床ごとにイエスのところに運ばれて癒しを求めた人の話を覚えてください。主イエスは、障がい者の信仰のみならず、彼を助けて人たちの信仰をご覧になったのです

(マル2:5)。

## 2 障がい者の死

人は誰でもこの世において死を迎えます。死は愛する人との別れですから寂しい思いや悲しい思いもあるでしょう。一般的に障がいを持っている人とそうでない人の平均寿命は差があると言われていています。ある統計によりますと、発達障がい者の寿命は一般的より十九歳短く、精神障がい者は一般的より二十二年以上短いそうです。ちなみに身体障がい者の平均寿命はあまりその統計がないそうです。

とにかく、全体で見ると障がい者の平均寿命は短く、親より障がいを持っている子が先に亡くなることも少なくないでしょう。短い生涯、しかも障がいをもって様々な差別、偏見、不便さを耐えながら生きた人生を考えると悲しさもあり、悔しさもあるかもしれません。死そのものがすべての終わりであると思うならば、それは送る側としてはとても悔いの残ることでしょう。

発達障がい児を持っている私たち夫婦の素朴な願いの一つは、息子より一日でも長く生きたいことです。愛する息子を先に天に送ることはとても悲しいことですが、しかし、そのような息子をこの世に残して先に絶つことはもっと辛いことだからです。障がい児を持っている多くの親がそう思うでしょう。この世の社会福祉が完全でない限りこの思いは続くと思います。

しかし、信仰者の死はそれですべてが終わりではありません。神の国における祝宴が待っています。だから、キリスト教の葬式においては、必ずしも寂しさや悲しみだけが募るのではなく、そこには御国におけ

る希望や喜びもあります。多くのクリスチャンがイエス・キリストの復活のように、復活の希望を抱きながら死を迎えるし、またその希望を待ち望みながら愛する人を天に送るでしょう。

### 3 朽ちない体への復活

その時、具体的に復活とはどういうことなのかを考えることもあります。身体障がいをもっているクリスチャンが復活する時、「同じ障がいを持っている体で復活するならば、復活しない方が良い」と思うこともあるかもしれません。

聖書は、復活する体がどんな体なのかを示しています。「死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然

の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。」(コリ15:42~44)

この「朽ちない輝かしい体」とはいったいどういう体なのかと言うならば、まだだれも経験したことがないので言うことができません。しかし、はっきりと言えることは、神の国においては痛みも、苦しみも、悲しみもない、また永遠に死ぬことのない、イエス・キリストと同じく栄光ある体として復活することです(フィリ3:21)。

キリスト教信仰は復活を信じる信仰です。それはイエス・キリストの復活を信じる信仰であり、またそれを信じる者もイエス・キリストのようなやがて復活し、神の御国において永遠に生きることを信じる信仰です。

私たちのような罪深く、欠けの多い者に、イエス・キリストによる救いと御国への希望を与えてくださった神を私たちは常に褒めたたえたいと思います。(広島教会牧師)

## 教会学校紹介

## ようこそ、日曜学校ツアーへ

川瀬 真美

都心から急行電車で約20分、春には桜が咲き誇る自転車道を少し歩くと、右手に見えてくるのが花小金井教会です。今日は教会学校訪問ということで、ここでの子どもたちの様子をご紹介します。

時刻は9時45分、そろそろ礼拝前の分級が始まります。中へどうぞお入りください。

芝生や色とりどりの花が美しい花壇の間を歩いて教会に入り、右手の階段を2階に上がると……楽しそうな声が聞こえてきましたね。



月2回のキッズクラスは、小学校に入る前の子どもたちの時間です。本を読んだり、ゲームをしたり、手遊び、工作、花小金井教会名物の斉藤先生制作のビデオ紙芝居もあります。



子どもたちは楽しみながら聖書を学ぶこ

とができます。「主の祈り」をスラスラ暗唱して、十二使徒の名前もぼっちり！



キッズクラスでは年1回、拡大版として、いつもの内容だけでなく賑やかに楽器演奏をしたりする日もあります。去年の拡大版キッズクラスには教会近くに住む幼い子たちも参加してくれました。

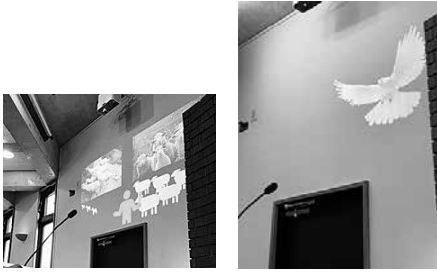
さて、もうすぐ10時半、礼拝が始まります。下の礼拝堂に行きましょう。

礼拝では説教の前に子どもメッセージがあります。教壇の前に集合して、元気にお挨拶！ 毎週新しい暗唱聖句をテーマにジュン先生がいろいろなお話をします。



プロジェクターを使って視覚的にも分かりやすいですね。ジュン先生と子どもたちのやり取りが面白いこの時間を大人も楽し

みにしています。



聖書の言葉は悪魔と戦うための武器、ジュン先生の「先週の少し長めの暗唱聖句、覚えている？」の質問に、おや、後ろで聞いている大人はなにやら苦笑いですねえ。Y君はちゃんと覚えていて堂々と暗唱。暗唱できるとシールがもらえて、ポイントがたまるとメダルが授与されます。パイプオルガンで第九の「歡喜の歌」が演奏されて、メダルをもらった子は嬉しそう。金メダルを目指して頑張りましょう！



子どもメッセージが終わると、小学生は2階に上がります。

説教の間はジュニアクラス、小学生が毎週違う担当の先生と聖書を勉強します。基本のテキストは「こどもきょうりもんどう」をベースにした、オリジナルのテキスト。これは大人である教師が勉強するにもとても良い教材だそうです。

先生それぞれの個性があるクラスは、時に真面目に、時に友達のように。学校での様子を聞いたり、つつい話が脱線することもあります。何か一つでも重要なことを学んでほしい、という思いで毎週学びを続けています。

説教が終わる頃、ジュニアクラスの子が

会堂に戻ってきます。今日のお勉強はどうだったかな？あとはみんなと一緒に礼拝を最後まで守ります。元気に使徒信条を唱える声が聞こえてきますよ。献金も小さな手に握りしめたお金を袋に入れます。あれ、なんだか少し眠たそう……小さな子どもたちには礼拝は少し長いですね。礼拝の時間が「静かに我慢する時間」とならないように教師会でも時々話し合っています。

礼拝が終わって、月2回は美味しいランチがあります。たくさん食べてね。大きいお姉さんは準備のお手伝いもしています、さすが！

さて、そろそろ解散の時間です。みんな、また来週、元気に教会で会いましょう。

クラスはキッズ、ジュニアの他に、中高生のユースクラスもありますが、今は対象者がいません。いつでもクラスを行う準備はできているので、新しい生徒が来ることを心待ちにしています。

日曜学校では年間を通して楽しく美味しいイベントも企画しています。いろいろなイベントは、普段はあまり接点のない大人と子どもの良い交流の時間です。

春には手巻き寿司パーティー、ヒラメにウニにマグロ、豪華ですね。初夏はパン祭り、この日ばかりは炭水化物を気にしてはいけません。夏はもちろんBBQが恒例です。クリスマスの愛餐会では日曜学校主催ビンゴゲーム（牧師はなかなかビンゴにならないというジンクスあり）が毎年行われ、これは大人の方が盛り上がっているような！



イベントは教会内で行うことが多いので、遠足もいいかもね、と新しい計画も立てています。



アドヴェントの間、教壇前の4本のキャンドルに灯りをともすのも子どもたちの重

要な役目。大人の手を借りながら、神妙な面持ちで火を移します。



さて、ここまでは今年3月までの様子で、その後は新型コロナの影響で礼拝がそれぞれの家庭で行われるようになり、日曜学校のクラスもイベントもお休みとなりました。この文章を書いている6月末の時点では、7月から会堂での礼拝に集う人数を徐々に増やしていこうとしている段階で、まだ日曜学校の活動をどうしていくかは決まっていません。

以前のように活動できるようになるのか、なるとしてもどのくらい時間がかかるのか分かりませんが、教師ひとりひとりができることを考え、また新しい様式の生活の中で子どもたちが教会での時間をどう過ごせるかを模索していこうと思います。どんな状況であれ、子どもたちとその家族の信仰が守られることを祈っています。

(花小金井教会会員)



## 信仰告白の証

## 祈りの実践

小 峯 あ か り

今回、教会学校教案誌の信仰告白の証について依頼を受けて、2020年3月に行われたオンラインでの全国学生会でお話した証を掲載しようと思います。内容はおもに通っている教会で印象に残った説教と、私の好きな御言葉についてです。

早速ですが、皆さんはよく祈る機会があると思います。その祈りが聞き入れられない時、それでもあなたは祈り続けますか？ とてもストレートな質問かもしれませんが、何度祈っても聞き入れられないと感じてしまう時があると思います。そのような時に、この祈りは御心じゃないのかな？ と祈ることをやめるべきなのか、それとも祈り続けるべきなのか、誰しも一度は感じたことがあるのではないのでしょうか。私も、祈り続けてもなかなか聞き入れられない時がありました。それは、見方を変えると、祈ってもすぐに、聞き入れられない時があったのです。そのような時に、日曜日の礼拝の中で、「神さまに祈り続けることの重要性」について知る機会がピンポイントにありました。その時の、説教の聖書箇所は、詩編9：14、15とマタイによる福音書15：21～28の「カナンの女の信仰」についてでした。

このマタイの箇所を簡単に説明すると、悪霊に取り憑かれて、ひどく苦しんでいる娘を持つ母親がイエスさまに助けを求めた時に、何回かシカトされてしまいます。それでもカナンの女性は、何度も何度もイエ

スさまに「主よ憐れんでください」と叫んで、助けを求めて、最終的にイエスさまが、「婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように」とお語りになり、その時、娘の病気が癒されたという箇所です。

この箇所を読むと、何度も神さまに祈ることが大切なんだと感じたりすると思いますが、このカナンの女性の祈りが聞き入れられるまで、実は三つの試練が隠されています。

試練その①カナンの女性が「主よ、ダビデの子よ、私を憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています」と叫びましたが、イエスさまは何もお答えにならなかった。つまりイエスさまは無視したのです。婦人はびっくりしたかもしれません。この方が本当に憐れみ深い方なのか？ ここでつまずき、イエスさまに依り頼むことを辞めてもおかしくないはずですが、けれども彼女はここに目を留めず、これまで聞いてきたことを信じました。私たちも何度も祈っていることが、すぐに聞き入れられないことがあります。この現実を目を留めるのではなく、聖書が語る神を信じて、この婦人の信仰を見習って祈り続けたいですね。

はい、試練その②シカトされても叫びながら、この婦人はイエスさまについて行きました。するとイエスさまは、「私は、イスラエルの家の失われた羊の所にしか遣わ

されていない」とお答えになりました。つまり、あなたは外国人。私はユダヤ人の失われた小羊を救うために遣わされたとおっしゃいました。また、その願いは、神さまを中心として考えるのではなく、自己中心的な祈りなのではないかとおっしゃいました。これを乗り越えることが大切だと説教で言われました。自己中心的な祈りは必ず壁にぶつかります。しかし、祈ることが間違いないのではなく、祈りと共に、祈り方を変える必要があります。このように、またしても拒否された婦人は、それでも、イエスさまの前にひれ伏して「主よどうかお助けください」と言いました。ひれ伏すというのは、拝むということを意味します。主よどうかお助けください。私を憐れんでください。「憐れんでください」という詩編の祈りの言葉を用いて、主に助けを求めました。

ちなみに、詩編は祈りの学校とも言われている聖書の箇所です。ダビデを始め、様々な作者が神さまへの賛歌や祈りを歌っているので、ぜひ祈り方がわからない時は、詩編を開いてみてください。ちなみに、私の好きな御言葉も詩編です。後でご紹介します。

祈りが聞き入れられず、ふてくされて祈ることを止めてしまっただけでは、何の解決にもなりません。なぜ、ここまで婦人は主に祈り続けたのか、それは、彼女自身が自分の無力さを知っているからだだと思います。自分の力ではどうすることも出来ない無力さを抱えていたから、主により頼み、叫んだのです。私もこれまで22年間生きてきましたが、自分の力ではどうすることも出来ないことに何回か直面したことがあります。そのような時に、神さまに祈ることが許さ

れているということは、すごく幸いなことだと気付きました。自分は一人じゃないというか、神さまの存在の偉大さを思うと、あまり物事に恐れなくなりました。先の見えない将来に対して多くの場合、不安に感じると思います。実際、不安ですよ。ただ、不安や焦燥感を感じるからといって、自分であれこれ行動したり、自分で何とかしようとしたりするのではなくて、神さまに依り頼むということを中心に刻んで、主を第一として生きていくことがすごく大切だと思います。神さまファーストですね。

カナンの女の話に戻りますが、試練その③イエスさまは、「子どもたちのパンを取って、小犬にやってはいけません」とお語りになりました。「子どもたち」というのは、ユダヤ人の選びの民のことを指します。また、パンというのは命です。そして、「小犬」というのは外国人のことです。これを聞いて、婦人は、「主よ、ごもつともです。」と言いました。ごもつとも、確かにその通りですと、神への恐れを持って言ったのです。「しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです」と言いました。つまり、主のおっしゃることを言い直しました。救いの民はユダヤ人、けれども、アブラハムはすべての人が救いの中に入れられていることを知っており、婦人もそのことを信じていました。

このように、三回もイエスさまの拒絶を受けても、主への信仰を失わず、主を求め、主に祈ったのです。この箇所を読むと、婦人の信仰がただただ薄い、厚い人なのだなと感じるかもしれませんが、実は神さまがその信仰を導いておられました。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ」とイエスさまはおっしゃいました。「立派だ」という言葉は、

大きいという意味です。このマタイの聖書箇所の一つ前の章で、ペトロが湖の上を渡ろうとしたけれど、怖くなって沈みかけた時に、イエスさまは、「信仰の薄い者よ」（マタイ14:31）とおっしゃいました。この「薄い」は、小さいという意味です。大きな信仰は、自分は無力だ、小さく非力だと知ることから始まり、この大きな信仰は、罪の赦しを信じる信仰です。私たちの信仰のために、神さまは恵みを隠される時があります。それでも、主が私たちになお祈り、信じ続ける信仰を求めておられます。私自身、この女性のように、主よ、ダビデの子よ、と祈り求め続けたいと思いますし、聖霊のお働きによって、祈りと御言葉は、私たちに与えられていることを心に留めたいと思います。

少し、自分自身の話をしますと、私は生まれた時から家が教会で、お父さんが牧師でお母さんもクリスチャンという家庭環境で育ちました。今でこそ、礼拝の説教をノートにとってメモをしたり、日曜日には朝から教会学校の先生として奉仕をしたり、礼拝でもオルガン奉仕をさせて頂いたり、毎週水曜日には祈祷会に出席したり、東関東の学生会の役員として奉仕したりと、割と前向きな教会が好きなクリスチャンなのですが、そうなれたのも実は最近のことで、大学に入って1、2年経ってからです。クリスチャンホームというか、牧師家庭に育ったからといって本当に、当たり前のように信仰を継承できた訳ではなく、沢山の葛藤や反抗がありました。私は幼い頃、すごく教会が嫌いで、なぜ行かなければならないのか、その根拠が分かりませんでした。東関東のジュニアキャンプには嫌々行っていて、サマーデイズ（SD）にはキャンパー

として参加することは一度もありませんでした。毎年拒否していました。大学3年生の時にSDでカウンセラースタッフとして奉仕する前に、キッチンスタッフとしていった頃、何で私が自分の夏休みを犠牲にしてまで行かなあかんのかと、キレながら参加していたのを今でも覚えています（笑）。全国学生会も実は、高校3年生の時から大学4年生の計5回、毎年参加できていますが、始めの1、2年は本当にどうして皆そんなに信じているの？ 目に見えないのにと、ずっと思っていました。

反キリスト者のような私がなぜ、教会や奉仕、キャンプに対して前向きになれたのか、その理由として、神さまの存在を確信できたからというのが一番の理由です。神さまは、未だかつて誰も見たことがありません。お寺とか神社とかにある仏像のように、目で見ることは出来ません。出来ないけれど、確かにいらっしゃるのだと何度もそう感じる事ができました。それこそ、学生会とかで、同じ年代のお友達や講師の先生方の信仰にとっても影響を受けましたし、やっぱり神さまはいつも私と共にいてくださるんだなあと何度も確信したんです。もし、神さまの存在を強く感じられなかったなら、主の存在を確信できますようにと何度も祈ってみてください。その祈りは、必ず聞き入れられると思います。日本には、クリスチャンはわずか1%程しかおらず、自分の信じている神さまや宗教に疑問を持ったりすることがあるかもしれません。一種の賭けですね。様々な宗教がある中で、それでも、父なる神さまが、私たちの罪のために、愛する御子イエスさまを贖い主として、与えてくださり、そのイエスさまをメシア、つまり救い主だと信じる

信仰を聖霊なる神さまが与えてくださっている、その三位一体の神さまを信じてどうか、世間に負けることなく、信仰を持っていけたらいいなあと思います。

時に、救いて何？ 恵って何？ と思う時があると思います。救いとは、主イエスキリストが神の子メシア、つまり、救い主であると知っていること。恵とは、私たちの王がどなたであるか確信していることです。私は、クリスチャンホームに生まれて幸せです。また、自分の宗教を誇りに思います。どうか、主を信じて主により頼んで、主に祈るクリスチャンでいましょう。サタンはすぐ近くにいます。悪魔の囁きに心奪われることが無いように、その為にも、こういった全国学生会やそれぞれの地区のキャンプ、また、日々の礼拝を大切に、クリスチャン同士の交わりを楽しんでいけたらいいなあと思います。

最後に、私の好きな御言葉を紹介したいと思います。詩編22：4～6です。『だがあなたは、聖所にいまし、イスラエルの賛美

を受ける方。わたしたちの先祖はあなたに依り頼み、依り頼んで、救われて来た。助けを求めてあなたに叫び、救い出され、あなたに依り頼んで、裏切られたことはない』私が以前、大きな壁にぶつかった時に、この御言葉に本当に励まされました。

祈りは必ず聞き入れられます。聞き入れられるということは、その願いが叶う、叶わないということではなく、その祈りに対する答えが与えられるということです。願っても叶わない祈りはあります。それでも、自分にとっての最善を知っているのは、自分ではなく神さまで。人間は間違えるけど、主は決して間違えません。カナンの子のように、すぐに祈りが聞き入れられなくても、絶えず主を求めていつでも祈りを実践していきたいと思います。私も今年の三月に大学を卒業し、春から看護師として勤務しています。社会で生きた信仰を見出せるように、地の塩、世の光として、お互い頑張りましょう。（船橋高根教会会員）

## CS 教師の一言

## コロナ禍と子どもたち

市川 貴規

新型コロナウイルスの災いのさなか、すべての教会が、主日の礼拝式の持ち方や、子どもの教会（教会学校）の持ち方に苦慮されている事と拝察致します。目に見えず、全容がつかめない“敵”との戦いの対処法は、ひとりひとり異なるように思われます。いくつかの注意点を押さえればあまり気にする必要はないと考える方もおられれば、慎重すぎるくらい慎重にすべきと考える方もおられます。それだけに、教会として対応を一致させるのは困難であります。

子どもたちを取り巻く環境も一変させられました。その最も大きな要因となりましたのは、小・中・高・特別支援学校に宛てて出された『全国一斉休校要請』ではないでしょうか。総理大臣は、2月27日(木)18時半頃に、この宣言を急遽出しました。関係機関や教育関係者による十分な議論も無いまま、翌週3月2日(月)に実施させました。私たちが愛する契約の子、地域の子どもたちは、無責任に学び舎から放り出されてしまいました。各家庭では親子共々、休校に備える時間が全く足りず、とくに小学校低学年のお子さんがある共働き家庭の混乱ぶりは深刻でした。

小学校1年生には『学校が嫌い！ 行きたくない』と訴える子が非常に多いとのこと。詳しく伺うと、4月いっぱいとは通常、オリエンテーション的なカリキュラムが組まれ、担任の先生に慣れたり、初めて

出会ったクラスメイトと仲良くなったりする期間だったのです。しかし、授業の遅れを取り戻そうといきなり勉強が開始されたのです。マスクをしていて素顔すら良く分からない先生とクラスメイトに囲まれ、放課時間であっても、おしゃべりなど会話が許されない雰囲気です。新一年生にとっては、苦痛が過ぎることではないでしょうか。私たち教師は、自らも経験したことのない事態を強いられた子どもたちのために、どれほど深く想像して配慮し、祈ることが出来るかが試されているように思います。

一方、私たちの子どもの教会（教会学校）においても同じ課題が与えられているだろうと思います。主日に、これまで通りの働きが展開できなくなりました。私たちの教会もまた、子どもたちにどのように向き合っていけば良いのかを絶えず考えております。既に、諸教会の教師会において、様々な取り組みがなされていることとと思います。オンラインによる子どもの教会の働きも、その一つであるかと思えます。例えば、私たちはLINEなどのSNSが利用できる教師、子どもたちには、それらを活用してもらっています。ビデオ通話で聖書朗読やメッセージを聴いてもらい、祈り合い、賛美し、互いにつながります。当然、パソコン・スマートフォンを所持していない子どもたちもいます。しかしその場合は、親同士でつながれるようにと話してみることも

できるかもしれません。各家庭で一台、パソコン・スマートフォンがあれば、いわば家族ぐるみで!? つながれる可能性もあります。

これは実行に至っていませんが、たとえば、リアルタイム（ライブ）のやり取り以外でも、ごく短い1分程度のメッセージ動画を送る事なども考えられるのではないのでしょうか。教案誌に沿ったカテキズムやリジョイスに掲載された内容など、一度、試しに動画で撮影してみてもはどうでしょうか。『〇〇ちゃん（〇〇くん）、今から御言葉を読むよ！ 聴いてね』とメール等で週日に送ることが出来たら、神からのメッセージというプレゼントを素直に喜んでくれるかもしれません。

子どもも大人も、かつてない試練の時に入り込んでしまいました。しかし、私たちはすべてを統治される神を信じます。コロナ禍の中でも、教会に受け継がれ、注がれ

た福音のいのちは何も損なわれていません。むしろ、このような時だからこそ、知恵と祈りによって主の栄光をあらわす契機としていただけるのではないのでしょうか。

愛する子どもたちは、人を傷つけ、苦しめる言葉が蔓延している社会の只中を、しかもコロナ禍で増幅させられている時代を生きるように強いられています。これまで以上に、いよいよ本来聴くべき真の言葉、神からの言葉を溢れるほどに聴かせたいと思います。偽りの言葉ではなく、神の真理と愛の言葉を溢れるように注いであげたいと考えます。そのためにまず、子どもたち一人一人に全身全霊で寄り添う教師でありたいと願うのです。契約の子どもたちはもちろん、地域のすべての子どもたちにも、神が天地創造の前から愛していただくこと、この愛の中で人は永遠に生きることが出来ることを、何としてでも伝えたいと祈り願う者です。（名古屋岩の上教会会員）

聖書默想・説教展開例・分級展開例

---

10月4日 創世記1章26, 27節・子どもと親のカテキズム問17 【解説と黙想】

## 人間・神と人と共に

### テキストの解説

神が全ての被造物をお創りになりました。中でも人間を創造の冠として、神は特別な思いを込めて創ってくださいました。

26節には「我々にかたどり」とあります。「かたどり」と訳されている言葉は「像」という単語です。人は明らかに「神の像(かたち)」に従って創られました。「神の像」とは言っても神に姿形があるわけではありません。人間の姿から逆算して、神の姿を想像しても意味はありません。「神の像」とは、神の良きイメージ、あるいは神の良き属性(性質)です。すなわち、神の聖、義、善、真実、知恵、力、美などです。

人は他の被造物を支配するように言われています。これは人が創造の冠として創られたからです。しかし私たちはこの務めをあくまでも神からの委託として行います。つまり神の御心をないがしろにして高慢になったり、神に帰すべき栄光を自分に集める形で支配を主張してはなりません。

27節に男女の創造が記されています。人の創造については創世記2章に詳しく書いてあります。それを踏まえて男女の創造について述べるなら、女の創造をもって人間の創造が完成しました！ 男のあばら骨から女が創られましたが、これは男の優位を述べるものではありません。まさに、女が男にとって大事な部分(part)であるということです。男女はお互いが大事なパート

ナー(partner)です。

三位一体の神がその存在において孤独な神ではないように、人も孤独なものとして創られたわけではありません。(独身の是非を問うものではありません)人は創られた初めからパートナーが与えられており、神との交わりの中に生きています。神の祝福と交わりの対象として創られています。

### 子どもへのメッセージ

傷つき、自信を失い、孤独な子どもがいるのではないかと心配します。誤った権威主義になってはいけませんが、神の特別な恩寵を受けてこの世に生まれたことを伝えたいものです。神の目から見るならば誰もが最高傑作です(創世1:31)。私たちは神の像を持っているからです。

私たちは時には罪を犯してしましますが、神は失敗を恐れない方です。なぜなら、この方には誤ちも偶然もないからです。神が人をお創りになった時、人が罪を犯すことを見通しておられたはずで、神は全知全能だからです。しかし人が罪を犯してしまうとしても、なお大きな愛とビジョンを持って私たちを創ってくださいました。

神は、私たちが神を愛することを期待して創ってくださいました。私たちも全知全能にして愛の神を信じます。神があなただを慈しんで、お造りになったからです。神の愛を子ども達に伝えましょう。(後登雅博)

《参照聖句》 エフェソ3:9~11

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答4、10、ハイデルベルク信仰問答6



10月4日 創世記1章26, 27節・子どもと親のカテキズム問17 【説教展開例】

## 人間・神と人と共に

◇..... 単元のねらい .....◇

神が人を創られたのは、私たちがこよなく愛してくださったからです。私たちは、神から大きな愛と期待を受けて、尊い務めを委ねられています（創世記1：28も参照）。神の愛に生かされていることを心に留めて、神の栄光を現しましょう。

### 「生きてることは素晴らしい！」

皆さんは、「有名人の〇〇さんに似ているね！」なんて言われたことはありますか？ わたしはよく、「歌手のMさんに似ているね」と言われます。そんな風に言われても、正直あまりうれしくありません。その人がイケメンではないからです。では、キレイな人、かっこいい人に似ているねと言われたらうれしいでしょうか？ これは、人によって違うでしょうね。「わたしのことを美人って言ってくれた」とうれしく感じる人もいれば、「いやあ、ボクはボクだよ。カッコ良くても、あの人とは違うから」と思う人もいるでしょう。

有名人とは似ていないあなたも、自分の家族や親戚の人とは似ているはずです。家族のアルバムを見ていて、自分の赤ちゃんの頃の写真だと思っていたのが、実はお兄ちゃんの写真だったり、お母さんの写真だったり、ということがあります。

私たちは誰もが親から生まれています。あなたの親は、皆さんのおじいさん、おばあさんから生まれています。もちろん、おじいさん、おばあさんも、それぞれの親から生まれています。

こうして私たちの親、おじいさん、おばあさんとさかのぼると、ついには私たちを

創ってくださった神さまへといたります。

今日の聖書で神さまは言われました。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」（26節）。私たちは、神さまの姿に似せて創られています。その姿が神に似ていると言われます。私たちが家族と似た顔をしているように、神さまも私たちと同じ姿をしているのでしょうか？ 神さまにも顔があつて、手足があるのでしょうか？

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」というのは、神さまにも私たちのような姿形があるということではありません。神は霊（ウ小問4）ですから、私たちのような体はありません。私たちは体の成長のために食べたり飲んだりする必要がありますが、神さまは霊ですから食べ物はありません。そもそも、神さまは初めから完全なので、成長するというようなこともありません。

教会では神さまのことを、色々な言い方をします。皆さんは、神さまについてどのように言われるのを聞いたことがあるでしょうか。愛の神、全知全能の神、聖なる方。イエス・キリストの父なる神という言葉もありますね。他にもあるでしょう。

私たちが神さまに似せて創られたとは、

神さまの性質に似せて創られたということです。神さまの愛、聖さ、正しさ、憐れみ深さ。色々言われると思いますが、その良いイメージに似せて私たちが創られました。神さまが優れた方で、その方に似せて創られた私たちは、神さまから見れば最高傑作です。私たちが創ってくださった方が素晴らしい方で、私たちはその素晴らしい性質を受けているので、素晴らしい一人一人だと言って良いのです。

素晴らしいものとして創られた私たちには、神さまから任されていることがあります。神さまが言われました。「海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう」(26節)。

魚も鳥もその他の動物も、全て神さまが創られました。素晴らしい神さまが創った動物たちですから、やはり素晴らしい生き物たちです。でも、私たち人間のようには、神さまに似せて創られたとは言われていません。この点で、私たちは他の動物とは違って、特別なものとして創られています。特別な私たちには、この世界にあるすべてを支配するように、と言われています。なんと驚くべきことでしょうか。神さまは私たちに大きな仕事をお任せになりました。

皆さんも家族や先生から頼まれごとをすることがあると思います。そんな時、皆さんはどう感じますか？「なんでわたしががしなないといけないのかなあ？ めんどくさいなあ」などと思うことがあるかもしれません。でもその用事は「あなただから！」と期待されて任された仕事です。自分では、つまらないこと、だれでもできること、と思ったとしてもそうではありません。あなたに期待して声かけられたからです。

神さまはあなたに大切な仕事を任せてお

られます。他の動物や世界を支配するようにと言われていました。どのようにすれば良いのでしょうか？ この仕事をやりとげるためには、あなたが神さまを信じて、毎日喜んで生きることが大切です。少し難しい言い方をしますと、あなたの仕事は「世界を神の栄光の舞台とする」ことです。自分の人生の主人公となることです。

あなたは、神が創られた世界の中で主人公を演じる俳優です。あなたが世界という舞台の上で、生き生きと生活するなら、そのあなたを見て神さまがお喜びになります。あなたが好きなテレビや動画を見て喜ぶように、神もあなたの活躍する姿を見て喜ばれるのです。

でもテレビの中の主人公のように、いつも全てがうまく行くとは限りません。自分が思ったようにできず、悲しくなることがあるかもしれません。そんな時は思い出してください。「わたしは神に似せて創られた！わたしは神さまの最高傑作だ！」あなたが生きていること、それが神さまには大きな喜びです。あなたがこの世界にいること、それが神の栄光となっています。私たちは失敗しても、神さまには失敗がありません。神さまに間違いはないからです。

神さまは、私たちが時に罪を犯してしまうことさえ良く知っておられます。だから、私たちのためにイエス・キリストを送ってくださったではありませんか。キリストが十字架につけられたのは、私たちの罪のためです。そこでわたしの罪はすでに裁かれています。そして、キリストは復活されたではありませんか。私たちのためにキリストは罪にも死にも、完全に勝利されました。

私たちは罪を犯すことがあります。それでも神がキリストを与えてくださるほど

に、神の愛を受けています。

神がわたしを愛して創ってくださいました。私たちは、神の創られた世界の中で、喜んで生活します。私たちが喜んで生きることに、それが神の栄光となります。

聖書に書いてあります。「だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をす

るにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい（コリ一10：31）」。神を信じる私たちは食べたり飲んだり、生きているだけで、神の栄光を現すことができます。神を喜んで生きることが、神から任された大切な仕事だからです。あなたを通して、神の栄光が現されますように。（後登雅博）

---

《今週の暗唱聖句》

だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。（コリントの信徒への手紙一 10章31節）

10月4日 創世記1章26, 27節・子どもと親のカテキズム問17 【分級展開例A】

## 人間・神と人と共に

絵本や動画等、さまざまなものでこの物語は描かれています。それらを用いるかどうかは別にして物語を生き生きと語り聞かせることができれば十分だと思います。その上で、教師と子どもとのキャッチボールのための分級例とします。いずれにしろ、人間と神さまとの関係についてのイメージを徹底的に肯定的に持たせ、自分とまわりの人を大切にする心を育ませたいと思います。設問はすべてをしようと言う提案ではなく、一つでも用いられたらそれでよいと考えます。

1. 神さまは、何をお造りになられましたか？

天と地とそのなかに生きるすべてのものをお造りになられました。すべては神さまのものです。

2. 神さまは、最後に何をお造りになられましたか？

人間です。人間は、すべてのものを神さまに代わって大切にするようにと役割を与えられました。お部屋のお掃除や後片付けは大切ですね。

神さまは大喜びで人間を祝福されました。神さまがつくられた最初の世界は、何から何まですばらしく、世界は神さまの祝福に満ちていました。だから私たちはこの世界の中で安心できるのです。心から楽しく遊んでいるあなたを、神さまはどんなに喜んでおられることでしょう！ 楽しく遊べたなら、神さまに感謝

してね。楽しく遊ぶことは、神さまと共に歩むこと、信じて生きることそのものです。

3. 神さまは、何故、人間を特別なものとして造られたのでしょうか？

神さまと向き合っ、お話しするためです。お祈り、礼拝です。神さまといっしょになって、神さまのお働きのお手伝いができるのが人間です。それが神さまと共に歩むことです。人間だけができる特別なことです。神さまを忘れたら、よくないよね。

4. 神さまは、人間をひとりぼっちにつくられましたか？

いいえ。男と女につくられました。ですから、わたしたちはひとりでは生きてはいけません。皆と仲良く、助けられること助けることが人間らしさです。お友達にやさしくしてあげたら、どんなに神さまが喜んでくださることでしょう。

5. 僕たち私たちは、だんだんと神さまに似て行けますか？

はい。神さまの子どもは、神さまに似るように必ず成長できます。人間の赤ちゃんや猿の赤ちゃんは似ているかもしれませんが、でも、人間の赤ちゃんは猿にはなりません。お父さんやお母さんがいっしょにいてくれるので、ますますお父さんやお母さんに似て来ます。神さまといっしょに歩く私たちは、神さまのようにやさしい人になって行きます。

10月4日 創世記1章26, 27節・子どもと親のカテキズム問17 【分級展開例B】

## 人間・神と人と共に

教会は神を礼拝し、聖書をとおして私たちに神を教えてください。同時に、神を知るとは自分自身を知ることでもあります。救いとは、変わった生き方をする人になることではありません。まっとうな人間に回復され、人間らしい生き方へと造り変えられて行くことです。そのことを教えてくださいのが本日のテキストです。神のかたちに似せて創造されたのだから、神に向き合う生き方が当たり前。男と女に創造されたのだから、共に生きる生き方が当たり前。人間の共同体の本来の姿である教会の生活を喜び、楽しむ子どもたちに育ちますように。そのとき、彼らの人生は神の栄光の道具として人生を楽しみ、よき社会を築く働き人、つまり神の国の喜びと正義と平和をもたらす神の子どもとなるはずです。

1. 神さまは何をお造りになられましたか？

光からはじまって天と地とそのなかに生きるすべてのものをお造りになられました。全てすばらしい出来栄でした。最初の世界は、神さまの喜びにあふれていました。今も残っているのでしょうか？

2. 神さまは最後に何をお造りになられましたか？

人間です。最後ということは、すべては人間の生きる世界、舞台として整えられました。

3. 神さまは、み言葉によって世界をお造りになられましたか、人間も同じ方法

だったのでしょうか？

人間のときだけは、神さまは「われわれに似せて……」とご決意をはっきり語られました。ものすごく力を込めていらっしゃいます。すべてのものを造ったのは、人間を造るためだと言わんばかりです。

4. 神さまは、おひとりなのになぜ、「我々」とおっしゃったのでしょうか？

真の神さまは、父なる神、御子なる神、聖霊なる神だからです。どうじに、一つの交わりをお持ちの神です。三一の神だからです。神さまはひとりぼっちではありません。

5. 神さまがいう「我々に似せ、かたどられた」とはどんな意味があるのでしょうか？

人間は他のものとはまったく違って、神さまを信じ、神さまを礼拝し、神さまなしにはまったく意味がないものだという事です。神さまと向き合い、話し合い、いっしょに生きることができるもの、まるで神さまのようにすばらしい生き物として造られたということです。

6. 神さまが人を男と女に造られたということとはどんな意味があるのでしょうか？

神さまが三一の神でいらっしゃるように、人は絶対に孤独では生きられないし、生きてはならないということです。神さまが愛でいらっしゃるように、私たちもお互いを必要とし、お互いを愛し、お互いに支えあって生きて行くべきだということです。

10月4日 創世記1章26, 27節・子どもと親のカテキズム問17 【分級展開例C】

## 人間・神と人と共に

一緒に考えてみましょう。

- ①人間は神さまのかたちにつくられた、と聖書は教えています。目に見えない神さまの「かたち」とはどのようなものでしょう？ カテキズムは何と答えていますか？ 「解説と黙想」の「教理問答」を参照してください。また、あなたはどのように思いますか？
  
- ②神さまのかたちにつくられていることから、人間にはどんな価値があると思いますか？ 人の命の尊厳について考えてみましょう。他の聖書の箇所を調べてみてください（『子どもと親のカテキズム』参照聖句）。
  
- ③人間には神さまのかたちがあるけれども、他の生き物には与えられていません。そこから、人間と他の生き物とはどのような関係であるべきでしょうか？
  
- ④イエスさまは人間になった神の子ですから、神さまのかたちが目に見えるようになって世に来られた方です。イエスさまを見ると神さまと人間の関係がわかります。イエスさまはどのような神の子でしたか？

10月～12月

【分級展開例D】

## 「王さまの歌」

今号では、東京恩寵教会日曜学校で作られた「王さまの歌」を紹介していただきます。王様の歌の経緯について、紹介の文章を掲載いたします。

### 王さまの歌・発端

上河原真理恵

発端は千ヶ崎先生の「南ユダの王さまの名前と北イスラエルの王さまの名前を順番どおり言えるんですよ」の一言です。ソロモン、王国の分裂以降、聖書物語での扱いが断片的で、ここら辺りの聖書知識が日曜学校でも手薄になっている感じが否めません。そこを敢えて取り上げました。準備の教師会では楽譜を見つけ、王さまの名前を音符にあて、教師たちで何度も歌いました。今の子どもたちは新共同訳聖書で育っていますから、王さまの名前もカタカナ表記に若干の変更があります。南ユダ王国は「いっしょに歌おう」あるいは「気もちがくらくなくなったら」のメロディーで、北イスラエル王国はディズニーの「小さな世界」のメロディーです。子どもたちは耳からよく覚え、口ずさんでいるようです。王さまの名前と順番は重要事項ではありませんが、聖書を読むときの助けとなることを準備しながら実感しましたし、東京恩寵教会日曜学校の生徒が子どもの時から身につけられたら嬉しいです。

(東京恩寵教会会員)

# -NORTH- ISRAEL

北王国・イスラエル

G D7 G

ヤロ ブ ア ム ナダ ブ バ シャ エラ ジ ム リ オー ー ム リ アハ

G7 C Cm D7 G

ブ アハズヤ ヨラ ム イエフ ヨー ア ー ー ハ ス

G D7 G

ヨ ー ア シュ ヤロ ブ ア ム ニ世 ゼ カル ヤ シャル ム

G7 C Cm D7

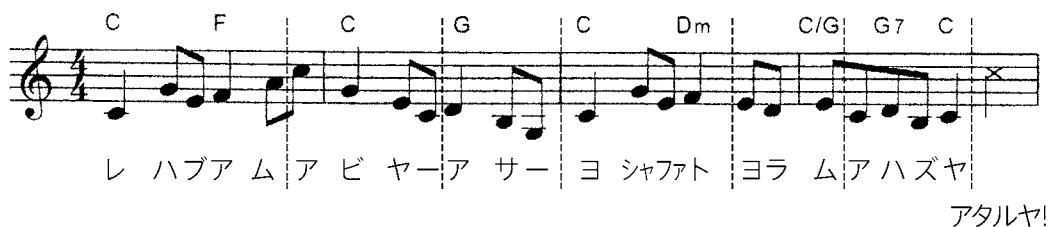
メ ナヘ ム ペカ フ ヤ ペカ ホ ー ー シェ ア



-SOUTH-  
JUDAH

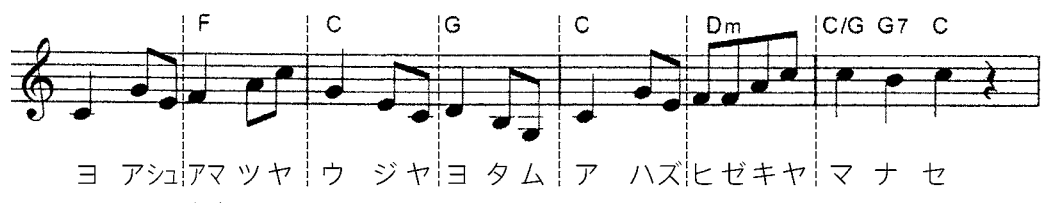
南王国・ユダ

C F C G C Dm C/G G7 C



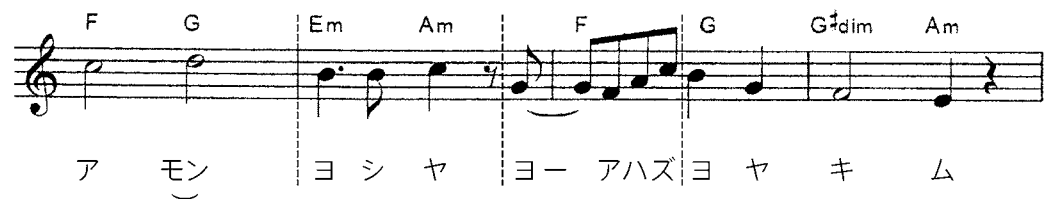
レ ハブア ム ア ビ ヤーア サー ヨ シャファト ヨラ ム ア ハズヤ  
アタルヤ!

F C G C Dm C/G G7 C



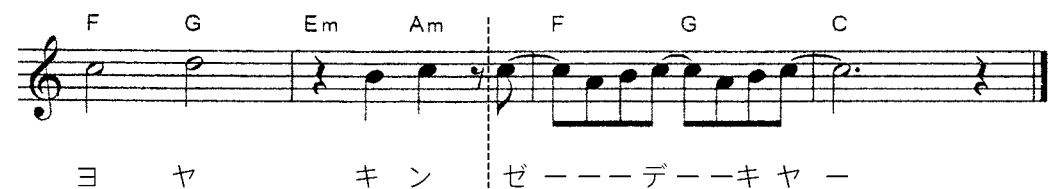
ヨ アシュアマツヤ ウ ジヤ ヨ タム ア ハズヒゼキヤ マ ナ セ

F G Em Am F G G<sup>♯</sup>dim Am



ア モン ヨ シ ヤ ヨー アハズ ヨ ヤ キ ム

F G Em Am F G C



ヨ ヤ キ ン ゼ --- デ --- キ ヤ ---

10月11日 マルコによる福音書12章28節~34節・子どもと親のカテキズム問18 【解説と黙想】

## 人間の使命

### 当時の律法

律法学者の間では、613もの大小の掟があった。主イエスは、その内の最も大切な第一の掟を、神への愛と、隣人への愛という、二重の側面を持つ掟として教えられた。つまり、神への愛と、隣人への愛が不可分で、同じ重みを持ち、一体的なものとして教えられたのである。当時のユダヤ教には、そのような結合は例がなかったが、主イエスは二つを一体的な神の御意志として定義された。隣人の定義も「あなた自身の国民の息子たち」とされていたが、主イエスは、ルカ10章25~37節において、その制限を取り除かれている。

### 第一の戒め

主は、第一の戒めについて、敬虔なユダヤ人なら毎日暗唱していた、申命記6章4、5節を引用した。イスラエルの神のみが神で、イスラエルの民を愛し契約を結び、彼らの「主」となられた。そのため、全身全霊で、神を愛さなくてはならないという掟である。「聞け(シェマ)」で始まるユダヤ教の基本的信仰告白の「心」「魂(思い)」「力」に『精神』を加え、各々「尽くして」を4回繰り返すことによって、「全人格」をもって神を愛することが強調されている。

神が神であられるがゆえに、私たちは神

を愛さなければならない。これは、「契約の愛を与える」という、神の憐れみ深い好意から生じている戒めでもある。神こそ、全き献身をもって愛されるべき御方である。全人格としての私が、神の愛の対象なので、私の全人格が神によって要求される。真の神だけのために、条件を付けない決断と準備が要求される。しかしそれは私たちにとって、最高の喜びでもある。神を喜び、前のめりで神を求めることは、神が神であるがゆえに、神御自身という最高の喜びを私たちの魂に満たすものだからである。

### 第二の戒め

第二の戒めは、レビ記19章18節に基づいている(参照、ヨハ4:21、マタ7:12)。私たちの全人格を傾けた神への愛は、必然的に、他者への無私に関心を要求する。第二の戒めは、一貫した態度でその愛に基づいて決断し、行動することを要求する。

私たちは生まれながら罪人で、無意識の内に自分を愛そうとする。しかし、神は隣人への愛のために、私たちに要求される。神への愛と隣人への愛は、一体的な神からの要求なのである。その戒めを守り、神に従って生きることこそ、創造の時から、私たちに与えられた最も重要な第一の掟であり、人間の使命なのである。(袴田清子)

---

《参照聖句》 マタイ22:34~40、ルカ10:25~28、ローマ13:9、ガラテヤ5:14  
 《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答12、ウェストミンスター大教理問答20、98、102、122、ウェストミンスター信仰告白4章

10月11日 マルコによる福音書12章28節~34節・子どもと親のカテキズム問18 【説教展開例】

## 人間の使命

◇..... 単元のねらい .....◇

神の愛にこたえて、隣人を愛して生きる

### 「最も大切な掟」

ある時、一人の律法学者が進み出て、尋ねました。「私たちにはたくさん掟がありますが、その中で、どの掟が第一でしょうか」。

当時は613もの大小の掟がありました。大きな掟は、命に関わる重大なことや、沢山のお金に関わることを定めていました。小さな掟は、命や持ち物にあまり影響が無い、小さなことを定めていました。とても細かく掟が定められていましたので、ある人たちは、それを守ることにばかりに注意するようになりました。そして、肝心の「神」と「人間」がどこかに吹っ飛んでしまったのです。それどころか、自分と同じように掟を守らない人は、不信仰だとか、神さまから遠い人だと、さげすむ始末でした。主イエスは、そのような問題を良く知っておられました。

そして、このようにお答えになりました。「第一の掟は、これです。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神は唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない」

主イエスは、最も大切な一つの掟を聞いたかった律法学者に、二つの掟が大切だとおっしゃいました。神に対する掟と、人間に

対する掟です。主イエスには両方とも大切で、バラバラにできないことだったのです。

まず、第一の掟は、神さまに対する掟です。主は、当時のユダヤ人なら、誰もが毎日唱えていた旧約聖書の申命記の御言葉を、ほとんどそのまま用いられました。「心を尽くし（精神を尽くし）、思いを尽くし、力を尽くして」、あなたの主である、神を愛すること。

これは、いつも口にしてきた言葉です。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして」と、「尽くして」が4回も繰り返されています。それは、自分の全てによって神さまを愛するように、という意味です。一生懸命になって、前のめりになって、神さまを愛しなさい、ということです。

神さまは、神さまなので、当然第一しなくてはなりません。しかし、私たちが神さまを愛するべきなのは、他にも理由があります。それは、私たちが、神さまとの特別な契約に入れられている、神の民だということなのです。

神さまは、御独り子である主イエスさまを、私たちの罪の身代わりとして、十字架に付けてくださいました。イエスさまの御苦しみと死によって、私たちの罪は赦されました。それほど、私たちが愛してくださっ

ているのです。三位一体の神さまが、力を尽くして、私たちを愛してくださっているのです。だから、私たちも、神さまだけを、全身全霊をもって愛することが求められているのです。

それは、神さまに自分を明け渡すことでもあります。明け渡すことは、大きな犠牲を払うことのように思うかも知れませんが、決してそうではありません。神さまを愛するということは、神さまを求めることです。全身全霊をもって、神さま御自身を求めることです。神さまを求めると、神さまがどれほど素晴らしい御方であるか、聖書の御言葉と聖霊の助けによって、分かるようになります。神さまがどれほど大きな愛で愛し、どれほど大きな犠牲を払って、愛してくださっているか、分かるようになります。心は喜びで一杯になります。最高の、この世のものでない、神さまによる喜びが与えられます。すると、神さまをますます求めたい、愛したいと思うようになります。聖書をもっと読みたくなり、教会にもっと行きたくなり、神さまにもっとお祈りしたくなるのです。だから、主イエスが言われている第一の掟は、楽しいこと、最高の喜びになるのです。

それと共に、第二の掟として、『隣人を自分のように愛しなさい。』と命じておられます。これは旧約聖書のレビ記19章18節に記されている御言葉と同じです。ユダヤ人たちは「隣人」とは、「同じ国民や、その子どもたち」だと理解していました。し

かし、主イエスは善きサマリア人のたとえ話によって、「隣人」とは、同じ国の人達や仲間だけではないことを教えられています。

私たちは生まれながら罪人なので、無意識に、自分だけを愛します。しかし、主イエスは、神さまの御心は、もっと広く、『隣人を自分のように愛しなさい。』と教えられたのです。他の聖書の箇所には「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である（マタ7：12）」とあります。「神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです（ヨハ14：21）」とも記されています。

自分に良いことをしてくれる人だけを愛するのではなく、何の益ももたらさなくても、他の人への関心を持つ。神さまは、私たちが、そのような隣人への愛を持つことを、求めておられます。

それは、私たちが神さまと共に、隣人を愛する使命を帯びて創造されているからです。「神さまを礼拝し、神さまを喜び、家族や友達を愛し、神さまがお造りになったものを大切に、神さまに仕えて歩む」（子どもと親のカテキズム問18）。これが、私たちの使命なのです。

この掟を守るための愛は、神さまから頂きます。神さまを愛すると、神さま御自身の愛を頂くので、私たちも、神さまの尊い使命に生きるものに変えられて行きます。神さまに愛を求めて、従って行きましょう。  
(袴田清子)

---

#### 《今週の暗唱聖句》

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。  
(ヨハネによる福音書15章12節)

10月11日 マルコによる福音書12章28～34節・子どもと親のカテキズム問18【分級展開例A】

## 人間の使命

幼児の幼児らしさは、何故、何のために生きるのかを問わないところにあるのかもしれない。時間を忘れるほど遊びに夢中になること。それは、空虚どころではなく、神が人を祝福し、善きものと造ってくださった賜物そのものです。人生の主な目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶのであれば、幼児はそこです。すでに私ども教師にはるかにまさって、人生の目的を実現し始めているとすら思います。ただし幼児は、この祝福、この特権を自覚しえないまま過ごします。聖書教育は、それを助けるために大きな益があるのです。発達年齢に即して福音を説くことができるために祈りたいと思います。

1. イエスさまが一番、大切なこととして教えて下さったのは何ですか？

神さまを一番に思い、自分のようにお友達を大切にすることです。きょう、〇〇ちゃんが教会に来てくれたのでそれで十分です。

2. 小さな僕たち私たちは、どうすればお友達にやさしくできるようになるのでしょうか？

自分が神さまの子どもだと信じることです。神さまにいつも愛され、神さまがいつもいっしょにいてくださることを感謝することです。食べるものも着るものも、いつもちゃんと与えられています。これを当たり前思わず神さまのおかげ

だから、ありがとうと言いましょ。

3. 何故、神さまはお友達にやさしくしなさいと言うのでしょうか？

〇〇ちゃんにはそれができるからです。なぜなら、神さまは〇〇ちゃんを大切に守ってくださってそれができるようにしてくださるからです。神さまにやさしくされたら、お友達にもやさしくしたいでしょう。

4. けんかするのと仲良くするのとどっちが気持ちいいですか？

仲良くすることです。友達に親切にできて「ありがとう」と言われたら、心からうれしくなってしまいます。それは、人間は愛されることと誰かを愛することで気持ちよくなるように造られています。

5. 神さまを愛し、お友達を愛すると、どうなりますか？

そこにイエスさまを中心にした教会が出来て行きます。私たちの世界は、愛し愛される、楽しく、美しく、素晴らしい世界になります。わたしたちは、そのために生まれてきたのです。

6. 人間だけを愛せばよいのでしょうか？

いいえ。私たちのために造られたすべての物を大切にすることも含まれています。動物や植物を大切に育てる人は、神さまに「ありがとう」と言われます。神さまのお手伝いをしているからです。

10月11日 マルコによる福音書12章28～34節・子どもと親のカテキズム問18【分級展開例B】

## 人間の使命

神を知るとは自分自身を知ることだと学びました。人間らしく生きようとするには神を知る道を歩むことです。ですから、神の掟、神の御心、神の要求はシンプルです。神の御前で、人間らしくなれ、生きよということです。そのためにのみ律法はあります。律法は、神の愛の親心があふれ出た結晶です。それゆえ、神に愛されていることがすべての律法的前提となります。それゆえにこの神を愛することこの神が愛される人を愛すること、二つで一つの愛に生きることが人間らしさです。主イエスが呼びかけられたことは当たり前の人間の姿です。同時に神の力ある絶対的要求であり、私たちの究極の使命です。

1. イエスさまが一番、大切な掟として教えて下さったのは何ですか？

神を愛し、自分のように人を愛すること、二つで一つの愛に生きることです。

2. 何故、それが第一なのですか？

私たちは、神のかたちに造られているからです。つまり、神を礼拝し、神を愛すること、男と女として、互いに仕え、愛し合うように造られているからです。

3. 何故、「心」「精神」「思い」「力」をもって、しかもそれぞれに「尽くして」神を愛するのでしょうか？

神がその全力を注いで私たちに愛しておられるからです。神の愛が徹底的なの

で、私たちも徹底的に応答すべきなのです。人間は愛することと愛されることによって、心から満足して生きることができるからです。

4. 何故、隣人を愛することは第二なのでしょう？

すべては神の愛から始まるからです。神に愛され、神を愛することなしに何も始まりません。

5. 何故、隣人を「自分のように」愛するのですか？

神に愛されている自分を喜び、神の愛があふれ出るまでは隣人を愛せないからです。自分を愛することは隣人愛のもう一つ的前提になるのです。あふれるまで待つてよいのです。

6. この掟を与えて下さった神さまの目的はどこにあるのでしょうか？

この地上に神を愛し、隣人を愛するキリストの体である教会共同体を建て上げるためです。この教会によってこの地に、神の国が姿をあらわし、私たちの世界は愛し愛されるすばらしい世界になります。

7. 隣人を愛することは、人間に限定されていますか？

いいえ。神が私たちのために造られたすべての被造物を大切にすることも含まれています。これは神からの使命であり、神への愛の証しなのです。

10月11日 マルコによる福音書12章28～34節・子どもと親のカテキズム問18【分級展開例C】

## 人間の使命

一緒に考えてみましょう。

①人間は神さまのかたちにつくられた、と聖書は教えています。目に見えない神さまの「かたち」とはどのようなものでしょう？ カテキズムは何と答えていますか？「解説と黙想」の「教理問答」を参照してください。また、あなたはどのように思いますか？

②神さまのかたちにつくられていることから、人間にはどんな価値があると思いますか？人の命の尊厳について考えてみましょう。他の聖書の箇所を調べてみてください（『子どもと親のカテキズム』参照聖句などを調べましょう）。

③人間には神さまのかたちがあるけれども、他の生き物には与えられていません。そこから、人間と他の生き物とはどのような関係であるべきでしょうか？

④イエスさまは人間になった神の子ですから、神さまのかたちが目に見えるようになって世に来られた方です。イエスさまを見ると神さまと人間の関係がわかります。イエスさまはどのような神の子でしたか？

10月18日 創世記3章1～13節・子どもと親のカテキズム問19 【解説と黙想】

## 人間・罪の起源

### 墮落とは何か

先週まで、神が人を素晴らしい存在としてお造りくださったことを学びました。しかし人はその状態に留まりませんでした。神の言葉に背いて墮落してしまいました。

最初の人背いたのは、善悪の知識の木から食べるなという2章17節の神の言葉でした。実を食べることが禁じられた理由は明かされていません。しかし実を食べた人の心が、神から離れたことは明らかです。彼らと同じ心を、あなたも持っているのではないか。聖書は問いかけています。

### 人を墮落に至らせたもの

人の心が神から離れ、墮落へ至ってしまった原因を、蛇と女の対話から見ることができます。3節で女は、園の中央の実だけは、食べても触れてもいけないと答えています。しかし神は触れることまで禁じてはおられません。女は神の言葉を理不尽に厳しいものと誤解し、不満を抱いたようです。

蛇は女にそれを食べると目が開け、神のように善悪を知るものとなると言います。神から善悪を決められ従う人生ではなく、自分で善悪を判断して好きなように生きる人生を送りたい。この欲求が人を墮落へと至らせました。人は神になることはできません。蛇の言葉は偽りです。しかし真実なる神の言葉よりも、自分の欲望に合わせた

自らに都合のよい偽りの言葉を聞こうとする。これが、墮落した人の姿です。

### 墮落の結果

墮落した結果、人は自分たちが裸であることを知ります。自らを神の御前から隠さずにはいられなくなりました。自らが神になろうとした恥を抱え、もはや神の祝福と守りを期待できない不安の中にあります。

恥と不安から逃れるために、責任転嫁が始まります。墮落によって互いに自分の正しさを主張し、他者の責任を告発します。人と人との関係が壊れてしまっています。アダムにいたっては、女を与えてくださった神にまで不満を漏らしています。自分で善悪を判断することで、もはや神とも隣人も共に歩めなくなってしまうのです。

### 探し求められる神さま

墮落した人を、神はなお「どこにいるのか」と探し求めます。御子を与えてくださるほど、神は墮落した人をなお愛して下さいます。この神の愛を否定し、神の言葉を理不尽な要求と捉え、自らに都合のよい偽りの言葉に聞こうとする。人に責任を擦り付け、愛して下さる神に不満を漏らす。それが墮落した人間の姿です。神の愛が大きいからこそ、墮落した人間の理不尽さと不義は際立ちます。自分がそのような人間であることを知る所から、神の愛に生きる道が開かれていくのです。 (三輪 誠)

《参照聖句》 ローマ1：18～23

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答13～19、ハイデルベルク信仰問答7



10月18日 創世記3章1～13節・子どもと親のカテキズム問19 【説教展開例】

## 人間・罪の起源

◇..... 単元のねらい .....◇

人間が神さまによって素晴らしいものとして創造されたにもかかわらず、現実問題として罪と悲惨がある。墮落を考えることをとおして、人間のなかのどのような心があるかを知ること、その原因となっているかを知ること、自分にもその心があることを知る。そのような自分に、神さまの愛が必要であることを学ぶ。

### 「墮落って、なに？」

問17、18では、神さまが人間をすばらしい祝福された存在として創造されたことが教えられました。しかし最初の人間であるアダムとエバは、その状態に留まることができませんでした。これを「墮落」と言います。神は人間を良く作ってくださったのに、人間はそこから落ちこちてしまいました。そして神の祝福から離れた酷い状態になってしまいました。これはアダムたちだけの話でしょうか。みな同じではないですか。聖書はそう語りかけています。

「自分はそこまでひどくない」と思うのではないのでしょうか。だってみんなは教会にいます。日本ではほとんどの人が教会に行かないのに、みんなは教会で神さまを礼拝しています。世の中には悪い人がたくさんいるけれども、みんなは普通に生活しています。神さまから遠く離れているのは、教会に来ない人や悪い人で、自分はまだマシだ。そう思うのは、当然のことです。では、すばらしい祝福の状態から落ちこちてしまった墮落とは、一体なんなのでしょうか。今日、一緒に考えていきましょう。

問19は、アダムとエバは神さまの言葉に

背き、罪を犯すことで、祝福の状態にとどまらなかったと教えています。今日の創世記の箇所です。彼らが背いた言葉は「善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」(2:17)です。この木は神さまが造ったエデンの園の真ん中に生えていました。

そこに蛇がきて、園のどの木からも食べてはいけないと、神さまはそんな酷いことを命じられたのですか、と話しかけます。エバは答えます「わたしたちは、園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけないのです」。

ここでみんなに問題です。このエバの答えには、2章17節の神さまの言葉で命じられていないことが入っています。何でしょうか。「触れてもいけない」です。エバは神さまの言葉をそのまま受け取らないで、より厳しい命令として理解しました。「神さまは、厳しすぎる。そんな厳しい神さまの言葉を守るのは嫌だ。自分の好きなように生きたい」。そんな思いがエバの心の中にあつたのです。みんなは「お父さんお母さんにとにかく言われずに、自分のやりたいことをしたい」と思ったことはありません

んか。エバの思いは、これに近いのです。神さまに従うのではなく自分の好きなように生きたいと思うエバさんの気持ち、みんなにも分かるのではないのでしょうか。

そんな心を持ったエバに、蛇はさらに語りかけます。「それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ」と。善悪を知るものとなるとは、良いことも悪いことも自分で決めて、自分の好きなように生きることができるといことです。これはまさにエバが心の中で願っていたことですよ。この蛇の言葉は、実は嘘でした。しかし正しい神さまの言葉よりも、自分の願いに沿った蛇の嘘の言葉に、エバは聞いてしまったのです。こうしてアダムとエバは、食べてはいけないと神さまに禁じられていた果実を食べてしまいました。この木の実に毒があったわけではありません。しかし神さまに食べてはダメと言われていた木の実を食べるとい行動が、神さまに対して「もう私たちは神さまに従うのはやめます。これからは自分の力で、好きなように生きていきます」と言っているようなものなのです。

このように神さまから離れてしまった人間はどうなったのでしょうか。まず自分が裸であることを知りました。自分の恥ずかしいところ、弱いところを隠して生きなければならなくなりました。また神さまから離れて好きなように生きるということは、神さまから守ってもらえないということなのです。自分で自分を守らなければなりません。そのためアダムとエバは、誰かを悪者にして自分を守ろうとしました。神さまから責められたアダムは、「あなたが与えてくださった女が勧めたから、わたしは食べたの

です」と言い訳しています。自分は悪くない。エバが悪い。エバを与えてくださった神さま、あなたの責任です。エバも同じです。蛇がわたしを誘惑したのです。蛇が悪いのであって、自分は悪くありません。こう言い張ります。

自分で自分を守るために、人は誰かを悪者にしながら生きていくしかなくなってしまいました。お友達に対して、神さまに対して、「あなたが悪い。それに比べたら自分は悪くない」と言い張るのが、墮落した人の姿なのです。今日のお話の最初を思い出してください。周りにいる誰かを見ながら、「自分はその人よりも酷くない」、「この人よりは神さまから離れていない」と思う気持ちが誰にでもあるわけです。自分よりも悪い人に比べたら自分はまだマシだ、という思いです。この思いこそ、神さまの言葉に背いて、誰かを悪者にして自分が悪くないと言い訳しなければならなかったアダムとエバの姿そのものなのです。

こんな悲惨な状態になってしまった人間に神さまはどうされたのでしょうか。もう人間を見捨てたのでしょうか。そうではありませんでした。神さまから離れてしまった人間を「どこにいるのか」と探し求めたのです。なおも愛し続けたのです。神さまなんて要りませんと言った人間が、もう一度神さまの愛の中で安心して生きられるように、イエスさまを与えてくださったのです。これが神さまの驚くべき愛なのです。

この大きな愛をいただきながら、なおも人間は自分を守るために誰かに責任を押しつけるのです。あの人が悪い。この人よりはマシだ。厳しすぎる神さまの責任だ、と。神さまは人を愛してくださるのに、人は神

さまが厳しすぎると言い、神さまの言葉に背き、自分よりも悪そうな人を挙げて自分は悪くないと言い張って自分を守ろうとする。おかしいですよ。でもこれが、聖書の教える墮落した人間の姿なのです。そして、墮落した私たちの姿なのです。

私たちがこのような悲惨な状況にあるからこそ、私たちにはどうしても神さまの愛

が必要なのです。御自分を十字架に架けて殺す人々をなおも赦して下さったイエスさまの愛が、私たちには必要なのです。神さまの愛がなかったら私たちは、恥ずかしさと不安のなかで、誰かを責めて生きていくしかなくなってしまいます。そのことを、墮落してしまったアダムとエバの姿から、学びとってほしいのです。 (三輪 誠)

---

《今週の暗唱聖句》

主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか」(創世記3章9節)

10月18日 創世記3章1～13節・子どもと親のカテキズム問19 【分級展開例A】

## 人間・罪の起源

幼児には、この墮落物語を、物語として語り聞かせることに力点をおきたいと思います。絵本を用いてもよいでしょう。もちろん、言葉だけでも印象的に語りえると思います。注意したい一点は、おどろおどろしくならないことだと思います。神さまは、罪を犯してしまったアダムとエバをただちに罰し、斥け、エデンの園から追放するのではなく、悔い改めに招き、そればかりかもうすでにイエスさまの救いを準備されるのです。幼児には、この赦しと救いの神のイメージを植え付けたいと思います。

1. 蛇は、なぜ、アダムとエバに神さまのみ言葉にそむくように誘惑したのかな？

神さまの子どもの美しさやすばらしさをねたんだのです。自分のように泥んこにしてやろうとしたのかもしれない。

2. 神さまは、アダムとエバをどんな目で見つめていたと思いますか。

とても悲しい目、「わたしの愛は変わらないのだよ、信じなさい」という目だと思います。

3. アダムとエバは、ごめんなさいと言いましたか？

いいえ。アダムは「悪いのは神さまだ。エバだ」と。エバは「蛇が悪いのだ」と言いました。

4. あなたは神さまに悲しまれることをし

たことがありますか？

たくさん、あります。けんかします。そのとき、うそをついたり。悪いのは、じぶんじゃないよと言い張ったりします。アダムさんとエバさんと同じです。

5. 神さまは、そのようなあなたを、神さまの子どもとして愛して下さらないと思いますか？

いいえ。神さまは、やさしく、「隠れていないで出ておいで。ごめんなさいと言えば、あとは、わたしがなんとかしてあげるから」と考えていらっしゃいます。

6. 神さまは「アダムもエバももう、わたしの子ではないから知らない。どうにでもなれ」とおっしゃいましたか？

いいえ。神さまは蛇に向かつては、イエスさまが十字架の上で蛇の頭を砕いてしまうと厳しく予告されました。ところが、アダムとエバには「動物の毛皮」を与えてくださいました。イエスさまが必ず救ってあげるからねと予告されたのです。神さまは、この後もずっと彼らを守り続けてくださいました。

7. 神さまより優しい人はいますか？

いません。私たちの神さまは世界一、比べられないほど優しいのです。だから、僕たち私たちは神さまの前に出ます。それが礼拝です。やさしい神さまに守られていることを感謝しましょう。

10月18日 創世記3章1～13節・子どもと親のカテキズム問19【分級展開例B】

## 人間・罪の起源

神は神の自由へと招き入れるためにご自身のかたちに似せて造り、自由を与えられました。ところがこの尊い賜物を、本来の自由、神を愛する自由ではなく墮落への自由として悪用しました。自由には墮落の可能性がゼロではないからこそ尊いのです。神の愛と信頼を裏切り、人は自由を失い、世界を悲惨へと巻き込みました。ところが、そこですでに永遠の神の小羊のおどろくべき憐れみが備えられているのです。この福音の光のなかで罪と悲惨を語り、イエス・キリストの十字架の恵みを豊かに語りたいと思います。今回もすべての設問ではなく、子らの関心に即した一つだけでも十分です。自由に語り合いたいものです。

1. 蛇は野の生き物のうち最も賢いと言われています。アダムとエバとどちらが賢いのでしょうか？

人間だけが神の栄光を身にまとっているのです。人間の方が賢いはずです。

2. 蛇の質問のしかたには、どのような狙いがありますか？

意見ではなく質問によって、まるで自分も神について知りたいのだけだと、エバに甘え、関係をつくろうとします。神についての正反対のイメージを植え付けようとしています。つまり、神は食べてはいけないと禁止する存在で、あなたは神のせいではほんとうは不自由に暮らしているのではないかと疑わせるのです。無視すればよかったのです。

3. エバの答えのどこに問題がありますか？

神の命令にはない、触れてはいけないとつけ加えたこと。必ず死ぬといわれたのに死んではいけないと薄めたことです。御言葉に真実に向き合っていなかったからです。

4. 蛇はなぜ質問せず、断言したのでしょうか？

エバに疑いの心を植え付けられたので、最後は断言が有効で、騙せると思ったから。

5. 二人の目が開いたのはよかったのではないですか？

いいえ。神との関係を失い、神なき世界を見てしまったのです。つまり、霊的に盲目となったのです。確かに、人間は神のような存在です。(詩8:6) 神のようになることは当然の道です。しかし、それは神の御前で生きる限りかなうのです。神と対等になる等とは本末転倒です。

6. 神はなぜ、どこにいるのかと問われたのでしょうか？

世界に神から隠れられる場所はありません。神は、二人を見失っていません。神は、二人が蛇の誘惑をしりぞけることを信じていました。憤りではなく悔い改めを求めたのです。ところがアダムは、すべてを神のせいにします。神がエバのようなものをわたしに与えたのがいけないと、神に反抗し、エバへの愛をも裏切ったのです。神と人との関係を破壊すること、これが罪の悲惨です。

10月18日 創世記3章1～13節・子どもと親のカテキズム問19 【分級展開例C】

## 人間・罪の起源

聖書の言葉と説教を思い出しながら考えてみましょう。

- ①「善悪の知識の木」とは、どんな木だったと思いますか？ あなたはそれを想像したことがありますか？ 聖書には何と書いてありますか？
  
- ②蛇がエバをだましたとありますが、何故、そんなことをしたのでしょうか。あなただったら蛇の言葉を信じて実を食べたいと思いますか？ また、あなたには似たような経験をしたことはないでしょうか。神さまがしてはならないと言っておられるのを忘れて、自分でいいことだと思ってしてしまった失敗などです。
  
- ③アダムはエバがくれた木の実を食べました。どうしてでしょうか？ あなたは誰かから誘われて、神さまの言葉に反するようなことをしたことがありますか？ あなたはその時、どうしてはっきりと断ることができなかったのでしょうか？ これからも断ることができますか？
  
- ④アダムは自分の失敗をエバのせいにしてしまいました。あなたはそれをどう思いますか？ 人はどうして自分の失敗を認めて素直に謝ることができないのでしょうか。失敗して素直に謝った人のことを、聖書で読んだことがありますか？
  
- ⑤聖書は人間誰もがアダムとエバのように皆罪人だと教えています。あなたは自分の罪を知った時、どうしたいと思いますか？
  
- ⑥罪のために墮落した世界に私たちは生きています。世界のどのようなところから墮落した様子がわかりますか？ 心を痛めるような出来事を見聞きした時、あなたはどうぞお祈りしますか？

10月25日 ルカによる福音書15章11～24節・子どもと親のカテキズム問20 【解説と黙想】

## 罪とは何か

### 罪とは神の言葉に背くこと

聖書の言う「罪」とは「的外れ」という言葉に由来します。神が創造された本来の人間の姿から逸脱し、的外れに生きている状態が罪です。それは電車が脱線したまま暴走しているようなもので、どれだけ早く走っていても目的地には着きません。周りに大きな被害をもたらします。目的地まで安全に着くためには線路を決められた速度で走る必要があります。目を閉じて歩くとすぐに傾くように、私たちも神へ向かっていると信じていても、罪に傾いてしまいます。

### 罪への傾き

天地創造の時、神は人間を善いものに創造されました。けれども墮落により悪が入り込みました。パウロも「一人の人によって罪が世に入り、全ての人が罪を犯した」（ロマ5：12）と証言します。そしてアダムの墮落により、私たちの心は悪に傾くようになりました。それは底なし沼のように、はまり込んだら最後、もがいても抜け出せず、むしろ深みにはまり込んでしまうのです。それが墮落した人間の姿です。私たちはどれほど善を行う努力を重ねても、悪へとはまり込むようになってしまいました。

### 罪の支配

そればかりか、私たちはどのような善に対しても全くの無能だと言われます。善のひとつかけらもないと言うのです。さすがに

それは言い過ぎと思うかもしれませんが。しかし、私たちは金太郎飴のように、どこを切り取っても罪が見えてしまうのです。それは単に私たちが悪い行いばかりするというだけではなく、生活と生き方そのものが罪に満ちているということです。行動だけでなく、言葉や心そのものが罪に満ち、罪に汚染されているのです。

私たちの生活、すべての行動の根源である心そのものが罪の支配を受け、捕らわれています。それゆえ、その心から生み出されるものはすべて罪深いものとなってしまいます。たとえそれが人への善意や親切であっても、罪に腐敗したものであり、神に喜ばれるものとはならないのです。どれだけ高級な食材でも、腐っては食べられません。私たちの心も罪により腐敗しています。聖書は、私たちが全面的に罪により腐敗していること、それゆえ腐った行いや思いしか生み出せないことを教えます。

### 聖霊による再生

ですから、聖霊によって心そのものを新しく生まれ変わらせていただく必要があります。神へ向かう線路を脱線し暴走してしまう私たちを、あるべきところへ戻して目的地まで導いてくださるのが聖霊です。私たちは神に向かってその聖霊をお授けくださいと願うのです。（三川共基）

《参照聖句》 ローマの信徒への手紙5章12節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問14、15

10月25日 ルカによる福音書15章11～24節・子どもと親のカテキズム問20 【説教展開例】

## 罪とは何か

◇..... 単元のねらい .....◇

神の愛を一身に受けながらも、それを拒んでしまうのが人間の愚かさです。また、神を愛しようと決意し、神へ向かおうとしても、たちまち脱線してしまうのが人間の弱さです。その愚かさ、弱さから脱却するためにも、その事実を知ることは大切です。

### 「天に対して犯した罪」

①

皆さんは電車に乗って旅行に行ったことはありますか？ 窓から外の景色を眺めるのは楽しいですね。電車は時間通りに駅を出発し、目的地まで走っていきます。目的地に時間通りに着くため、運転手は安全運転で、決められたスピードで電車を走らせます。でも、もし、時間通りに着くことができないと焦ってしまうと、とんでもなく早いスピードで電車を走らせ、線路から落ちて大きな事故になってしまうことがあります。そうなってしまったら大変です！

電車が目的地に最も早く着く方法は、決められた線路の上を、決められたスピードで走ることです。線路を飛び出してしまうと、早いスピードを出してみたりしては、かえって目的地に着くことができなくなってしまいます。

②

実は、この暴走列車は神さまに対して罪を犯してしまった私たちのことです。決められた線路の上を、決められたスピードで走るならば、やがて神さまの元へたどり着くことができます。けれども、こっちの方が近道ではないかと線路を飛び出してし

まったり、もっと早く着いてやろうと出してはいけないスピードを出してしまうと、かえって神さまから遠のいてしまいます。このように、神さまから「こうしなさい」と命じられたことに従わないで、自分で良かれと思ってやってしまうことを、聖書は「罪」と教えています。神さまは私たちのためにいつもいろんなことを考え、おいしいご飯を用意し、着るものも与えてくださいます。でも、その神さまに「ありがとう」と言うことを忘れてしまい、自分で何でもできると思ってしまう時、私たちは神さまのお声を聞き入れずに、間違った方向へ行ってしまうのです。神さまはそんな私たちのことをとても悲しまれます。

③

今日、一緒に聞いた聖書のお話では、そんな私たちのことが「放蕩息子」と呼ばれていました。お父さんである神さまは、息子たちのことをとてもかわいがっています。欲しいものはすべて与え、いつまでも元気でいてくれることを願っています。けれども、息子たちはお父さんの思いを知ることなどなく、自分勝手に過ごしています。弟息子はお父さんの元を離れて、遠い国へ



行ってしまいました。そこで有り金を全部使い果たしてしまい、持ち物は何も無くなってしまいました。自分で良かれと思ってやってきた弟は、何も無くなってはじめて、お父さんの所が一番だったと気づきますが、後の祭りです。

## ④

ここで弟息子はお父さんの元へ帰って、すべて自分が間違っていたことを謝り、しもべの一人にしてもらおうとします。そして、こう言いました「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません」。弟息子は自分の愚かさや弱さを認めて、お父さんに謝ったのです。するとお父さんは弟息子が自分の元へ帰ってきたことをとても喜びました。自分の言うことを聞かずに家から出て行ってしまった弟息子が帰ってきたのです。しかも、自分

の罪を認めて「ごめんなさい」と言うことができたのです。お父さんは弟息子がこうして帰ってきたこと、また自分の罪を謝ったことを喜んだのでした。

## ⑤

これまで自分勝手に生きてきた弟息子は、どうしてお父さんの元へ帰り、「ごめんなさい」と謝ることができたのでしょうか。それは、聖霊なる神さまが彼のうちに働いて、お父さんの方へ帰る心を与えられたからです。

聖霊なる神さまは私たちの心にも働きかけてくださいます。自分勝手に歩んで失敗する時にも、聖霊なる神さまはあなたのそばにいつもいてくださいます。そして、正しい線路の上に戻れるようにしてくださいます。そして、私たちは心を新しくして、神さまの方へと帰っていくことができるのです。  
(三川共基)

## 《今週の暗唱聖句》

父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

(ルカによる福音書15章20節)

10月25日 ルカによる福音書15章11～24節・子どもと親のカテキズム問20 【分級展開例A】

## 罪とは何か

### 黙想

小さい子どもたちの1日とはどんなものでしょうか。朝起きてから、家庭や教育機関で過ごし、夜眠りにつくまで、どのような心の動きがあるのでしょうか。子どもらしい、好奇心や欲求が、大人や他者によってさえぎられたり、行動を禁じられたり、失敗を不本意に叱られたりと、辛い経験をすることも多いのでしょうか。「してはいけない」とわかっているにもかかわらず経験、衝動的にしてしまったことを後になって後悔することもあるでしょう。

子どもたちにも罪があります。そのため時に心は曇り、笑顔が消え、すっかり疲れ切ってしまう日もあるのではないのでしょうか。大人は子どもの悪い行いを、叱って戒めます。しかし、叱られる時よりも、ゆるされて抱きしめてもらえた時に、子どもは涙を流すことがあります。「ああ、自分は悪かったのだ」と気づくことができたのか。「それでも、愛してもらえるのだ」と心から安心するのか。

神さまは、わたしたちの悪い心をすべてご存知で、そしてすべてを赦して下さるお

方です。イエスさまを与えて、聖霊を与えて、わたしたちを赦し、神さまのところへ帰ってこられるようにしてくださいませ。そして、罪に傷ついたわたしたちをあたたく抱きしめてくださいませ。いつも神さまのところにいられるよう、悪い心とのたたかいに勝てるようにお祈りしましょう。

### 工作「ソーマトロップをつくらう」

#### ・用意するもの

コピーしたイラスト（人数分）

割りばし（人数分）

はさみ、のり、セロテープ、色鉛筆

#### ・作り方

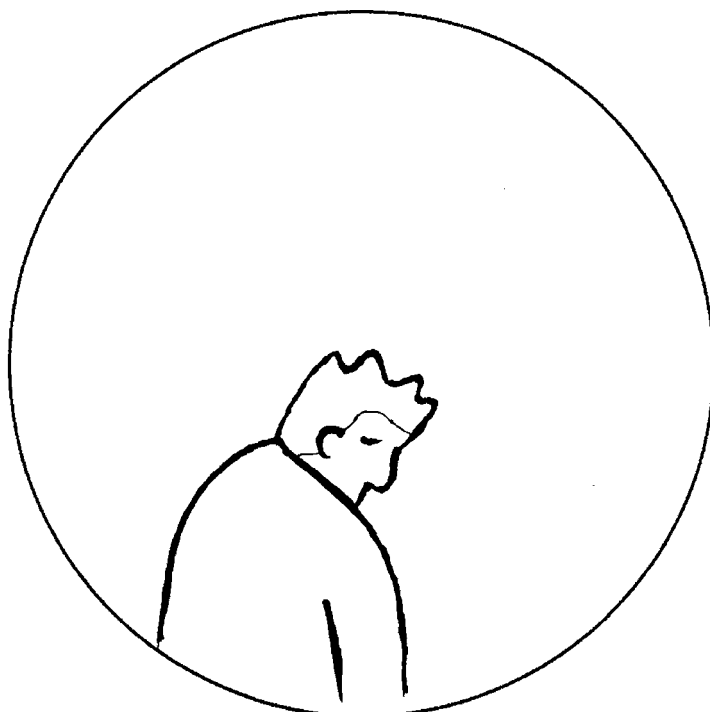
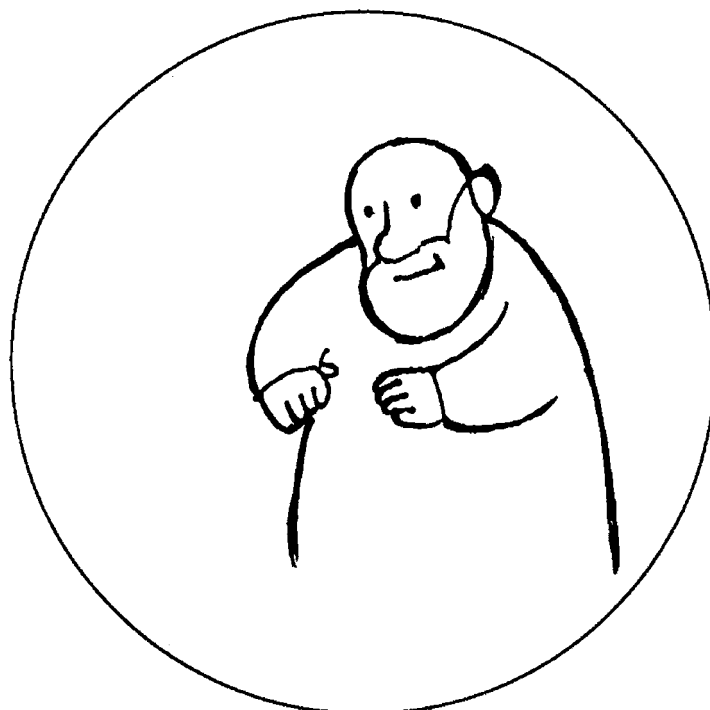
イラスト（次ページ参照）を丸く切り、表どうし合わせ、下部に割りばしをはさんだ状態で貼りつける。（小さなうちわを作る要領です。）

#### ・遊び方

割りばし（柄の部分）を両てのひらではさんで持ち、こすり合わせるように動かします。パタパタ動かすことにより、表裏のイラストが合体して見えたなら成功です！

☆時間があったら、色をぬってみましょう。

# ソーマトロップをつくろう！



10月25日 ルカによる福音書15章11～24節・子どもと親のカテキズム問20 【分級展開例B】

## 罪とは何か

### 1. 罪とは何だろ

聖書が教える罪には「的外れ」という意味があります。少し前にポケモン・ゴーがはやりました。いろいろな場所に出かけて行ってポケモンをゲットします。でもお目当てのポケモンをゲットしようと思っても僕たちは道を間違えたらゲットできません。聖書は神さまが求められる目的に向かって生きるように造られた人間が目的を間違えて生きることを「罪」という言葉で呼んでいます。神さまの目的を外れた人生は空しいのです。放蕩息子の物語の主人公の弟息子はお父さんの家に一緒に生活していることが幸せだったのに家を飛び出してしまいました。目の前にあった一番大事なものが分からなかったのです。

### 2. 罪への傾き

私たちの最初の先祖、アダムとエバの罪によって私たちも「邪悪で倒錯した」(ハイデルベルク問6) あべこべの者になってしまいました。「おしり探偵」という本を知っていますか？ 僕たちはおしり探偵を見ると、おしりがあるところが顔になっているのでおかしいと思います。聖書のいう罪びとは人間全体がおしり探偵みたいになっていることです。そんなおかしい姿なのに、どうして気付かないんだろうか？ それは私たち人間全部がおしり探偵になっているのでその間違いすら気付かないので

す。

### 3. 罪の支配

放蕩息子はお父さんの財産をお金に換えて家を出ていきました。そしてお金を使いつくし、ぜいたくにしたい放題しました。そんなある日、飢饉がその土地を襲います。僕たちも罪に沈んでいるときは、罪を犯している気持ちよりも、自分は調子がいいぞと思っているかもしれません。いい気分になって罪に支配されている間に自分の大事なものを全部失ってしまう。そして最後にすっからかんになった自分にあぜんとするのです。

### 4. 聖霊による再生

放蕩息子は一文無しになったときにお父さんの家にいたときの幸せを思い出しました。そのように罪に支配されて自分では罪から脱出できない人間に神さまは助けのロープをくださいます。一本のロープにつかまって僕たちは神さまのところまで登らないといけないのでしょうか。そうではありません。神さまは罪の中にどっぷりつかっている私たちを救いのロープでぐるぐる巻きにして、神さまが一方的に助け出してくださいます。私たちの罪で死んでいる私たちを助けて下さるのは聖霊の神さまです。

10月25日 ルカによる福音書15章11～24節・子どもと親のカテキズム問20 【分級展開例C】

## 罪とは何か

放蕩息子のたとえを思い起こしながら考えてみましょう。

- ①世の中で「罪人」と言われるのはどのような人ですか？ あなたの周りに「罪人」はいいますか？
  
- ②弟息子は何故、家を出ようと思ったのでしょうか。兄はどうして出なかったのでしょうか。  
あなたにお金があって、自由に何でもできるとしたら何をしますか？
  
- ③父親からみれば兄も弟も自分の大切な息子です。弟はどうして父の愛に気が付かなかったのでしょうか？
  
- ④帰ってきた弟息子を父は喜んで迎え入れます。このような父親は親として失格じゃないのでしょうか。
  
- ⑤兄が弟を許せなかったのは何故でしょうか？あなたなら許せますか？
  
- ⑥何か失敗した人を許すことができないのは何故でしょうか。
  
- ⑦放蕩息子のたとえは、イエスさまがなさった、神と人との関係を表すたとえです。あなたは自分が放蕩息子だと思いますか。それとも兄の方が近いと思いますか。弟も兄も父の愛に気が付かない罪人だとわかりますか？
  
- ⑧では、「罪」とは何でしょうか。自分の言葉で表してみてください。

11月1日 エフェソの信徒への手紙2章1～10節・子どもと親のカテキズム問21【解説と黙想】

## 罪人の悲惨

「子どもと親のカテキズム」の間21には、「人間は生まれながら悪へとかたむく罪人になってしまいました」と記されています。「生まれながら」ということは、全ての人間が罪に陥っており、回避出来ないことを意味しています。その「罪人」とはどういう状態か、答の続きの部分には四つのポイントで記されています。一つは「神さまとの交わりを失っている」こと、二つ目は「神さまに背いて歩んでいる」こと、三つめは「神さまの怒りを受けている」こと、最後は「ほろびの死にさだめられている」ことです。これらは全て神さまとの関係であることが注目されます。神さまとの関係こそが私たち人間に最も重要なことです。そのすべてで本来の道からずれてしまっている、それが罪人の姿なのです。

エフェソの信徒への手紙2章1節では、そのことが「過ちと罪のために死んでいた」と表現されています。罪人として生きるということは、霊的には死んでいると言い換えることが出来るのです。私たちは、心臓が動き、思考していれば生きていると思っ

ていますが、聖書はそれだけでは真に生きているとは言えない、と言うのです。2章3節には「肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していた」とあります。自分がしたい通りに行動することは、現代人の多くが求める生き方です。死ぬ時に自分が後悔しない生き方が理想と

されます。しかしそれはまさに神さまを無視し、神さまに背いた罪人としての生活です。そしてそれは神さまの怒りの対象であり、神さまはその怒りを滅びとして現わされます。罪人の滅びは確実に起こることですから、罪人はすでに死んでいると言っても良いのです。罪人として生きるということは、死に定められながら、死の中を歩んでいる、ということなのです。

いくら良い仕事について高い収入を手にしても、家族友人に恵まれても、それらもやがてなくなり、自分自身も滅んでしまう、そのような生き方は虚しいものです。「生き地獄」という言葉があります。私たちの現実を言い当てているのかも知れません。しかし2章1節で注目すべきなのは、「あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいた」と過去形で記されていることです。今はそういう状態ではなくなっている、罪人としての歩みを止めて、真に生きる者になった、と言われるのです。「あなたがたは、以前は罪人だった」という言葉は一見、書き手自身は罪人ではない「上から目線」と感じるかもしれませんが、しかし2章3節には「わたしたちも皆、……ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした」とあります。書き手も含め、神さまの憐れみによってキリストの故に救い出されたのが、信仰を与えられた者なのです。（常石召一）

《参照聖句》 ローマの信徒への手紙5章12節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問14、15

11月1日 エフェソの信徒への手紙2章1～10節・子どもと親のカテキズム問21 【説教展開例】

## 罪人の悲惨

◇..... 単元のねらい .....◇

私たちは自分が悲惨だとか、深刻な問題を抱えているとは思いたくありません。私たちが自分自身のことを正しく理解するのは、決して簡単ではないのです。人は神さまによって知らされなければ自分の罪の状態を理解することが出来ません。神さまによって真理を悟らされ、そして神さまの恵みに目を向けたいと思います。

### 「死んでいた私たち」

皆さんは生きていますか？ そうですよ。みんな生きていますよね。皆さんが生きていて、顔を見ることが出来ることを本当に嬉しく思います。

ところで、どうして生きているって言うのでしょうか。そうですね。こうして座っているみんながニコッと笑うことも、悲しくて泣くことも生きているからです。ごはんを食べることも、心臓がドクドクって動いていることも、このようにお話を聞いてくれて、そしてお返事をしていてくれることも、生きている証拠ですね。

では私たちはいつまで生きるのでしょうか？ この中で、百年後も生きている人はどれ位いるのでしょうか？ 頑張って生きていて欲しいなあと思いますが、誰が百年後も生きているかは分かりませんね。その頃にはすっかり世の中の人が入れ替わっているかもしれません。ちょっと想像もできないぐらいです。

ところで2章1節を見てください。「さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです」とあります。以前は死んでいたのだと言っているのです。そんなことない、ちゃんと生きてるよ、

と思いますよね。でも聖書が言っている「生きている」「死んでいる」というのは、心臓が動いている、息をしている、色々活動していることとはちょっと違うようですね。

皆さんにとって、「この人はとても輝いて生きているな」と思う人はどんな人でしょうか？ スポーツ選手？ 芸能人？ しかしいくら輝いている人でも、やがては死んでしまいます。死なない人はいませんね。

3節にはこうあります。「肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していた」。こういう人が「死んでいる」と言われています。なぜでしょうか？ この人たちは、自分のしたいこと、好きなことをしていたのです。好きなことをする時、人は生き生きとします。好きなことを仕事にできる、好きなことをして人に認められるというのは素晴らしいことです。輝いてきます。しかしそれが神さまのためでなく自分が満足するためであれば、3節の最後にありますように、「生まれながら神の怒りを受けるべき者」なのです。いくら自分

で生き生きとしていると思い、周りに「輝いているね」と言われても、神さまの怒りを受けるのです。一生を終えた時、神さまに「あなたは自分勝手に生きた。わたしと何の関りもなく生きたのだ」とがっかりされるのです。そしてその人は滅ぼされ、永遠に神さまから切り離されてしまいます。それが確実に起こることならば、今すでに死んでいると言えるのです。

先ほどお読みした箇所では、「わたしたちも皆、……ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした」とありました。この世に生まれた全ての人は、例外なく「神さまの怒りを受けるべき者」だと言われているのです。いくらまじめに生きていても、一生懸命努力しても全ての人はそうだと断言するのです。これでは希望も何もありません。辛いです。

しかし、5節にはこう書いてあります。「罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし」。私たちはキリストであられるイエスさまによって生きる者にされたのです。

イエスさまは私たちのために何をしてくださったのか御存じですか？ イエスさまは十字架に架かれたのです。そこで死なれたのですね。

では、イエスさまは生まれながらにして死ぬことになっていた人だったのでしょうか？ そうではありません。イエスさまは罪を犯されることはありませんでした。罪人ではなかったのです。罪人ではないということは、死ななければならない人ではないということです。イエスさまは天から来られました。永遠の昔からおられ、決して死

ぬことのない神さまなのです。そのお方が死なれたのです。

何故イエスさまは死なれたのでしょうか？ イエスさまは普通に死なれたわけではありません。殺されたのです。イエスさまは多くの人に憎まれ、捉えられました。その時弟子たちは怖くなってイエスさまを見捨てて逃げてしまいました。人間のせいでイエスさまは死んでしまわれたのです。

この聖書の箇所には、イエスさまは私たちを愛してくださった、と記されています。愛してくださったから、私たちへの愛のためにイエスさまは死なれたのです。

けれどもイエスさまは死んでそれでおしまい、ではありませんでした。三日目に甦られたのです。イエスさまは、私たちが罪のために受ける筈の罰を代わって受けてくださいました。そして死に打ち勝ってくださいました。それは私たちが生きるためです。死ななければならない私たち、いえ、もうすでに死んでいると言うべき私たちが、永遠に滅びないため、本当に生きるためだったのです。私たちはイエスさまを信じる時、「生きている」と言えるのです。

皆さんの百年後はどうなっているのでしょうか？ 二百年後はどうでしょう？ 生きている人はいないでしょう。イエスさまを信じて私たちがやがて死にます。それではイエスさまを信じることに何の意味があるのだろうか、と思われるかもしれません。

スポルジョンというアメリカの牧師は、鉄道の旅にたとえてこんなことを言っています。電車に乗っている時、いつ県境を越えたのかほとんどの人は気にしないでしょう。それと同じように、私たちは自分でも気がつかないうちにあっと言う間に死を通



過するのだ、と言うのです。それ程、クリスチャンにとって、肉体の死はあっという間の小さなことなのです。私たちにとって、肉体が死ぬこと以上に、イエスさまによって生きるようにされたことの方が圧倒的に素晴らしいこと、驚くべきことなのです。

イエスさまが二千年前に死なれて復活なさったように、私たちもかつては死んでい

たけれども今は復活して生きているのです。私たちの体はいずれ死にます。しかしもっと大切なのは、神さまとの関係を失って霊的に死んでいた私たちが、イエスさまを信じることで既に復活している、新しい命を今生きている、ということです。

(常石召一)

---

《今週の暗唱聖句》

イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である」  
(ヨハネによる福音書 8章 34節)

11月1日 エフェソの信徒への手紙2章1～10節・子どもと親のカテキズム問21 【分級展開例A】

## 罪人の悲惨

### おはなし

わたしたちをお創りになったのは神さまです。神さまがわたしたちの天のお父さま、わたしたちは神さまのこども。神さまはわたしたちに家族をくださいました。お友だちも、おもちゃも、食べ物も、毎日必要なものを全部くださいます。

でも、わたしたちは時々神さまを悲しませてしまいます。どんな時？……わたしたちの心が「いや！」とか「嫌い！」でいっぱいになる時（「おかたづけしなさい」と言われた時とか、「おもちゃをかして」と言われた時）。そして、おともだちに優しくできない時、いじわるな心ができて、とげとげ言葉を口にする時、など。

自分でも止められない、自分でも嫌なこの「わるい心」。これを直せるのは、天のお父様だけ。そのために神さまはイエスさまを与えて下さいました。イエスさまの十字架によって、わたしたちの「わるい心」をゆるしてくださったのです。そして、神さまの大きな愛の心でつつんで下さいました。

神さまに感謝しましょう。そして、すくいぬしイエスさまと一緒に今週も元気に生活しましょう。

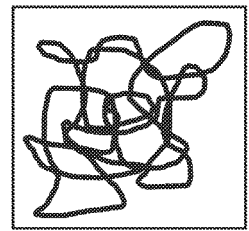
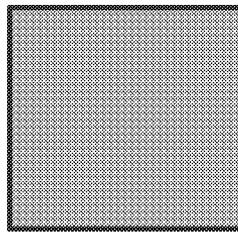
### 折り紙でハートを作ろう

・用意するもの

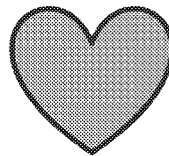
折り紙（人数分）、鉛筆または色鉛筆

① 好きな色の折り紙を一人一枚えらびます

② 白い側に「わるいわるい」を描きます



③ この折り紙で「ハート型」を折ります。



\*ハートの折り方はインターネット上で探せます。幼児向けの簡単なものもあります。

\*こどもさんびか15番「きょうだいげんかを」を歌いましょう。

11月1日 エフェソの信徒への手紙2章1～10節・子どもと親のカテキズム問21 【分級展開例B】

## 罪人の悲惨

### 1. 罪にかたむく人間

アダムは私たち人間の代表でした。ですからアダムとつながる私たちにも罪がおよんでいます。人間は自分の力で神さまとの関係を直すことはできなくなりました。木の上の巣から落っこちたヒナはだんだん弱って死んでしまいます。私たちはこのヒナのように落ちたところへ自分では戻る力はもっていないのです。

### 2. 神との交わりの喪失・神に背く生活

アダムが罪を犯したということは、アダムが神さま以外の声に従って生きるようになったということです。そのようにしてアダムは神さまとの交わりを失いました。メダカが水槽は嫌いだから水槽は嫌だと言って水槽を飛び出したら死んでしまいます。命である神さまから離れることで、人間は命を失いました。

どんなにいいことをしたと思っても、私たちのすることは全部に罪がしみこんでいます。いいことをすることで褒められようとする気持ちがないでしょうか。人間は誰も、自分の思いに従って生きるなら神さま

を第一にはしていません。

### 3. 神の怒り・滅びとしての死

ですから罪びとは「生まれながら神の怒りを受けるべき者」(エフェソ2:3)です。でも神さまは愛ではないでしょうか。それなら怒る神さまは正しいのでしょうか。覚えたいのは神さまは愛であり、同時に正義の神さまでもあることです。だから神さまは罪をそのまま見過ごしにされることはありません。

私たちは誰もが生きています。でも聖書的に言うなら、真の神さまを知らない人は、霊的に死んでいます。アダムが神さまのみ言葉に背いたとき、死ぬと約束されたのに即死しませんでした。神さまが憐れんでくださったからです。私たちも罪を悔いて神さまに立ち返るように招かれています。巣から落っこちたヒナは自力では戻れません。同じように罪びとの中に自力で救われる可能性はありません。しかし「人間にはできることではないが、神にはできる。神は何でもできる」(マルコ10:27)のですから。

11月1日 エフェソの信徒への手紙2章1～10節・子どもと親のカテキズム問21 【分級展開例C】

## 罪人の悲惨

- ①子どもカテキズム問20では、罪とは何と教えられていましたか。確かめてみましょう。
- ②最初の人間、アダムとエバが罪を犯したために、すべての人間は、生まれながら悪へかたむく罪人になってしまいました。それでは、わたしたちは、直ちに、自分が罪人であることを認められますか。
- ③聖書には、自分が罪人であることが本当の意味でわからなかったニコデモのことが出てきます。イエスさまは、ニコデモに、「人は新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」(ヨハネ3:3)と言われました。それは、人間が生まれながら、神さまの恵みの支配を本当の意味で見ていないことを意味しています。どうして、人間は、神さまの恵みを見ることができないと思いますか。
- ④使徒パウロが、「あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいた」とどうして言うことができたのでしょうか。十字架の苦しみを受けられ、死者の中から三日目に復活され、天に上げられたイエスさまが、パウロ(当時は「サウロ」)と呼ばれたときのことを調べてみましょう(使徒9:1～19)
- ⑤パウロは、「罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共にいかし、キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました」と、罪人の救いを伝えました。わたしたちが、同じように、救われるためには、何が必要でしょうか。エフェソの信徒への手紙2章8節を読んでみましょう。
- ⑥わたしたちにとって「自由」とは何でしょうか。少なくとも、イエスさまがこの地上におられたとき、「自由」とは、悪い教えからの自由(哲学者たち)や、罪からの自由(ユダヤ教)を意味していました。ユダヤ人の教師たちは、イスラエル(神の民)は、律法を持っているから、悪い思いや衝動の奴隷になることのない者と思っていた。イエスさまが、彼らを念頭に「罪を犯す者はだれでも罪の奴隷」であると言われるとき、神の律法(十戒)を知っているだけで、罪から自由であると言えるでしょうか。
- ⑦あなたは、今、何に縛れている(不自由、奴隷)であると思いますか。それから解放されることと、イエスさまの救い(罪からの救い、本当の自由)を知ることは、どのように結びつきますか。

11月8日 創世記6章1～8節・子どもと親のカテキズム問22 【解説と黙想】

## 罪人の歩み

### テキストの解説

◇墮落後の人間の、罪による実態が示される。「神の子ら」とは、諸説あるが主の御名を呼び始めた人々と思われる（創世4:26）。◇人々が自分勝手に歩み出し、主は人の内に御自身の霊を永久には留めないと宣言される。◇「肉にすぎない」とは、塵から造られ、塵に帰るべき存在。◇「ネフィリム」も、諸説あるが高身長巨人の子孫であるとされる（民数11:32,33）。「大昔の名高い英雄」と言われるように人々に対して力を揮った存在と思われる。◇主は人の心の内の悪さを悲しまれた。「後悔」されたのは比喩であり、主が人の罪を憎み、喜ばれないことの人間的表現。

### 教理の解説

普通の生まれ方で誕生する全人類は（これにより神の御子イエスは例外であることを示す）、アダムにあって罪を犯し、墮落したので（ウ小教理16）、墮落した性質は全ての人類に及び（同17）、人類は罪と悲惨の状態に落ちてしまい、原罪をもって生まれてくるので、その結果現行罪が生じ、様々な罪のゆえに人の歩みを悲惨なものとしている（同18）。全的な墮落であるがゆえに、人は神との交わりを失い、それを自力で回復することができなくなっている（同19、ハイデルベルク8）。

### 黙想

神は人を良き者として創造され、神との交わりの内に生きるようにしてくださった。同時に神は人に自由を与え、知恵を授けてくださった。しかし人は神の前にへりくだって生きるのではなく、高ぶって神の前に罪を犯してしまった。聖書に照らして私たちの心の内を顧み、また実際の言動を顧みるならば、私たちの内にも同じ罪があることが明らかである。主は私たちが御前に罪を犯すことを非常に悲しまれ、心を痛めておられる。そしてその憐れみ深い御心によって、神の御子キリストを遣わしてくださったことに思いを致すことができる。

### 子どもへのメッセージ

子どもたちの中にも、意地悪な心、不親切、自分勝手などを原因とするけんかがあることを子どもたち自身が気づいている。みながそうだから仕方ない、見つからなければいい、というような考えは、神さまが喜ばれない悪いことだと知る必要がある。そのような罪が、私たちに互いに苦しめ、そのままでは神さまの厳しい裁きを受けることになる。そのような私たちに罪からの救い主イエスさまを与えてくださったのもまた主なる神さまであることを悟ることができるように。（久保田証一）

《参照聖句》 創世記8章21節、イザヤ書53章6節、ローマの信徒への手紙5章12～21節、ヨハネの手紙一2章1～2節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答16～18、ハイデルベルク信仰問答7,8

11月8日 創世記6章1～8節・子どもと親のカテキズム問22 【説教展開例】

## 罪人の歩み

◇..... 単元のねらい .....◇

私たちの心の中に、意地悪な気持ち、自分勝手な考えなどがある。また言葉によって人を傷つけたり、陰口を言ったり、不親切だったり、意地を張って喧嘩することもある。そのような「悪いもの」が現れてくるのは、私たち人間の中に、生まれた時から「罪」があるからだということを知る。そのようにして私たちは神さまの喜ばれないことをしてしまう。神さまはそれを大変悲しまれるけれども、私たちの罪を赦し、救うためにイエスさまを与えてくださっていることを知る。

### 「私たちの罪の深さを知る」

#### 自分勝手な私たち

人に悪口を言ってしまったことがありますか。友達とけんかしたり、意地悪をしてしまったこともあるかもしれません。心の中で悪口を言ったり、意地悪なことを考えたりしてしまうこともあるでしょう。また、これをしてはだめだよ、と教えられても、それを守れないこともあります。なんでも自分の好きなようにやりたい、人にじゃまされたくない、自分のことを一番にしたい、ということもありますね。

どうして私たちはそうになってしまうのでしょうか。それは、私たちの中に生まれた時から「罪」というものがあって、それで私たちは悪いことをしてしまうのです。

神さまが最初に造られた人、アダムとエバは、神さまの御言葉にさからって、食べてはいけないと言われていた木の実を食べてしまいました。それが神さまに対する人間の最初の罪です。最初に罪をおかしたのはアダムとエバですが、その後には生まれて来たすべての人が、同じ「罪」をもっています。実際、私たちは心の中で、言葉と行

いで、罪をおかしていますから、「アダムとエバが悪いので、自分には関係ない」などとは言えないのです。

こうして私たち人間は、神さまに逆らい、その御言葉に従わないで生きるようになってしまいました。神さまが喜ばれる良いことを行えなくなっています。そうして神さまの戒めに背いて歩んでいるのです。

私たちもみな、「罪」という悪いものをもっている「罪人」です。だから、悪いことを考えたり、言ったり、行ったりしてしまうのです。こうして神さまの戒めに背くことを「罪をおかす」と言います。

#### 神さまは罪を悲しまれる

神さまは、私たち人間がこのように罪を持っていて、罪をおかしてしまうのを、とても悲しまれます。そればかりか、私たちの心の中も、神さまはぜんぶ見ておられますから、悪いことを考えてしまう私たちを見て、心を痛めておられるのです。

私たちもお父さんやお母さんにしかられてしまうことがありますね。その時、お父

さんやお母さんも、怒っているとしても、心の中で悲しんでいることでしょう。

そのように神さまは、私たちが罪を犯してしまうのを平気ではられないのです。

もし、私たちがその神さまのお心を知っても、前と変わらずに悪いことばかりしていたら、神さまはもっと悲しまれます。そして、いつまでも自分勝手なことばかりして、神さまにしたがわないでいたら、一体どうなることでしょうか。神さまは、とてもあわれみと慈しみの豊かな方ですから、神さまに背いて罪を犯している私たちのことをずっと、忍耐してくださっています。

それでも、神さまは罪を正しくご覧になって、罪をおかしている私たちを必ず罰するお方であることも忘れてはなりません。

友だちがしているからといって、誰か一人をいじめたり、一緒にいじわるをしたりすることも罪です。神さまをとて悲しませることです。

ほかに、人はいろいろな罪を犯してしまいます。本当の神さまだけを礼拝すべきなのに、人が手で作ったものを神さまとして拝んだりすること。神さまにたよらなくても、自分の力で何でもやっていけると思いこんでしまうこと。友だちよりも自分のほうが偉いのだ、とってしまうこと。

みんなで食べ物を分ければみんなにゆきわたるのに、自分だけたくさん取ってしまうこと。助けを求める人がいるのに助けないこと、悪いことをしている人がいるのを

見ても、見ないふりをしていること。うそをつくこと。あげればきりがありません。

これらはみんな罪です。神さまはそれらの罪を悲しまれます。私たちがそのような罪を犯さないで、正しいことを行うようになるのを神さまは望んでおられるのです。

### 悔い改めてイエスさまを信じること

では、私たちは一所けんめいがんばれば、神さまの戒めをちゃんと守っていつも行うことができるのでしょうか。そうして神さまに喜ばれることができるのでしょうか。そうできたらよいですね。でも残念ながら私たちにはその力がありません。

たまには人に親切にしてあげるかもしれませんが、困っている人を助けてあげることも時々はあるでしょう。でもそれをいつも、完全に行うことはできないし、心の中で文句を言ったり、悪いことを考えたりもしてしまうのです。私たちは自分で自分を正しい人にして、神さまにいつも喜んでいただける人にはなれません。

けれども、そんな私たちのために、私たちが罪から救う救い主としてイエスさまが来てくださいました。イエスさまには罪がないのに、私たちの罪の罰を十字架で代わりに受けてくださいました。だから私たちがイエスさまを信じるなら、神さまは私たちの罪を赦して、神さまの子どもとして受け入れてくださるのです。こんなに感謝すべきことはありません。罪を悔い改めてイエスさまを信じましょう。（久保田証一）

---

#### 《今週の暗唱聖句》

わたしは咎のうちに産み落とされ 母がわたしを身ごもったときも わたしは罪のうちにあったのです。（詩編51編7節）

## 11月8日 創世記6章1～8節・子どもと親のカテキズム問22【分級展開例A】

## 罪人の歩み

## おはなし

今日も、わたしたちを愛して下さる天の神さまのことを覚えましょう。

みなさんはうそをついたことがありますか？ 何かを壊したり、失敗した時、「わたしはやっていない」と言ってしまったことがありますか？ お友だちをたたいて泣かせてしまった時、お友だちのもっているおもちゃをとってしまった時、「ぼくはやってない」と言ってしまったことがありますか。

でも、やっぱりばれてしまって「わたし／＼ぼくがやりました」「ごめんなさい」と言うことができたなら、素晴らしいことです。「わかってくれたなら、いいんだよ」と言ってもらえたら、本当に嬉しいことです。

とてもよくないのは、そのうそがばれなかった時です。みなさんは「ばれなかった。怒られずにすんだ。ああよかった」と思うのでしょうか。「でも、何だか心がもやもや、すっきりしない」と感じるのでしょうか。

大切なことを2つ言いましょう。大切なことは、「神さまは何でも知っておられる」ということです。わたしたちの、この心の中をいつも、全部見えておられるのです。そ

して、「わたしたちのわるい心を激しくお嫌いになり、深く悲しんでおられる」ということです。

でも、神さまはわたしたちに罰や、こらしめをお与えになりませんでした。では、神さまのこの「怒り」「悲しみ」「こらしめ」はどこに行くのでしょうか？

それらはすべて、イエスさまのところに行きました。信じられないことですが、神さまは大切なたったひとりの子どもであるイエスさまにすべてのさばきを負わせたのです。それがイエスさまの十字架です。

そうしてわたしたちはゆるしてもらいました。こんなにびっくりすることはないでしょう？おどろくべき神さまの愛に感謝して、今週もイエスさまと一緒に歩みましょう。

## 讃美

「しゅわれをあいす」をみんなで讃美しましょう。聴覚障がいの方々を覚えて、手話をしながら歌ってみるのもよいでしょう。



11月8日 創世記6章1～8節・子どもと親のカテキズム問22【分級展開例B】

## 罪人の歩み

### 1. 反対向きに歩く

人間にとって一番大切なことは「神さまの子どもとして、神さまと共に歩むこと」(問1)でした。しかし罪によって人間は神さまに背いて、正反対の方向を向いて歩くようになったのです。

### 2. 心が曲がっていること

人間の心は神さまに創造されたときは、神さまにまっすぐ向いていました。曲がった心にしがたって歩いていくので歩むべき道から脱線していきます。この脱線が「神さまとの関係」「人との関係」「世界との関係」という3つのことに現れます。ここでは二つを扱います。

### 3. 偶像を拝む

神さまとの交わりが曲がると偶像礼拝が起こります。「食欲は偶像礼拝」(コロサイ3:5)です。偶像を拝み続けることで心はどんどん曲がってしまいます。「神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、おのおのが選んだ者を妻にした」(創世記6:2)。これは信仰者が結婚相手を選ぶとき、つまり一生に一度の決断というようなとき、「美

しい」という基準で選んでしまい、信仰的な決断が後回しになったのです(参考『神と人間 創世記1章～11章講解』榊原康夫著 325頁以下)。信仰的な判断がにぶってはいないでしょうか。

### 4. 憎んだり、いじめること

人間の心は神さまと人とを愛して生きるように造られました。愛することができないことが罪なのです。愛せない心は自分中心の心となります。そして自分も相手よりも優れていると思い込み、相手を差別するようになります。曲がった心から「いじめ」とか「憎しみ」が生まれてきます。神さまから離れて生きていたノアの時代、人間は勝手なもので「常に悪いことばかりを心に思い計っていた」(6:5)のです。さらに「地は神の前に腐敗していた。地は暴虐に満ちていた」(創世記6:11聖書協会共同訳)のです。ノアの時代、暴力が満ちていたのです。そのような時、神さまは「地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた」(6:6)のです。私たちの時代のいじめや暴力も神さまは私たちの思いをはるかに超えて心を痛めていてくださいます。

## 11月8日 創世記6章1～8節・子どもと親のカテキズム問22【分級展開例C】

## 罪人の歩み

①子どもカテキズム問21から、罪を犯した人間が、神さまに背いて歩むようになり、神さまの怒りを受け、ほろびの死に定められたことを確かめましょう。

②ノアの時代に起こった大洪水によって、ノアとその家族以外の人間と、動物一つがい以外の生き物は、すべて滅んでしまいました。どうして、神さまは、このような仕方でご自身の怒りをあらわされたのでしょうか。創世記6章5、6節から考えてみましょう。

③創世記6章3節には、「人の一生は百二十年となった」と書いてあります。これは、どんな人も120歳まで生きられるという意味ではなく、むしろ、死に定められた人間の生きられる年数が、それまでより、ずっと短くなったことを表しています。

そして、「わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから」（創世6：3）との主なる神さまの言葉から、はじめから人間の魂が永遠なのではなく、神さまの霊が永遠であることに、人間の命はゆだねられるものであることがわかります。

ノアと同じように、神を畏れて生きた正しい人、ヨブは、妻以外の家族（息子、娘たち）も、多くの家畜も失い、自分も思い皮膚病を患う苦難の中で（ヨブはこの後、再び、神さまに祝福された生涯を与えられ、140年生きました。）、昔の家族に囲まれた生活を思い起こしてこう言いました。

「わたしはこう思っていた 『わたしは家族に囲まれて死ぬ。人生の日数は海辺の砂のように多いことだろう。わたしは水際に根を張る木 枝には夜露を宿すだろう。わたしの誉れは常に新しく わたしの弓はわたしの手にあつて若返る』（ヨブ29：18～20）。

この言葉は、神さまの祝福を日々新しく感じながら、神さまの栄光をあらわして生きる生活の豊かさを言い表すものです。今、わたしたちが、人間社会の現実を見ると、どのようなことに心が痛むでしょうか。そこからの救いをわたしたちはどなたに求めますか。

④神さまが、罪人を憐れんでくださり、愛する独り子をお遣わしになったことを知るとき、わたしたちはどのように神さまに感謝をあらわすことができるでしょうか。それは、神さまがお造りになったものを大切にしない、自分勝手な生活でしょうか。それとも、神さまを恐れ、神さまとの親しい交わりを大切にして、隣人と世界の人びとを愛することでしょうか。

⑤イエスさまが、聖霊によって、わたしたちの心に住んでくださっていることを信じるとき、わたしたちは、どのようなことを求めてお祈りしますか。

11月15日 ローマの信徒への手紙7章7～25節・子どもと親のカテキズム問23【解説と黙想】

## わたしの罪・神の怒りと裁き

パウロは「律法は聖なるものであり……善いものなのです」（ロマ7:12）と教える。律法は、聖であり善である神から発せられ、人間に神と共に歩む命を与える。律法に聞き従うことで、人間は神の祝福を受け生きる。律法自身が「わたしが今日命じるとおり、あなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒めと掟と法を守るならば、あなたは命を得、かつ増える」（申命30:15）と約束している。

しかし、パウロは、その律法によって「わたしは死にました。そして、命をもたらずはずの掟が、死に導くものであることが分かりました」（ロマ7:10）という。そこに何が起っているのか。理由は明瞭である。人間は律法を聞くことで、善く生きる道を知る。律法は道を照らす光であり、歩みを照らす灯である（詩編119:105）。その律法の要点を、主イエスは神を愛し、隣人を愛することと教えられた（マルコ12:28～33等）。人間は愛に生きるべき存在である。それが律法の要請であり、愛に生きる時人間は神の祝福の中を歩むことができる。しかしその道を進もうとする人間が直面するのは、愛に欠け、無責任で、自己中心的な自分自身という壁である。その壁は高く、強固で、醜く、神と隣人への愛に生きる道を阻む。私たちは日々、神の愛を隣人と分かち合うことを願いながら、実際にはすべてを自分の物にしたいという貪りを発動さ

せ、妬みと裁きと苛立ちに覆われている。本来、律法によって見えるはずの祝福の道は、神に従えない呪いの道として姿を現す。律法はこうも教えていた。律法に聞き従わない者は「必ず滅びる」（申命30:18）と。

「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう」（ロマ7:24）というパウロの悲痛な叫びは私たちの叫びでもある。もはや望みなし。それがエデンの園を追放された人間の姿である。しかし聖書はなおそこに希望を教える。救いの扉は絶望の淵に置かれ、そこに立つ者に開かれる。律法はやはり善きものである。暗闇の深さと濃さを真に知るのは光の明るさを知る者であるから。

パウロは、律法が求める通りに生きられず「望まない悪」ばかり行なう絶望を語りながら、ひと呼吸置き、突然「わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします」（同25節）と、言葉を転調させる。律法によって善く生きることができない、自分を救うことができないことに気づかされた人間は聖霊の風に促されて、救いの扉を開く。希望は復活の主イエス・キリストに救われることにしかない。主は、罪人の最たる者わたしのために世に来られ、わたしの罪を十字架で引き受けてくださり、わたしの命のために復活してくださった。律法によって、私たちは自身の罪深さに気づかされ、主の救いへと導かれるのである（ガラ3:24）。  
(柏木貴志)

《参照聖句》 テモテへの手紙一1章15節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問14, 15、ハイデルベルク信仰問答問2, 3

11月15日 ローマの信徒への手紙7章7～25節・子どもと親のカテキズム問23 【説教展開例】

## わたしの罪・神の怒りと裁き

◇……………単元のねらい……………◇

人間がそれ自身では、救いようのない罪人であるというメッセージは子どもたちにどのような響きをもたらすだろうか。子どもたちが置かれている状況は様々である。わたしにとっては、この教えが慰めとなったことを思い出す。愛の不足に悩む日々は、主の憐れみと赦しを請い願う日々に変わった。自分の至らなさを自問自答する日々は、主に祈り、主と交わる日々に変わった。目の前にいる子どもたちの心を想像しながら、本当のことを語りたい。人間の真実がそのまま提示されることはその意味内容がもつ深刻さに比して、案外、静かな落ち着きを与えてくれるものかもしれない。

### 「神は、苦悩する人間に微笑む」

#### 自分勝手な私たち

皆さん、一週間、元気に過ごせましたか。調子がわるかったり、いやなことがあったりしたかもしれません。時には、大声で叫んだりすることも必要かもしれません。

きょう、みんなで読んだ御言葉にも、パウロ先生の叫びが記されていました。「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう!!」(25節)、先生はびっくりしてしまいました。パウロ先生が“自分はほんとうに情けない人間だ!!”と、まるで壁をドンドンと叩くように、ベッドに顔をうずめるようにして、苦しんでいます。

いったい何があったんでしょうね。

みんなもよく知っているパウロ先生はどういう人でしたか。——そうですね。いろいろな場所を旅して、イエスさまの福音を語りながら、各地に教会をたてていった人です。聖書のことが誰より詳しく、ただ詳しいだけではなくて、聖書が教える通りに生きようとした人でした。パウロ先生は自分でも言っているんですね。「律法の義

については非のうちどころのない者でした」(フィリ3:6)。

そんなパウロ先生がどうして、オレはもうダメな人間だ!! と叫ばなければいけないことになったのか。それはね。パウロ先生が聖書のことをたくさん知って、それで、自分が本当に罪深い人間であること、神さまに対して申し訳ないことばかりをしてしまう人間であることに気づいてしまったからなんです。

今、みんなが読んでいる聖書には、神さまがみんなにこう生きてほしいという願いが書かれています。それが「律法」と言われるものです。「戒め」や「掟」と言われたりもします。そして、その「律法」を守ったら、みんなに祝福をあげる、ずっと一緒に生きていくよ、と約束されています。すばらしいでしょ。聖書に書いてあることをちゃんと守れば、みんな、幸せだよと言われている。こんなに良いことはない。こんなに簡単なこともない。みんなが幸せだなあといいながら生きられる秘訣が聖書に

は書いてある。もう至れり尽くせりです。神さま、それでいいんですかという感じでしょ。

いいですよ。でも、ここだけの話、みんな、聖書を全部、読んだことある？ そこに書いてあることを全部、守るのは大変でしょ。

イエスさまがいいことを教えてくださっています。神さまが願っておられるのは、要するにこういうことだとバシッと短くまとめてくださいました。それは神さまを愛することと、隣人を自分のように愛すること。「この二つにまさる掟はほかにない」(マルコ12:31)。

ここまで聖書には書いてくれています。もう、みんなの幸いな毎日は約束されたみたいなのです。よかった！ よかった！が、パウロ先生も最初はそう思ったんです。パウロ先生の場合は聖書の端から端まで全部、覚えるぐらいの気合で読んで、よしっ、自分は「律法の義については非のうちどころのない者」だから、神さまの祝福だらけになると思った。でもね、神さまを愛することと、隣人を自分のように愛することを真剣に、本当に真剣に、パウロ先生が考え始めた時に、ちょっと待てよと、これは全然、簡単なことではないと気づくんです。パウロ先生はこうも言っています。「わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです」(15節)。

みんなはこのパウロ先生みたいな経験はないかな。先生はありますよ。今もこんな感じです。先生も枕に顔をつけて叫びたくなる時があります。「律法」に書いてあることは本当にすばらしいことです。その通りに生きたら、祝福をと約束されているん

ですから、守ったらいいんです。守りたいんです。でも、できない。神さまが教えてください。愛から遠い。

みんなはどうでしょう。「律法」には「父母を敬え」とあります。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの言うことをちゃんと聞いていますか。うるせえなあと思ったりしていませんか。思った時点でアウトです。もう失格。もう罪人です。「殺してはならない」という教えもあります。誰かを実際に殺めなくても、あんなやつ今すぐ目の前からいなくなればいいのにと思った時点でアウトです。それだけではなくて、その人が幸せに生きられるようにお手伝いしなかった時点でアウト。どうでしょう。そうやって考えていくと、だんだんとパウロ先生の気持ちが分かってきませんか。ああ、なんて自分はダメな人間なんだろう!! って。

おそらく、みんなは良い人たちなので、瞬間風速的には良い風を自分の周りに吹かせることができるんでしょう。お家のお手伝いもするでしょう。教会で困っている人がいたら声をかけたり、助けてくれたりもするでしょう。みんながいてくれるだけで周りの人は幸せ、そういうことがあるでしょう。でも、どうでしょう。それをずっとし続けられますか。あるいは、このことをしたらほめられるかもしれない、そんな“下心”が芽生えてきたりしませんか。人の目はごまかせても、神さまの目はごまかせません。どんなに善いことの中にも、罪人である私たちがすることには濁りが混じります。清い愛の中に陰りを生んでしまいます。

パウロ先生も自分の心を丁寧に、丁寧に見つめていくと、神さまが教えてくださっ

た「律法」の意味をちゃんと考えていくと、とてもとても、自分は立派な人間とは言えない、惨めで情けない人間だと分かったんです。そして、それがパウロ先生にとって大切なことでした。

パウロ先生は、自分はなんと惨めな人間だ!! と叫んだあと、突然に、「わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝します」(25節)と、もっと大きな声で叫んでいます。パウロ先生は、自分の力では神さまが願ってくださる通りには生きられない、まったく情けない人間だと気づいたときに、そうだ!! と思うのです。だから、イエスさまがこの世に来てくださったんだと、だから、わたしの罪を担って十字架にかかってくださったんだと、だから、わたしを生かすために復活してくださったんだ

と。自分にはできないことを、イエスさまが全部してくださった。感謝します!! と、パウロ先生はうれしくなって大声で叫ぶんです。

皆さん、いいですか。先生も、みんなも罪人です。神さまから怒られてしまう存在です。でも、神さまは赦してくださいます。イエスさま、ごめんなさいと、悩んで、苦しんで、真剣にお祈りする人の声を聞いてくださいます。自分の力で立派に生きようとすることは大切です。けれども、みんなを幸せにするのは、神さまの愛と赦しです。先生の好きな言葉に、「神は、苦悩する人間に微笑む」というのがあります。神さまは自分の罪に気づき、悩み、叫ぶ罪人の祈りを聞いてくださいます。(柏木貴志)

---

《今週の暗唱聖句》

「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。

(テモテへの手紙一 1章15節)

11月15日 ローマの信徒への手紙7章7～25節・子どもと親のカテキズム問23 【分級展開例A】

## わたしの罪・神の怒りと裁き

### もくてき

単元の目標：わたしは神の御前に罪人であることを理解する。

世界中さがしても、これらのことを守れる人は一人もいません。守ることができない人は、罪ある人です。

### おはなしの例

みんなは神さまが好きですか？

(子どもたちの声を聴く)

お友だちは好きですか？

神さまは、これらのことを全部守ることが出来ないのに、全部守ることができる人ではなく、守ることができません、と言う罪人のためにイエスさまをおくれました。

毎週日曜には教会に来ていますか？

おとうさんとおかあさんは大切ですか？

うそをついたことがありますか？

イエスさまが、みんなを愛しておられるので、みんなの罪をゆるすために来てくださったことを、有難うございます、と祈って神さまに伝えましょう。

そして、お友だちにもイエスさまのことを教えてあげましょう。

誰かのものが欲しくてしかたがなくなったことがありますか？

11月15日 ローマの信徒への手紙7章7～25節・子どもと親のカテキズム問23【分級展開例B】

## わたしの罪・神の怒りと裁き

### もくひょう

自分は神の御前に罪人であり、神の求めに応えることができない者であることを、御言葉から知る。

### おはなしの例

みなさんは、かみさまは好きですか？ いっしょにお家に住んでいる人は好きですか？ともだちはいますか？ きつともだちは好きでしょう。

私が5歳のとき、まわりはやさしい人ばかりでしたから、みんな大すきでした。

でも、きれいな人が二人（十一匹）いました。“一匹”というのは、5歳の私のおしりをガブリとかんだ近所の犬です。

“二人”のうちのひとは、工場で働いていたヒゲのおじさんです。工場の向こうのともだちの家に行くとき、たいてい通せんぼをしてくれます。もうひとは、幼稚園で隣にいるKくん。いつもちょっかいを出してくれます。

嫌いな人や犬は、会いたくないなあと思えば思うほど、もっと嫌いになります。

けれども、犬にかまれたことを飼い主さんに言ったので、その犬はすごくしかられてしまいました。工場を通るときに通せんぼされることは工場長さんに告げ口をした

から（かなあ）、間もなくヒゲのおじさんを見なくなりました。Kくんのことも先生に告げ口したので、Kくんはしかられて、半べそをかいていました。心の中で“ざまあみろ”と思って、すっきりしました。

それから3年たった夏休みの終わりに、YMCAの子どもキャンプに参加しました。子どもキャンプの朝は、小さな礼拝から始まります。そこで、イエスさまが、“心をこめて神さまを愛し、隣りの人を自分のように愛しなさい”と、言われたことを初めて知りました。その時、3年前のことを思い出して、愛とはほど遠い自分の冷たい心に気づきました。イエスさまのおっしゃった言葉を知らなかったら、自分が冷たい愛のない者だと気づけなかったに違いありません。

聖書は私たちに、何が神さまの喜ばれる良いことで、何が神さまの悲しまれる悪いことかを教えてくれます。教えてもらわなければ、わかりません。

良いことは良いから、悪いことは悪いから、というのではなく、神が喜ばれるか悲しまれるか、その“ものさし”となるのが聖書です。そして、それが分かれば、つぎに何をすればよいかも聖書は教えてくれます。



11月15日 ローマの信徒への手紙7章7～25節・子どもと親のカテキズム問23 【分級展開例C】

## わたしの罪・神の怒りと裁き

- ①子どもカテキズム問23に自分の言葉で答えられるでしょうか。もしむずかしければ、答えをもう一度確かめてみましょう。
- ②「神さまの御前に」とは、十戒の第一戒「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」(出エ20:3)の「わたしをおいてほかに」と翻訳された言葉のももとの意味です。あなたにとって、神さまがすべてを見て知っておられることは、大きな安心を感じることでしょうか。もし、そうでないなら、それはなぜでしょうか。思いあたる罪や心の痛みがあるでしょうか。
- ③神さまが、罪人を裁かれるとき、怒りにまかせて裁かれるのでしょうか。それとも、ご自身の義においてでしょうか。神さまの義はどのようにして知ることができますか。
- ④ユダヤ教の先生たちは、人間の罪の力(悪の思いや衝動)を認めていましたが、律法を学ぶことによってそれに打ち勝ち、律法が命を与えると、教えていたようです。パウロは、むしろ、律法が、死をもたらすものと言います。どうして、「命をもたらすはずの掟が、死に導くものであること」が分かったのでしょうか。
- ⑤じつは、パウロ自身も、「わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン属の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファイサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした」(フィリ3:5,6)と回顧するほどに、当時の人びとに対して、誇るものがたくさんありました。パウロがそのような自分にとって有利であったものをキリストのゆえに損失とみなすようになったのはなぜだと思いますか。ローマの信徒への手紙7章における律法と罪と死についての認識から考えてみましょう。
- ⑥パウロは、自分の惨めさを認めつつ、死に定められた体からの救いを求めていますことに導かれています。パウロにとって、イエスさまを信じることは、このように、自分と深く結びついています。あなたにとって、イエスさまを信じることで、自分の惨めさを認めることはどのように結びついて受けとめられていますか。
- ⑦パウロは、「わたしは罪人の中で最たる者です」と言いました。それはどのような思いから出た言葉だと思いますか。もし、わたしたちが皆、パウロと同じように言うことができたなら、人間の社会(家族も、教会も含めて)はどのように変わると思いますか。

11月22日 マタイによる福音書18章21～35節・子どもと親のカテキズム問24 【解説と黙想】

## 完全な墮落・キリストの贖罪

### 問24の位置付け

問23で、私たちは神の前に罪人で、神の怒りと裁きを受けなければならないことを見た。問24ではその怒りと裁きから自分では救われないことが記される。聖書の言う「罪人」は、単に罪を有するだけでなく、その罪を自力で処理できない状態を意味する（神学用語で“全的墮落”）。子どもカテキズムは、自力で罪を償えない罪人のための神の御業について問25で、その神の御業として遣わされる救い主イエス・キリストについて問26以降で扱う。

この單元では「人間は自力では救われない」という人間の状態、それ故に「救い主の必要性」を語ることが求められている。

### 聖書箇所との関連

新共同訳聖書では「仲間を赦さない家来のたとえ」という表題がつく。このたとえの主題は、33節以降の「憐まれた者として仲間を憐れむ」である。しかしこの部分を詳細に扱うと、カテキズムの主題がぼやけてしまうので、ここではあくまでもカテキズムをメインに据えて扱うこととする。

カテキズムと聖書箇所との関連で着目すべき二点を取り上げることができる。①罪は神に対する負債（借金）と表現され、それは非常に大きい。②その大きな借金は主人（神さま）の憐みによって赦されなければ、自力で返すことは出来ない。

### 問24の射程

私たちは、イエス・キリストによる救いを信じ、その福音を宣べ伝えているが、「そもそもなぜ、イエス・キリストが必要なのか？」という問いに、根本的に答えるのがこの問24である。

罪人が「自分で自分の罪を償うことができない」という事実の理解は「自分以外の償い主」の必要性を浮き彫りにし、この後続くカテキズムで救い主の意味を浮き立たせる。自力で救われる可能性が残るのであれば、神の恩恵は損なわれることになる。これこそ、パウロやアウグスティヌス、宗教改革者たちが聖霊に照らされて命を賭けて主張した福音の根幹である。

私たちが頑張って登っていくことによって神の救いに到達するのではない。人間が自分の力でどれだけ登ろうが、神の救いに到達することはできない。その人間に対して、神ご自身が降って来られたのである。

### 説教へ

外せない参照聖句はロマ7章である。パウロは罪人である自身の状態を「自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている」（19節）、「罪の法則に仕えている」（25節）と著した。私たち（子どもたち）の現実の罪人の状態を聖書に即して捉え、問25以降で扱う「償い主である救い主」の存在が光り輝くよう語りたい。（大宮季三）

《参照聖句》 ローマの信徒への手紙7章14～25節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問 問19、ハイデルベルク信仰問答問 問13

11月22日 マタイによる福音書18章21～35節・子どもと親のカテキズム問24 【説教展開例】

## わたしの罪・神の怒りと裁き

### ◇単元のねらい◇

子どもと親のカテキズム問24を聖書に基づいて正しく理解し、罪人である私たちは自力では救われず、それ故に、罪を償うことができる存在“救い主”が自分の人生に必要なことをおぼえたい。

### 「残念な人間」

#### 前回の復習と問24の要点

今日も、子どもと親のカテキズムを通して聖書の御言葉を学びましょう。先週、問23では、私たちが神さまの前に罪人であること、そして罪人である私たちは神さまの怒りと裁きを受けなければならないということ学びました。今日は問24です。

問24 自分の力で神さまの怒りと裁きから救われることはできますか。

答 いいえ、できません。私たちは、悪へといつも向かってしまい、どんなに良い行いをしても、神さまの御前に自分の罪をつぐなうことはできないからです。

神さまは完ぺきなお方です。ですから、私たちの罪をはっきりと「それは罪だ！」とおっしゃいます。私たちは、神さまの前に罪をごまかすことはできないんですね。ですから、罪をなんとか解決しなければ、神の国である天国に行くことはできません。前回学びましたように神さまの「怒りと裁き」を受けなければならないんですね。

私たちは罪人なので、その罪をなんとかしなければならぬのですが、今日のカテ

キズム問24には非常に残念なことが記されています。「自分の力で神さまの怒りと裁きから救われることはできますか」という問いの答えは「いいえ、できません」です。みんなは漢字のテストや算数のテストで百点を取ったことがありますか？学校での授業を聞いて、宿題をちゃんとやれば、テストで百点を取れるかもしれません。ですが残念ながら神さまの国である天国に行くテストでは、人間がどれだけがんばっても百点をとって天国に行くことはできないんです。

#### 神さまの前に借金がある私たち罪人

先ほど読みました聖書の箇所にも、主人にたくさんお金を借りている家来が登場しました。お金を借りることを「借金」と言います。借金は後で返さないといけません。借金がたくさんあると後でたくさんのお金を返さないといけません。お金を返すことはとても大変なことです。ですからお金はできるだけ借りない方がいいですね。でも実は私たちが神さまの前に罪人だということは、私たちが神さまの前に借金をしているようなものだと聖書は教えているんですね。お金を借りたら、返さなければな

らないように、神さまの前に罪を犯してしまったら、その罪をなんとかしないとイケないですね。

しかも、この家来と同じように、私たちが持っている“借金”である罪は、とっても大きいんですね。

### 「罪の法則」に仕えている私たち罪人

さらに、カテキズムには「悪へといつもむかってしまう」と記されていました。自分の罪をなんとかするどころか、罪人である私たちは、ますます罪を犯してしまうということが記されています。

私たちは悪い言葉を言ってしまう時があります。その時どういう思いで、その言葉を言っていますか？「仲良くしたくない」、と思っている時もあるかもしれませんが、「仲良くしたい」と思いながらも、悪い言葉を言ってしまう時があります。本当は相手が悪くないと分かっている、相手が嫌がる言葉を言ってしまう時があります。罪を犯したくなくても罪を犯してしまう。良いことをしようと思っても、悪いことをしてしまう（ロマ7:19）。聖書ではそれを「罪の法則」と呼んでいます（ロマ7:13）。人間は、どれだけ罪を犯さないようにしても、罪の心を持ち、罪の言葉を言い、罪を行なってしまうんですね。残念だし悔しいけど、これが私たち罪人の姿なんですね。

### 自分以外の償い主の必要性

神さまの前に罪がある、その罪をなんとかしなければ「神さまの怒りと裁き」を受

けなければならない、でも自分ではそれをなんともできず、「悪へといつも向かってしまう」。子どもだけではありません。大人も、先生も、テレビに出ている有名な人たちも、立派に見える人もみんな同じです。困りましたね。自分ではどうすることもできないんです。みんなは自分でできないことをどうしますか？お父さんやお母さん、先生に助けてもらいますね。自分ではどうすることもできないなら、誰かに助けてもらわないとイケない。でも、お父さんもお母さんも先生もみんなの罪をなんとかすることはできません。人間では人間の罪をなんとかすることはできないんですね。

では、誰が私たちを罪から助けて下さるのでしょうか？そうですね、神さまです。イエスさまです。私たちが自分たちでどんなにがんばっても神さまのところにたどり着くことはできないんですね。でも、神さまはそれを見て「あなたたちはもうダメです！」と諦めることをされませんでした。がんばっても上に上がれない私たちのために、神さまが人となって、下に降りてきて下さったんですね。それが、みんなもよく知っているイエスさまです。

私たち罪人は自分で自分を救うことはできない。だから私たちには救い主イエスさまが必要です。イエスさまのことを記している聖書が必要です。聖書のことを教える教会が必要です。だからみんなはこうやって教会に来る必要があるんですね。お祈りをしましょう。（大宮季三）

---

### 《今週の暗唱聖句》

わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。

（ローマの信徒への手紙 7章 19節）

11月22日 マタイによる福音書18章21～35節・子どもと親のカテキズム問24 【分級展開例A】

## 完全な墮落・キリストの贖罪

### もくひょう

自力で自分を救えないことを知る。

### おはなしの例

教会の二階の玄関から、お隣の小学校のスイミング・プールが見えます。夏には、さぞかし気持ち良さそうです。でも冬の間は、新しい水に換えられることもなく、底が見えないくらい汚れてにごっています。

もし、そんなにごったプールにあやまって落ちたとしましょう。からだ全部へドロのようなどろ水につかったら、右手のどろを取るためにどろのついた左手で右手をぬぐっても、両手ともどろだらけです。

罪は目に見えませんが、見えたらプールのへドロより真っ黒でしょう。罪は、少しか多いか、薄いか濃いかな、ではありません。罪があるというのは、全身が真っ黒だとい

うこと。右手で左手の罪をぬぐっても、両手とも、いえ、頭のとっぺんからつま先まで、表も裏も、外も内も罪で真っ黒のままです！

罪から救われるのは、自分ではできません。

では、このままでよいですか？

なぜ、このままではいけないのですか？  
(答えとして、先週の「神の怒り」や10月18日以降学んでいる「罪の起源」「罪とは何か」「罪の悲惨」に関することが、子どもたちから発せられるよう導く)

神さまは、人間のこのままではいけない罪を何とかしようと、イエスさまをおくってくださいることになったのです。

11月22日 マタイによる福音書18章21～35節・子どもと親のカテキズム問24 【分級展開例B】

## 完全な墮落・キリストの贖罪

### もくひょう

神の御前に、自分の罪を償い得ないことを知る。

### おはなしの例

社会で法をやぶったら罪を問われます。裁判で罪がたしかめられて、その罪に合った刑罰をうけます。その罪の罰として、刑をうけて従うことを“つぐない”と言います。

わたしたち人間が神に対して犯す罪は、罪の重さを知って、だめだなあと反省するだけでは消えません。どんなに良いことをしても、神の前に罪を完全につぐなうことはできません。

罪が人間に入ったときから、何をしても、罪は残り続けます。良いことを積み重ねることもできないばかりか、良いことをしているつもりでも、また罪をつくってしまうほどです。それが罪の人間の望みのないすがたです。

大切なことは、

- ①この罪の人間の本当のすがたをしっかりと見て、知ることです。
- ②そして、この世のすべての人間は、神の前に罪があり、罪のないひとは一人もいないことを知るということです。
- ③そうして、自分ももれなく罪ある者だと気づくことです。

聖書は、この大切なことを教えます。

また、聖書は、どうすればこの罪がつぐなえるのか、をも教えてくれます。

ただしい神さまは、人間を罪のままでは放っておくことが出来ず、驚くことをなさいました。何をなされたのでしょうか。

それは、来週のおはなしです。

わくわくします。早く罪から離れたいですね。神さまに期待してお祈りしましょう。

11月22日 マタイによる福音書18章21～35節・子どもと親のカテキズム問24 【分級展開例C】

## 完全な墮落・キリストの贖罪

- ①ペトロはどうして、イエスさまに「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」と聞いたのでしょうか。「仲間を赦さない家来」のたとえの前の箇所、マタイによる福音書18章1～20節を読んで考えてみましょう。
- ②ペトロは、ただ、自分に対して罪を犯した兄弟を何回赦すべきか、と、許される回数を尋ねているのでしょうか。「七回まで」とは、ペトロ自身、七回までならすすんで赦すことができそうだと、思っていたのでしょうか。
- ③「堪忍袋の緒が切れる」という言葉もあるように、それ以上我慢ができなくなると怒りが爆発したことはなかったでしょうか。人間の優しさや忍耐には、限界があると言えるのではないですか。
- ④どうして、イエスさまは、「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい」と、いわば、限界をもうけないで赦しなさいと言われたのでしょうか。
- ⑤「一万タラント」の借金とは、一生働いても、返すことのできない莫大な金額どころから、16万年分の賃金です。それを帳消ししてもらった家来は、どうして、自分に百デナリという三ヶ月ほどの賃金に相当する借金を返すように要求するだけでなく、返金を待つように頼んだ仲間を返すまで牢に入れたのでしょうか。「神の御前にある罪人の罪の代価」はどれほどの大きなものと知ることができますか。
- ⑥「仲間を赦さない家来」のたとえは、「無慈悲なしもべ」のたとえとも呼ばれます。イエスさまは、このたとえ話をおして、神さまの御前にある罪の代価が計り知れないことを教えておられます。それに比べて、人間同士の罪は大きいでしょうか。それとも、小さいでしょうか。
- ⑦人間同士の罪も、神の御前にある罪と言えるでしょうか。そうであるなら、その罪を本当に赦すことができる方はどなたでしょうか。イエスさまの慈しみの大きさをわたしたちは計ることができるでしょうか。
- ⑧このたとえ話で、「主君」とは、イエスさまをわたしたちに与えてくださった「本当の神さま」です。「わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」という問いかけにあなたはどうか答えますか。イエスさまの十字架の上でさげられた贖いの代価はどれほどのものですか。
- ⑨イエスさまが教えてくださった、主の祈りの第五の祈り「我らに罪を犯す者を我らがゆるすごとく我らの罪をもゆるしたまえ」は、あなたにとって、どのような心でさげられていますか。

11月29日 ヨハネによる福音書10章7～18節・子どもと親のカテキズム問25【解説と黙想】

## 救い主の約束

子どもと親のカテキズムは問17から人間の項目が論じられています。人間の項目では人間の創造と罪が扱われてきました。人間が罪人であるということが示された後に本日の問いは置かれています。

問24で人間は自分の力で神の怒りと裁きを避けることができない、自分自身で罪を償うことができないということが明らかになりました。

そして本日の問いで、自分の力で罪を償うことができない人間に神は救い主を約束して下さったということが語られています。答えにはいくつか大事なフレーズがあります。

一つ目は「あわれんで」です。神が私たちに向けられる憐れみであり、慈しみであり、愛であるということです。

二つ目は「ご自分の子どもに回復しようと」です。もともと人間は神にかたどられた素晴らしい存在でした。その素晴らしい状態を神は再び私たちの手に取り戻させようとして下さっています。子どもと親のカテキズムの主題は人間が神の子どもとして歩むということです。

私たちが神の子どもとして歩いていくことができるのは、神が憐れみによって私たちを再び神の子どもにしてくださるからこそ可能なのです。

三つ目は「御心のままにあらかじめお定めになった」です。私たちの救いは決して偶然ではありません。神は私たちが生まれる前から私たちを選んでおり、愛して下さいました。それゆえに私たちの救いは決して揺るがない確かなものであると確信することができます。

四つ目は、「この救い主によって、神さまは私たちを罪とほろびから救い出してくださいます」です。神は憐れみ、神の子に回復させるために、イエス・キリストをこの世に送って下さいました。この救い主によって、私たちは罪によって滅びることなく、救い出されるのです。イエス・キリスト以外に、私たちを罪と滅びから救い出す方はいません。

子どもと親のカテキズム問25は、ヨハネによる福音書10章10節が引照聖句として挙げられています。ヨハネ10章はキリストが羊飼いであるということが強調されている段落です。イエス・キリストがこの世にきた理由は、羊たちが命を豊かに受けるためです。キリストは私たちが豊かになるために、命を捨てて下さいます。十字架で命を捨てて下さったことにより、羊である私たちは、罪と滅びから救い出されるのです。(高内信嗣)

---

《参照聖句》 エフェソの信徒への手紙1章5節、マタイによる福音書9章13節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問 問19、ハイデルベルク信仰問答問 問13



11月29日 ヨハネによる福音書10章7～18節・子どもと親のカテキズム問25【説教展開例】

## 救い主の約束

◇..... 単元のねらい .....◇

まず私たちが神から罪と裁きを受ける罪人であることを認識したい。そして、罪と裁きを受けるべき私たちを神はお見捨てにならず、私たちを救うために救い主イエス・キリストを約束してください。この事実は神の深い愛が表されている。このことを自覚することがこの単元の狙いである。

### 「神さま、私たちを見捨てないの？」

みなさん、おはようございます。今日も一緒に聖書のお話を聞きましょう。

神さまはこの世界をお造りになりました。そして神さまは私たち人間もお造りになりました。私たちは神さまのかたちに似せて造られたと聖書に書いています。神さまは他のものよりも丁寧に私たちを形作ってくださったのです。

私たちは神さまに造られた素晴らしい存在です。神さまによって最初に造られた人間はアダムさんとエバさんです。ですが、アダムさんとエバさんはいつまでもその素晴らしい姿でいるわけではありませんでした。彼らは蛇さんのうそを信じてしまい、神さまの言いつけを守ることができませんでした。それから人間は神さまの言うことを守ることができなくなりました。神さまから離れ、神さまを傷つけてしまいます。

そして、それは神さまに対してだけではありません。他の人間も私たちは傷つけてしまいます。お父さん、お母さん、お兄ちゃん、妹、お友だち、クラスメイト。私たちは多くの人を傷つけてしまいます。

みんなの一週間はどうかだったかな。楽しく過ごせましたか？ 楽しかった子もいる

と思いますし、あるいは全然楽しくなかった。嫌なことばかりあったっていう子もいると思います。お友だちに嫌なことを言われた。もしくは自分が嫌なことを言ってしまった。喧嘩してしまった。お父さんが「勉強しろ、勉強しろ」うるさくて、隠れてゲームしてたとか、いろいろあるかもしれませんね。弟や妹をいじめてしまった。お兄ちゃんにいじめられた。いろいろあったと思います。僕らはね。どんなに真面目だったとしても、完璧な人間として生きることはできません。絶対に人を傷つけるし、傷つけられます。

この世界の中で「完璧な人間」なんかいません。いたら紹介してください。それは嘘です！ 自分は完璧だって主張する人ほど、人を傷つける人が多いですよ。正しいことを言う人はいますし、とっても良いことをする人はいます。でも「完璧な人間」はいないのです。私たちはみんな「罪人」なんです。神さまを愛することができないし、人間を愛することができません。

こんなこと言うと少し怖いかもしいけど、大事なことを言いますね。人間は必ず死んでしまいます。私たちは罪人だから

必ず死ぬんです。僕らがものすごく深刻な状態であるってことは分かったかな。でもみんな安心して！ 今日のカテキズムを読みましょう。

問25 神さまは、このような罪人となった私たちを、ほろびるままにお見捨てになりましたか。

答 いいえ。神さまは、私たちをあわれんで、救い主によってご自分の子どもに回復しようと、御心のままにあらかじめおさだめになりました。この救い主によって、神さまは私たちを罪とほろびから救いだしてくださいます。

みんな一安心してくれたかな。よかったですね。神さまは私たちをお見捨てになってはいません！ 神さまは罪人である私たちが救われるために、救い主を用意してくださいました。この救い主って誰のことかな？ もうわかっているような顔をしているね。そうです。イエスさまのことですね。神さまは私たちが生まれるずっと前から、私たちのことを知っていました。そして、その時から私たちをイエスさまによって救い出そうと決めておられたのです。ここに神さまの大きな愛があります。私たちが神さまのことを知るずっと前から、神さまは私たちのことをずっと見ておられ、愛してくださっているのです。

さて、では私たちを救ってくださるイエスさまとはどんなお方でしょうか。

今日の聖書箇所を見ていただけますか。イエスさまは11節以下でこう言っています。

「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。——彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。」

雇人というのは、お金をもらって働く人のことです。お金をもらうことが一番の目的です。お金をもらうために羊のお世話をします。でもお金が一番だから、羊のこともなんか大事に思っていない。ある時、狼が羊の群れのところにやってきました。雇人さんも命が危ないです。羊のことはどうでもいいと思っています。だから、雇人さんは、自分を守るために逃げ出してしまいました。

でも、イエスさまは違います。イエスさまは「わたしは良い羊飼いです」とおっしゃいました。そして、「羊のために命を捨てる」とも言われました。それはなぜでしょうか。それは雇人さんと違って、私たちを心にかけてくれているからです。イエスさまは私たちのことを愛しているからです。神さまも私たちのことを見捨ててはおられないからです。神さまもイエスさまも私たちのことを本当に大事にしておられます。だから、神さまは私たちにイエスさまをくださいました。そして、イエスさまは私たちのために命を捨ててまで、私たちを守ってくださいます。

罪人である僕らは、神さまの子どもでなくなってしまうと言うことができず。本当は神さまに造られた神さまの子どもなのに悲しいですね。

でも、救い主であるイエスさまは、わざ

わが僕たちが受けなくてはいけない罰を十字架の上で受けて、死んでくださいました。そのおかげで、僕たちはもう一度、神さまの子どもになったのです。

また新しい一週間が始まりましたね。嫌なこともたくさんあるかもしれませんが、友だちを傷つけてしまう失敗をするかもしれません。でも、そんな君を神さまはずっと

前から見つめておられました。そして、イエスさまは命を捨ててまで、あなたを赦してくれました。だから大丈夫。君は神さまの子どもです。色んな失敗をしながらも、イエスさまをいつも思い出しながら、生活してみてください。イエスさまはいつもあなたと一緒にいてくださいます。

(高内信嗣)

---

《今週の暗唱聖句》

わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

(ヨハネによる福音書10章11節)

11月29日 ヨハネによる福音書10章7～18節・子どもと親のカテキズム問25 【分級展開例A】

## 救い主の約束

### もくてき

罪人の私たちを見捨てることなく、かえって可哀そうに思い、神の子にしてください。さる神の愛を伝える。

### おはなしのすすめ方

ヨハネによる福音書10章11節から15節を中心に話す。

### おはなしの例

羊は、おとなしい動物です。いつもは、何匹もの羊たちと群れになって過ごします。なぜなら、一匹で過ごすのは危険がいつぱいだからです。

群れの羊を、まとめるのは羊飼いです。羊飼いが、おいしい草のある草原に連れて行ってくれます。羊たちの喉のどがカラカラにならないように、羊飼いは水のあるところもちゃんと知っています。

ときにはオオカミがやって来ます。オオカミは羊をえさにしようと、牙をむいて、どの羊にしようか、と襲って追いかけます。羊たちはみんなそれぞれに逃げるので、群れがバラバラになってしまいます。

悪い羊飼いは、オオカミを見ると、羊をそのまま置き去りにして逃げます。しかし、良い羊飼いは、オオカミから羊を守ります。命がけでオオカミと戦います。そして、羊を寄せ集めて、おうちに連れて帰ります。

羊も守ってくれる羊飼いの声を覚えて、怖いオオカミが来てもやっつけてくれる羊飼いに頼りたのみます。

イエスさまは、ご自分のことを「わたしは良い羊飼いです」と言われます。イエスさまが羊飼いですら、羊はだれでしょう？

羊はわたしたちです。わたしたちは、自分たちの羊飼いですであるイエスさまを知っていなければなりません。

### もんだい

しつもん1

「良い羊飼いです」はどんな羊飼いですか？

しつもん2

「良い羊飼いです」はだれですか？

「羊」はだれのことですか？

しつもん3

「良い羊飼いです」であるイエスさまをもっと知るためにはどうすればいいですか？

11月29日 ヨハネによる福音書10章7～18節・子どもと親のカテキズム問25【分級展開例B】

## 救い主の約束

### “イエスは良い羊飼い”

イエスさまは、よくたとえ話をされます。今日は、ご自分を「良い羊飼い」にたとえられました。

良い羊飼いは、羊を守り、牧草地に羊を連れていきます。しかし、周りには危険もあります。羊を奪ったり、追い散らしたり、屠ったり（殺したり）するオオカミも出ます。

そのうえ、羊飼いのようにしていながら、良い羊飼いでない者は、オオカミが来ると、羊を見捨てて逃げてしまいます。

羊をオオカミから守り、羊のための牧草をいつも心にかけている良い羊飼いのように、イエスさまは羊のために命を捨てる、と言われます。

イエスさまが養われる羊はご自分の羊ばかりでなく、他の囲いの羊をも導かれます。

もうみんなも気づいているでしょう。

イエスさまが良い羊飼いなら、飼われる羊は、イエスさまのことを知っているわたしたちです。そして、他の羊は、まだ教会に来ていない人たちのことです。その人たちも導かれたら、イエスさまが誰か知るようになります。その羊たちの群れは教会です。

良い羊飼いが命を捨てるのは、羊のためです。ご自分が良い羊飼いと言われるイエスさまも、「命を捨てる」ことをなさいました。わたしたち「羊のため」です。

それが、イエスさまが十字架についてくださった理由です。

わたしたちを罪とほろびから救うために、命を捨てて救い主となってくださったことが十字架のできごとです。

一人でも多くの人びとがイエスさまのことを救い主と信じることができますようにお祈りします。

11月29日 ヨハネによる福音書10章7～18節・子どもと親のカテキズム問25 【分級展開例C】

## 救い主の約束

- ①子どもカテキズム問25の「救い主」とはどなたでしょうか。
- ②イエスさまは、ご自身のことを、第一に、「わたしは羊の門である」とおっしゃいました。この「羊」は、イエスさまの前に来た、「盗人」や「強盗」の言うことは聞かなかったとあります。いったい、この「盗人」や「強盗」とはだれのことでしょうか。また、「羊」はだれのことでしょうか。
- ③イエスさまは、第二に、「わたしは門である」とおっしゃいました。イエスさまがユダヤにおられた当時、羊は一つの囲いの中に入れられた安全に過ごしました。その一つの囲いに一つの門がありました。「わたしを通過して入る者は救われる」とは、その門が、「羊」にとってどのような門であることを教えていますか。
- ④イエスさまは、第三に、「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるため」と言われました。イエスさまは、「羊」である罪人が救われて、命を豊かに受けるために、どのようなみ業を成し遂げてくださいましたか。「わたしは命を、再び受けるために、捨てる」「だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。」との御言葉から考えてみましょう。
- ⑤イエスさまは、第四に、「わたしは良い羊飼いです」と言われました。「わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている」のは、「父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである」と言われました。永遠の神さまの独り子でありながら、まことの人となられたイエスさまと父である神さまは永遠の交わりをもっておられるお方です。  
ヨハネの手紙一1章3節には、「わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです」と伝えられています。わたしたちが、この神さまとの交わりをもつとき、どのように歩んでいきますか。それは、闇の中でしょうか。それとも、光の中でしょうか。
- ⑥イエスさまは、第五に、「わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かねばならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。」と約束されました。この「囲いに入っていないほかの羊」とはだれのことでしょうか。
- ⑦だれ一人として、罪の代価を払うことができません。しかし、イエスさまが、わたしたちの罪のために十字架の上に、命をなげうってくださいました。この豊かな命を受けるために、わたしたちはイエスさまを愛しますか。そして、イエスさまが愛されている人を大切にしますか。

12月6日 ルカによる福音書1章26～38節・子どもと親のカテキズム問26【解説と黙想】

## 子なる神・二性一人格

### テキストの解説

ルカの伝える「受胎告知」の記事である。主イエス・キリストの誕生の次第を書き記すために、福音書記者ルカは、母マリアにその話を聞いたに違いない。マリアは特別な女性だったわけではない。ガリラヤのナザレという町に住む、ごく普通の少女だった。大天使ガブリエルが告げたのは、神の民を罪から贖い出す救い主となる者を、自分が宿すという衝撃的なものだった。救い主を身に宿す。それは神の与えたしるしであり、神の働き以外の何物でもない。38節の「お言葉どおり、この身になりますように」というマリアの言葉は、「神にできないことは何一つない」という言葉を受け、聖霊に促されてなされた信仰告白である。

### 教理の解説

主イエス・キリストは、神であり人となられた、神の選びの民の唯一の贖い主である、という教理を「二性一人格」と呼ぶ。主イエス・キリストは神なのか、人なのか、という長き論争は、451年のカルケドン公会議で決着がつき、三位一体論と同じく、教会の信仰の土台となっている。神との関係が罪によって永遠に断絶された罪と滅びの状態にあった、私たちの救いの御業は、神の永遠の御子でありながら、人となられ、二つの区分された性質と、一つの人格をも

つ方によって成し遂げられたのである。

### 黙想

聖書の伝える神の御子の降誕は時代の光の当たらない場所で始まった。それは、ガリラヤのナザレで、結婚を前にした少女への告知から始まる。イスラエルでは女の子は12歳で成人を迎える。大天使ガブリエルを前に、多感な年頃のマリアは戸惑う。理解の範疇を超えるあり得ない出来事の記憶は、マリアの中で思い巡らされ続けた。

時の支配者であるローマの皇帝は「神の子」と呼ばれていた。しかし聖書が指し示す「神の御子」の降誕は、世界の中心の都市でも、聖地エルサレムにおいてでもない。ガリラヤのナザレという町で、初めての御告げがあった。人の常識を遥かに超えた神の御手によって、神の独り子である主イエス・キリストは、おとめマリアの胎に宿り、人として生まれながらも罪はない、という仕方、地上の生涯を歩まれた。この人の理解を超えた方法で、主なる神は、罪による永遠の断絶の関係にあった私たち、救いの道を指し示して下さったのである。

完全に神の子であり、完全に人である主イエス・キリストこそが、唯一人、罪の縄目にある私たちを買い取り、神さまとの関係を回復させることの出来るお方なのである。  
(長谷部真)

《参照聖句》 イザヤ書7章14節、9章5～6節、ガラテヤの信徒への手紙4章4～5節、テモテへの手紙一2章5節

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答問 問21、22

12月6日 ルカによる福音書1章26～38節・子どもと親のカテキズム問26【説教展開例】

## 子なる神・二性一人格

◇..... 単元のねらい .....◇

神は私たちに、救い主イエス・キリストを与えてくださった。神さまの救いの前提には、神と選びの民との間の断絶がある。それは罪と悲惨の状態である。救いのためには、仲保者の存在が不可欠である。神の御子キリストは、聖霊の力によって信仰者マリアの胎に宿り、人から生まれながらも罪は無いという仕方で、完全に神の御子でありながら、完全に人となられた。受胎告知の出来事には、神の側から与えられた救い主の誕生の喜びが、人の理解の範疇を超えて示されていることを学ぶ。

### 「驚くべき御業～贖い主という最高の贈り物～」

#### 驚きの知らせ

皆さんは、頭が真っ白になるくらいに、驚いたことはありますか？ それが悲しいことでも、喜びのことでも、私たちは、全く予想できない出来事に遭遇すると、一時的に何も考えられなくなることがあります。今日みんなで聞いたルカによる福音書に出てくるマリアさんも、誰も経験したことのないような、驚きの経験をしました。

マリアはガリラヤ地方のナザレという町に住む女の子でした。ユダヤの社会で、女の子は12歳で大人の仲間入りでした。結婚を前にしたマリアのところに、天使ガブリエルが遣わされます。天使は「おめでとう、恵まれた方、主があなたと共におられる」と語ります。突然現れた天使の言葉に、マリアは驚き、戸惑います。マリアにとって一生忘れられない、驚きの出来事でした。しかし、悲しみや恐怖の出来事ではありません。それは、神さまから与えられる恵みの告知でした。

#### 恵みの告知

驚き恐れるマリアに、天使は「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた(28節)」と語ります。しかし、その内容はマリアの理解を超える衝撃的な内容でした。「あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない(30～33節)」天使から告げられた告知は、すべての人を代表する救いの御業でした。

#### 御言葉に約束された救い主

イスラエルの歴史の中で、神さまは預言者を通して、救い主の姿を伝えていました。イザヤ書9章14節に次のようにあります。「それゆえ、わたしの主が御自らあなたたちにしるしを与えられる。みよ、おとめが身ごもって、男の子を産み その名をインマヌエルと呼ぶ」。マリアに告げられたのは、選びの民に与えられる、救い主の誕生



を約束した、聖書の御言葉の実現でした。

人の歴史は、主なる神さまへの背きの歴史です。墮落によって、神さまとの交わりを完全に失った私たちは、神さまと共に歩むことの出来ない、神さまの怒りのもとにあったことを、聖書は教えます（エフェ2: 2, 3）。人は神さまの前に、罪と悲惨の状態にあり、誰もその罪の負債を返すことは出来ませんでした。神さまの前に招かれるためには、罪の贖い主が必要でした。

「贖い」という言葉には、「買い戻す」という意味があります。罪や過ちを償うために、献げるものです。神さまと私たちの関係を取り戻すための、神さまの御前に完全に罪の無い人であり、完全に神である方の執りなしが必要でした。マリアに告げられたのは、神さまから一方的に全人類に与えられた、約束の実現です。

### マリアに与えられたしるし

この天使の告知を聞いたマリアさんの気持ちにはどんなものだったと思いますか？天使の告知は、この上ない喜びの知らせです。しかしマリアにとって、それはありえない、理解出来ないことでした。マリアはヨセフとの結婚を控えていました。結婚前に、自分の身に子を宿す、と突然告げられて、衝撃を受けない人はいません。マリアは天使に尋ねます。「どうして、そのようなことがありえまじょうか。わたしは男の人を知りませんのに（34節）」マリアはどのような思いだったのでしょうか。これから自分の身に起こることに、大きな不安を覚えたかもしれません。

### 「神に出来ないことはない」

天使は、マリアの思いも知った上で、次

のように答えます。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む（35節）」天使はマリアに起こる出来事は、聖霊なる神さまの、神さまの御手による働きだ、ということです。神さまの力があなたを包んでいる。生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」「聖なる」とは、罪の無いことを意味します。その神の子と呼ばれる。神さまの御前にある、全ての人の罪を買い戻すことの出来る方が、神さまの働きによって与えられることを、天使はマリアに告げました。

マリアに告げられたことが、神さまの働きであることが、親類のエリサベトを通して、示されました。「あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六ヶ月になっている（36節）」

マリアの身に起こることは、決して輝かしい出来事ではありません。社会からの風当たりや、様々な困難があることを、容易に想像したことでしょう。結婚前に聖霊によって身ごもるといふ、人の常識を超えた出来事は、社会は理解しませんでした。彼女の理解者は、いいなずけのヨセフや、数少ない親類です。

それでも、彼女が信仰をもって受けとめたのは、天使が最後に伝えた大きな励ましの言葉です。「神に出来ないことは何一つない（37節）」この言葉を受けて、マリアは答えます。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。」すべてが神さまのお働きによる、と信じたマリアは、これから自分の体に起こる、すべてのことが神さまの御業であると、信仰の眼差しをもって受けとめます。

### アドヴェントに思い巡らすこと

私たちは今、アドヴェントの時を過ごしています。一年の歩みを振り返りますと、皆さんそれぞれに、予期せぬ困難があったかと思います。しかし、今回思い出したいことは、すべてが神さまの御手の中で起こっている、ということです。神さまの救いの御業も、人々が予想しない、ひっそりとした形で始まりました。「神の子」と呼ばれた力強いローマ皇帝や、高貴な出自でもない、ガリラヤのナザレの町の少女の身体を通して、主なる神さまの救いの御業は始まります。

「インマヌエル」と呼ばれるそのお方は、人としての苦しみや悲しみも受け止め、罪の無い完全な人として、そして完全に神の御子として、地上に遣わされました。それは「人の子を信じるものが一人も滅びないで、永遠の命を得るため（ヨハネ3：16）」です。信仰の眼差しで、マリアが受けた告知を見つめる時、救い主の降誕は私たちにとって、神さまから与えられたこの上ない贈り物です。イエスさまという最高の贈り物を、この季節、一緒に喜びましょう。  
(長谷部真)

---

#### 《今週の暗唱聖句》

しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。(ガラテヤの信徒への手紙4章4～5節)

12月6日 ルカによる福音書1章26～38節・子どもと親のカテキズム問26【分級展開例A】

## 子なる神・二性一人格

### アドベントクランツを作る

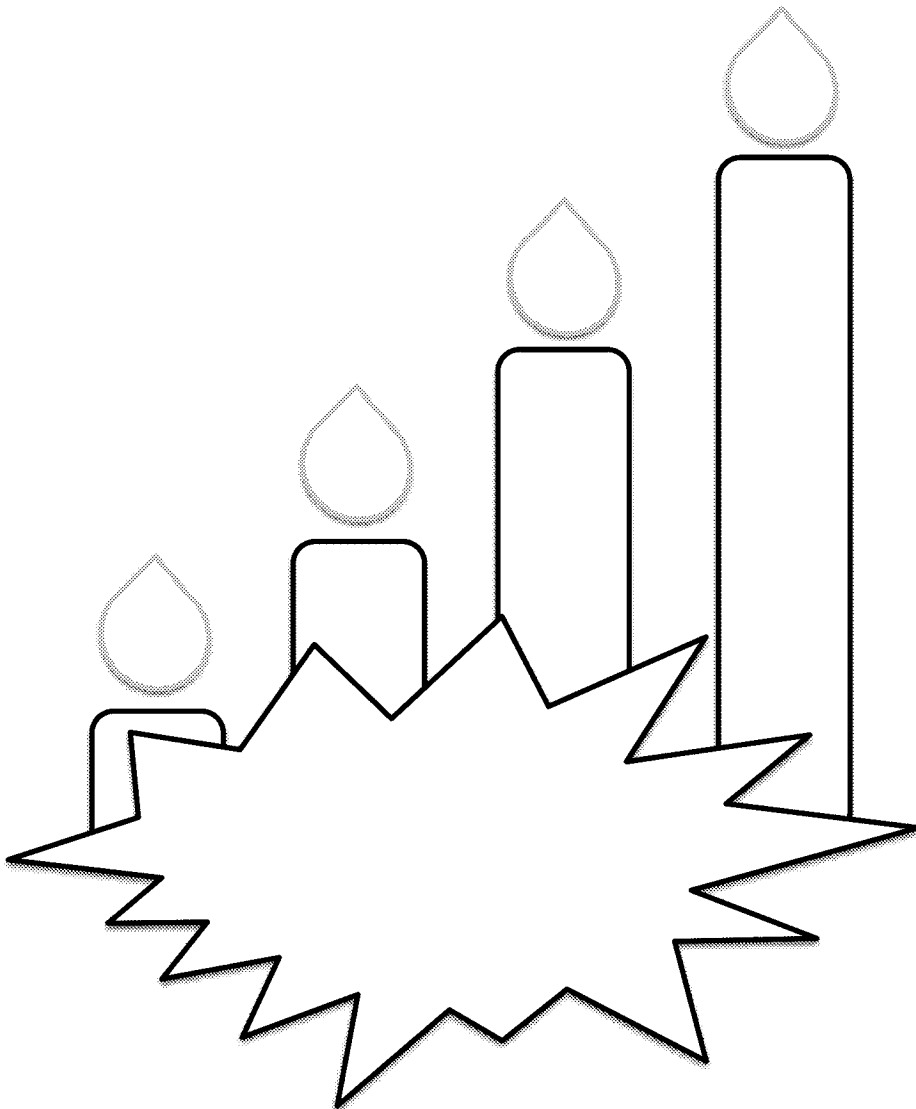
イエスキリストの誕生を待つ「待降節（アドベント）」に飾るろうそく飾りを作りましょう。

下のイラストをコピーし、みんなで色を

塗ります。

毎週短い方のろうそくから炎の色をぬりましょう

2020年の待降節は11月29日からです。今日(12/6)は二つ目の炎に色を塗る日です。



12月6日 ルカによる福音書1章26～38節・子どもと親のカテキズム問26【分級展開例B】

## 子なる神・二性一人格

1. イエスさまのお父さんとお母さんはな  
んという名前でしょう。 27節  
サムエル下7：16、イザヤ9：6、  
エフェソ2：6  
(神さまが約束してくださった神の民  
への永遠の祝福。力強い救いの実現  
を表す)
2. 天使はマリアに何を伝えたでしょう  
28節、30～33節、35～37節  
・「神の子」：  
ルカ4：3、4：41、22：70、  
使徒8：37、9：20  
(ルカ文書では、悪霊を退ける力ある  
存在であり、信仰の対象)
3. イエスさまについて言われた言葉につ  
いて、聖書を開いてみましょう  
・「主があなたと共におられる」：  
マタイ1：23、出エジプト3：12、  
イザヤ7：14  
(旧約聖書以来の神さまの救いの約束。  
最も大きな恵みの実現を表す言葉)  
・「ダビデの王座」：  
4. マリアから生まれる子はどんな方です  
か？

12月6日 ルカによる福音書1章26～38節・子どもと親のカテキズム問26【分級展開例C】

## 子なる神・二性一人格

アドヴェントに合わせて神の御子イエス・キリストについての教えを確認しましょう。

- ①イエス・キリストが神の子であることは使徒の証していることです（ヨハネー4：15参照）。しかし、主イエスはマリアとヨセフという人間の両親のもとに幼子として生まれました。マリアの出産にあたっては、天使ガブリエルが生まれる子の不思議について語っています。35節で天使が伝えた神の言葉を確認しておきましょう。
  
- ②イエスがマリアから生まれたことは、イエスが神の子でありながら人間となったことを証しています。神の子でありながら、人間となるという不思議を天使は何と言っていますか？（35節）
  
- ③カテキズムでは、「イエスさまは、まことの神さまであり、まことの人です」と言い表しています。これをあなたはどのように理解しますか。それを図で表すことができるでしょうか（12月20日分、分級展開例Aを参照）。
  
- ④神の子が人間となって生まれることなどは、人間には理解できないことです。天使はそれを何と言っていますか？（37節）
  
- ⑤イエス・キリストは私たちと同じ人間になられて、同じように地上の生涯を歩まれました。けれども、私たちとは違って罪を犯すことはまったくありませんでした。問20を思い起こして、罪がないお方とはどういうことなのか考えてみましょう。

12月13日 ヘブライ人への手紙9章23～28節・子どもと親のカテキズム問27【解説と黙想】

## 子なる神・真の神

### 教理の解説

本日の問答は問27である。大きな流れで見れば、「子なる神さま」を巡るものである。問26～28はキリストがどのようなお方か、問29～33はキリストがどのような御働きをなさったのかを記す。キリストの人格と御働きの両方を見据えつつ、学んでいただければ理解が進むであろう。

さらに問25までは人間についての教えである。そこでは人間は罪を持ち、誰も逃れることができないことが教えられていた(問23、24)。そこで人間の外からの救いが必要となる。しかしその救いは人間の罪を赦す以上、人間がなさなければならない。人間がなしながら人間の外から救いが来る。これは矛盾している。神さまはまことの神がまことの人となるという仕方で救いを実現された。これはまさに人知を超えた神の業である。

問27は、なぜ救い主が真の神でなければならないかをテーマにしている。救い主は人間の救い主であり、人間でなければならない。しかし救いとは神と人を隔てる罪からの救いである以上、罪ある人間は罪を償うことはできない。不十分なのである。そこで神である必要が生じる。神に罪はないから救い主としての資格を持つ。問答には「つぐなう」とある。償うとはなにかを代わりに差し出すことを意味する。それがキリストの命である。つまりキリストは罪人のために命を差し出したということ。この

お方は人であるからこそその人の救い主となることができた。そしてこのお方は罪のない神であるからこそ完全につぐなうことができになる。このキリストの御業により、私たちは神とのまじわりを回復し、神の子とされた。主なる神を「天の父よ」とよぶ幸いを与えられたのである。

### 黙想

ここで問われているのは「あなたはイエス・キリストをどのようなお方だということか」ということである。この問に対して、私たちは「キリストは真の神である」と告白する。この問は古くて新しい。最初期の教会においてはキリストが神か、人か、はたまた神であり人であるかを巡って種々の論争が行われてきた。普通に考えれば、神である、もしくは人であると考えた方がスッキリする。しかしそれでは私たちの救いは成し遂げられない。真の神であり、真の人であるお方。キリストこそ私たちを救う神、罪からの解放をもたらすお方である。

「あなたはイエス・キリストをどのようなお方だということか」という問に、ある人は高潔な理想主義者、ある人は人々を惑わしたペテン師だという。そしてある人は超人的な神的存在だというだろう。そのような中で、救われたものとして神であるキリストを告白するのである。ここにしかわたしたちの救いはない。(小宮山裕一)

《教理問答》 ウェストミンスター小教理問答21、22、ハイデルベルク信仰問答14～18

12月13日 ヘブライ人への手紙9章23～28節・子どもと親のカテキズム問27【説教展開例】

## 子なる神・真の神

◇..... 単元のねらい .....◇

イエス・キリストが真の神であることを知る。そしてそのことが私たちの救いにとってとても大切であることを知る。イエスの到来は私たちを神とのまじわり（礼拝）に招くためであり、このお方を信じることにより罪が赦されることを知る。

### 「人となった真の神」

今日もイエスさまのお話です。

みんなは、お友達にイエスさまのことを話したり、聞かれたりすることはありますか？ もし、お友達に「イエスさまってどんな方なの？」と聞かれたらなんて言うのでしょうか。みんなはイエスさまのお話をこうして教会で聞いています。イエスさまについて色々知っていますね。お弟子さんたちに教えるイエスさま。困っている人を病気から守るイエスさま。そして十字架上で死なれたイエスさま。復活したイエスさま。どれも大切なイエスさまの姿です。でも是非覚えておいてもらいたいのは、イエスさまは本当の神さまだということなんです。

イエスさまは私たちと同じ人間です。それと同時に、本当の神さまなんです。この世界にはたくさんのお偶像の神さまがあります。そうした神さまではなくて、この世界をお造りになった神さまと力と栄光を同じくする神さまなんです。それが私たちの信じているイエスさまなんです。

イエスさまが人であり神である。これは少し、むずかしいかもしれないですね。イエスさまはお生まれになる前、この世界をお造りになった父なる神さまと共にいまし

た。でも、今からおよそ二千年前に、クリスマスにこの地上に来てくださった。聖霊の力によって、マリアさんから生まれました。私たちと同じ人間となったのです。だからイエスさまは神であり人なのです。

どうしてイエスさまは神であり人。私たちが、救われるにはどうしても、神であり人であるイエスさまでなければならなかったんですね。だからイエスさまはこの地上にうまれてくださったのです。それは、私たちが罪から救われなければならないからです。

旧約聖書の時代、罪の赦しのためには、いけにえをささげなければならなかったんですね。今日の聖書箇所のおヘブライ人への手紙9章25節には「大祭司が年ごとに自分のものではない血を携えて」という言葉があります。これがいけにえなんです。いけにえとは、動物をささげて、罪の赦しをいただくことなんです。その血によって、罪が赦されたのです。

でも考えてみてください。私たちの教会では礼拝の度に動物をささげますか？ ささげませんよね。どうしてかな？ 罪の赦しをいただくためには、血が必要なのに。私た

ちが動物をささげないのは、イエスさまが罪のためのいけにえとなってくださったからなんです。それがイエスさまの十字架なんです。動物が殺されて血が流されたように、十字架でイエスさまは血を流されたんですね。それによって、イエスさまを信じる私たちは罪が赦されるんです。

私たちの罪の赦しのためには、動物では不十分なんです。人間の罪は、人間がなんとかしなくてははいけません。じゃあ人間がいけにえになればよいのかというと、これもまた足りないのです。なぜかというと、私たちは罪人なんです。

罪人が罪人ために犠牲になっても、それはその人の罪を完全に解決することにはならないのです。だから、イエスさまは神であり、人であるという仕方です。救い主になったのです。それは、罪の赦しのためでした。そしてイエスさまは罪がないお方ですから、十字架上で一度だけ死なれて、それで罪の赦しへの道を開いてくださったんですね。9章26節には罪を取りさるってあります。私たちはイエスさまを信じることによって、罪が赦されます。イエスさまが私たちのために、死んでくださったからです。そしてそれだけではなく、私と同じ姿になることによって、私たちのことがよくわかり、同じ気持ちになってくれたんですね。これが、イエスさまなんです。イエスさまが地上にきてくださったのは、神さまが遠くにいるおかたではないくて、近くにいてくださる。そのことを知ってもらいたいとい

うメッセージなんです。

イエスさまが十字架で死なれたことによって、私たちには神さまと一緒に生きていく道が開かれました。神さまのこどもとされるのです。

そのことをカテキズムはまじわりの回復っていつていますね。まじわりの回復ってなんですか。それはね、礼拝に参加するっていうことなんです。みんなも今、礼拝をしていますね。教会にきて礼拝をしている。おうちで礼拝をしている。私たちが神さまが招いてくださり、そして礼拝をする。それがまじわりの回復なんです。ですから、みんなはもうまじわりの中にいるんです。そしてそれが、神さまのこどもとされるということなんです。みんなは神さまのことを天のおとうさん、ということが出来る。そして神さまも、みんなのことを「あなたはわたしの愛するこどもだよ」と言ってくれるんです。

私たちが神さまを礼拝するために、イエスさまはまことの神さまとして、この地上に来てくださり、十字架におかかりになってくれたんですね。このイエスさまを信じましょう。私たちには罪があります。でも、イエスさまが私たちのかわりに罪をつぐなってくださいました。イエスさま、ありがとうございます。あなたを信じて、今週も歩いていきます。私のためにこの地上に来てくれてありがとうございます!!

(小宮山裕一)

---

#### 《今週の暗唱聖句》

しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

(ローマの信徒への手紙5章8節)



12月13日 ヘブライ人への手紙9章23～28節・子どもと親のカテキズム問27 【分級展開例A】

## 子なる神・真の神

### クリスマスカードを作ろう

手作りでクリスマスの喜びを伝える手紙を作ってみましょう。

二つ折りのカードでおもて面にクリスマスのイラストなどがあると良いです。

内側の面に、子ども達が絵を描きましょう。教会やイエスさまの絵、教会学校の絵など、字が書ける子どもは、聖書の言葉や「クリスマスおめでとう」などの言葉や、

クリスマスの礼拝へのお招きを書いて送るのも良いでしょう。

その他、送る相手の顔や描きたい絵をなんでも描きましょう。

二つ折りにして、封筒に入れて渡します。家族や教会の人でしたら直接渡すのも嬉しいです。離れた人であれば郵便で送ってあげましょう。なお、郵送の場合、送ることが構わないか家族の方に確認しましょう。

12月13日 ヘブライ人への手紙9章23～28節・子どもと親のカテキズム問27 【分級展開例B】

## 子なる神・真の神

聖書の時代、人が罪を清めるためにはどんなことが必要だったか確かめてみましょう。

1. 「いけにえ」(献げ物)とはどのようなものか調べてみましょう。

参考聖書箇所：

レビ記4：13～5：13、14：1～32  
(清めの儀式)

2. いけにえの動物はどんなものが求められたでしょうか

参考聖書箇所：

レビ記、22：17～25 (献げ物の条件)

3. いけにえを献げる祭司はどんな準備が

必要だったでしょう

参考聖書箇所：

出エジプト29：1～37、  
レビ記8：1～36

4. 私たちは完全ないけにえを献げて完全に清めていただくことができるでしょうか

参考聖書箇所：

ホセア6：6、ローマ3：10～20

5. 私たちを罪から救うためには、どんな方が、どんな献げ物を献げたら良いと思いますか？

今日の聖書の箇所を改めて読んで考えてみましょう。

12月13日 ヘブライ人への手紙9章23～28節・子どもと親のカテキズム問27 【分級展開例C】

## 子なる神・真の神

イエス・キリストがまことの神であると同時にまことの人になられたのには理由がありました。今日は、イエス・キリストがまことの神であることを特に覚えましょう。

①今日の御言葉では、神の子イエスが何のために世に現れたと書いてありますか？

②罪人のために神が御計画しておられた救いとは何でしょうか？（問25参照）

③イエス・キリストはどのように罪人の救いを実現してくださいましたか？

④もし、イエス・キリストがただの一人の人間であったら、私たちの救いは成し遂げられませんでした。なぜでしょうか？

12月20日 ヨハネによる福音書 3章16節

【解説と黙想】

## キリストの降誕

クリスマスには、毎年イエス・キリスト降誕の聖書箇所から聴きます。教会学校の教案誌を遡りますと、2019年はマタイ福音書1章18～25節（イエス・キリストの誕生）、2018年はルカ福音書2章1～20節（イエスの誕生、羊飼いと天使）、2017年はルカ福音書2章8～21節（羊飼いと天使）、2016年はマタイ福音書2章1～12節（占星術の学者たちが訪れる）、2015年はルカ福音書2章1～7節（イエスの誕生）と、過去五年間は福音書の降誕物語に集中しています。これは当然のことでしょう。しかし、ここで少し別のアプローチを試みても良いのではないかと思います。

教会学校のクリスマス記念礼拝は、日頃から教会学校の礼拝に来ている契約の子のほか、彼らに誘われて、あるいは案内を見て、初めて教会に来るお友だちもあろうと思います。クリスチャンでない家庭のお友だちが来るのはその日限りで、普通の教会学校にはなかなかつながりません。そこで一期一会と思って初めてのお友だちに福音を大胆に語るのはいかがでしょうか。

子どものときに教会に行ったことがある私の友人で、「クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う日だよ」と言える人はいます。しかし、もっと大事な「ではなぜ降誕されたのか」という目的の方は知りません。教会で福音が明確に語られていなかったのではないのでしょうか。

そこで今回、ヨハネによる福音書3章16

節を選びました。この御言葉は宗教改革者マルチン・ルターが「小型の福音書」と呼ぶほど、キリスト教のエッセンス、福音の真理が盛り込まれており、多くのキリスト者が座右の銘として心に蓄えています。

世に人となって来られた神の御子であるイエス・キリストの生と死の目的は、何よりも罪人である人間（私たち！）の救いにあります。イエスの十字架の死こそ、神が罪人である私たちに対する真実な愛を現わすために選ばれた方法だったのです。それゆえ、十字架に上げられたイエスを救い主と信じて仰ぎ見る者は、誰でも罪の支払う報酬である死から解放されて、永遠の命に与ることができるのです。

説教展開例にあるような福音提示の仕方を見ると、ルター派的な響きが強いと感じる方もあるかもしれません。また、「滅び・永遠の命」の説明に「天国・地獄」という用語を用いるのには抵抗があるかもしれません。しかし、世の家庭から来てくれるお友だちには分かりやすい用語なのであえて使いました。

初めて教会に来るお友だちのために、なるべく平易な言葉を用い、されど福音はしっかりと語る。そうすれば、今回限りの来会であったとしても、少なくとも教会のクリスマスの暖かい思い出と共に福音の種が彼らの心に蒔かれるのではないのでしょうか。（小澤寿輔）

《参照聖句》 ヨハネによる福音書3章16節

《教理問答》 子どもと親のカテキズム 26

12月20日 ヨハネによる福音書3章16節（子どもと親のカテキズム問26）【説教展開例】

## キリストの降誕

◇..... 単元のねらい .....◇

クリスマス礼拝には、日頃から教会学校の礼拝にきている契約の子のほか、初めて教会に招かれたお友だちもあろうと思う。今回は、「子どもと親のカテキズム」問26の内容を小さなお友だちでも理解できるように、なるべく平易な言葉を用いてお話ししたい。問26は次の通り。「問：私たちを、罪とほろびから救い出してくださる救い主はどなたですか。答：イエス・キリストです。この方は、父なる神さまの独り子であり、まことの神さまです。また、私たちの救いのために、聖霊によっておとめマリアより罪のない方として生まれ、まことの人となってくださいました。イエスさまは、まことの神さまであり、まことの人です。」皆が心で救い主に出会えることを主に期待して、福音を大胆に語りたい。

### 「私たちが罪とほろびから救い出してくださるイエスさま」

メリークリスマス！ 皆さん、今日はクリスマス礼拝によく来てくださいました。皆は、クリスマスと聞くと何を想像するでしょうか。サンタクロース、プレゼント、クリスマスツリーやネオンの飾り、美味しい食事やクリスマスケーキなどを連想しますね。町に出れば、もうあちこち綺麗なネオンの飾りつけがされていて、見ているだけで何か心がワクワクしてきますね。けれども、町のクリスマスは、本当のクリスマスではないのです。なぜ、本当のクリスマスでならないのでしょうか。主役がいないからです。では、クリスマスの主役とは、どなたでしょう。そうです、イエスさまです。クリスマスとは、イエスさまのお誕生日をお祝いして、イエスさまに礼拝する日なのです。

仮に、今日がわたしの誕生日だとします。でも、わたしのお友だちが、みんな別のお友だちの家に集まって、わたしがいないところで「ハッピーバースデー・トゥーユー」つ

てわたしの誕生日をお祝いしたら、おかしいでしょう？ 「おいおい」って言いたくなるでしょ？ それと同じで、イエスさまのお誕生日をお祝いする日にイエスさま抜きでお祝いしたら、おかしいでしょう？なので、イエスさまと一緒にイエスさまのお誕生日をお祝いするのが、本当のクリスマスなのです。

でも、それが、ぼくたち私たちと、どうい関係があるのでしょうか。イエスさまのお誕生は、今から約2000年前に起こった出来事です。しかも、日本から遠いイスラエルという国で起こった出来事です。それなのに、どうしてぼくたち私たちがお祝いするのでしょうか。実は、イエスさまがお生まれになったのは、ぼくたち私たちのためだったのです。

人間には生まれつき「罪」がある

どういことでしょうか。皆も、もう知っ

ていると思うけど、人間は誰でも、生まれつき「罪」があります。そして、その「罪」のせいで、神さまの喜ばれることをすることができません。いいえ、むしろ、神さまを怒らせることや、悲しませることをしてしまいます。なぜなら、神さまの言葉を聞くことはできないし、聞いたとしても、その通りにはできないからです。人は皆、「罪」があるために、一人もそのままでは天国に入ることはできません。どんなに努力しても、良い人になろうとしても、自分の力で天国に入ることはできません。そんなぼくたち私たちは、誰かに救ってもらわなければなりません。

イエスさまは私たちを罪とほろびから救い出してくださる救い主

では、どうしたら良いのでしょうか。今日の聖書の言葉を読んでみましょう「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」。

ここに「神は、その独り子をお与えになった」とありますね。この「独り子」とは、イエスさまのことです。イエスさまは神の「子」なのですね。ということは、イエスさまも神さまなのですね。

「お与えになった」とは、「お遣わしになった」、「お送りになった」ということです。天におられる神さまが、独り子イエスさまを世にお送りになったので、イエスさまは、地上にお生まれになったのですね。

でも、どうしてでしょう。その理由は、「世を愛された」からです。「世」とは何でしょう。それは、ぼくたち私たちに指します。神さまに喜ばれないことばかりしている、どうしようもないぼくたちだけけど、神さま

はそれでも愛してくださっているのですね。皆に、「とっても大事だよ」「愛しているよ」って言ってくださるのだね。

そして、「独り子」であるイエスさまを信じる人は、どうなるって？「一人も滅びないで、永遠の命を得る」とありますね。「滅びない」とは「地獄に行かない」という意味です。「永遠の命を得る」とは「天国に入れていただける」という意味です。イエスさまを信じる人は誰でも天国に入れていただけるのです。イエスさまが連れて行ってくださるからです。というより、イエスさまのおられるところが天国だからです。

### このお話の大切さ

「私たちが滅びないで、天国に入れていただくためにはどうすれば良いか」今、わたしは、とっても大切なことをお話しています。ぼくたち私たちににとって、人生で一番大切なことをお話しています。

世の中には、色々な便利な本があります。「ノウハウ本」って聞いたことがあるかな。例えば、折り紙を上手に折れるようになりたい、と思ったら、折り紙の本を読めば上手になれます。もし、料理を上手にしたいと思えば、料理の本を読めば上手になります。釣りが上手になりたいと思えば、釣りの本、生き物を上手に飼いたいと思えば、生き物の本。野球が上手になりたいと思えば、野球の本。お金持ちになりたいと思えば、お金持ちになれる本。色々な「ノウハウ本」があります。でも、「天国に入りたい」と思ったとき、どの本を読めば良いのでしょうか。それは、「聖書」にしか書いていません。「聖書」だけが、天国に入れていただくにはどうすれば良いかが書かれてい

ます。

また、このことは、どこへ行っても、誰も教えられません。学校では教えていません。学校の先生に「先生、天国に入るためにはどうすれば良いのですか」と聞いても、答えてくれません。また、皆が迷子になったときに行く交番。交番に行つて、お巡りさんに「天国に行くためにはどの道を通ればいいのですか」と聞いても、答えられません。「天国への道」は、教会で教えています。「その道はただ一つ、イエスさまですよ」と教えています。

### イエスさまを救い主として心にお迎えしよう！

神さまは、罪だらけのぼくたち私たちが滅びてしまわないように、独り子イエスさ

まを、救い主として、私たちのもとに送ってくださいました。それが、イエスさまの誕生日です。そして、それをお祝いするのがクリスマスです。

ぼくたち私たちも、イエスさまを神さまと信じ、自分の救い主として心にお迎えするなら、罪が赦されて天国に入れてくださる約束をいただけます。天国とは、イエスさまのおられるところです。だから、みんなも、今日、イエスさまを自分の救い主と信じましょう。そして、「わたしの心に来てください」と祈りましょう。今年のクリスマスに、皆がイエスさまを自分の救い主と信じて、神さまとともに永遠に生きられるようになることをお祈りします。

(小澤寿輔)

---

#### 《今週の暗唱聖句》

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。(ヨハネによる福音書3章16節)

12月20日 ヨハネによる福音書3章16節・子どもと親のカテキズム問26【分級展開例A】

## キリストの降誕

### クリスマスビンゴ

聖書に書かれているクリスマスの出来事からテーマを選んで自由に描きましょう。

聖書はヨハネの他、マタイによる福音書、ルカによる福音書も参照してください。

題目：マリア、ヨセフ、イエス、ヘロデ、  
東方の学者たち、飼い葉桶、羊飼い、  
など。

サンタクロースやクリスマス・ツリーなど、聖書にはないものはダメです。

題目は予めカードに書いて用意しておきます。全員、表を書き終えたら、カードをシャッフルして順に読み上げます。




12月20日 ヨハネによる福音書3章16節・子どもと親のカテキズム問26【分級展開例B】

## キリストの降誕

1. 「独り子」や「子ども」を犠牲にする親はどんな気持ちでしょう。以下の聖書の物語を通して想像してみましょう。

参考聖書箇所：

創世記22：1～19（アブラハムとイサク）、37:28～35（ヤコブとヨセフ）

2. 失われたいのちが救われた時の喜びはどんなものでしょう。以下の聖書の物

語を通して想像してみましょう。

参考聖書箇所：

ルカ15：1～7（見失った羊）、  
15：11～32（放蕩息子）

3. 神さまは、なぜ、イエスさまが人間として生まれるようにしてくださったのでしょうか。

先週の聖書の箇所も思い出してみましょう。

12月20日 ヨハネによる福音書3章16節・子どもと親のカテキズム問26【分級展開例C】

## キリストの降誕

クリスマスは、神の子キリストが人となって世に来られた出来事です。今日の御言葉とカテキズム問26を思い起こしながら、以下の問いに答えてみましょう。

①イエス・キリストは、何故、この世にお生まれになったのですか？

②イエス・キリストが生まれたことによって、私たちは何を知ることができますか？

③十字架にかかるために生まれたイエスさまは不幸でしょうか？それでも世に来てくださった理由について深く考えてみましょう。

④私たちはクリスマスをどのようにお祝いするべきでしょうか？

12月27日 ヘブライ人への手紙2章5～18節・子どもと親のカテキズム問28 【解説と黙想】

## 子なる神・真の人

### 救い主は「まことの人」

問26は、私たちが罪と滅びから救い出してくださる救い主イエス・キリストが真の神であり真の人であることを教えます。罪を犯すことのない真の神でなければ、神の義を満足させることができず（ロマ3：23～26）、同時に真の人でなければ人間である罪人の代わりとはなれないからです。

問28は、救い主なるイエスさまが真の人であるという点に焦点を当てます。真の神である方が真の人となってくださり、私たちと同じ肉体をとってこの世を生きてくださったということです。私たちが今生きている世界と同じ、政治的な不安・不正があり、貧困があり、憎しみがあり、妬みがあり、裏切りがあり……この罪の世界をイエスさまは真の人として歩まれました。そのことを聖書は「光は暗闇の中で輝いている」（ヨハネ1：5）と表現します。

### 「まことの神」？ 「まことの人」？

この單元ではイエスさまは「真の人」であることを子ども達に知ってほしいです。

真の神であるお方が真の人であるという二性一人格の教理は頭で理解することが難しいでしょう。それゆえ教会の歴史の中で様々な間違った教えが主張されてきました。主なものとして「イエスの体は人間であるが魂は神であった」という主張があります。これは人性を否定する教説で、人間のように見えただけで、実際には人間に見

せかけた神であったという説です。

しかし、礼拝で告白している「使徒信条」では、イエスは「おとめマリアより生まれた」ことを教えます。イエスさまも私たちと同じように母の胎から生まれ、自分では何もできない赤ん坊で、食べさせてもらい、飲ませてもらい、おむつを替えてもらった時期を過ごし、少しずつ成長する私たちと同じ道りを歩まれた「真の人」だったということです。「おとめマリアより生まれた」と使徒信条が告白するのは、イエスが人としてお生まれになったことを強調するのです。「生まれ」「苦しまれ」「死に」「葬られた」という人間の道を歩まれたのです。

### わたしに代わり罪を償ってくださった

では、なぜ教会はイエスさまが「真の人」であったという真理を告白し続けるのでしょうか。それは「真の人」でなかったならば私たちの救いが揺らいでしまうからです。問28は「救い主は、罪のないまことの人として私たちに代わって罪をつぐなう必要があったからです」と答えます。

神さまに対して罪を犯し、怒りと裁きを招いたのは私たち人間です。ですから人間が罪を償うのでなければ償ったことにはなりません。「人間のようなもの」が人間に代わって罪を償っても意味がないのです。だからこそ「真の神」であられる御子ご自身が「真の人」となってこの世にお生まれくださったのです。（小橋口貴人）

《教理問答》 ウェストミンスター大教理問答38、39、ハイデルベルク信仰問答16、17

12月27日 ヘブライ人への手紙2章5～18節・子どもと親のカテキズム問28 【説教展開例】

## 子なる神・真の人

◇..... 単元のねらい .....◇

これまでイエスさまがまことの神さまであることを学んできました。今回は、そのまことの神さまであるイエスさまがまことの人としてこの世に生まれ、生きてくださったことをしっかりと子どもたちに伝えたい。まことの人だから、イエスさまは私たちの罪を私たちに代わって償ってくださることができたのであり、イエスさまがまことの人でなかったならば、救いは完成しないことを学びたい。

### 「人として歩まれたイエスさま」

#### わたしと同じ人間なの？

先日は、イエスさまは本当の神さまだということを知りましたね。でも聖書を読んでもみると、イエスさまは私たちと同じように歩いたりしゃべったり、飲んだり食べたりしていますよね？ イエスさまは私たちと同じ人間ではないのでしょうか？ イエスさまは神ですか？ 人でしょうか？

ヘブライ書にはこのように書かれています。「イエスは……すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです」（ヘブ2：17）。まことの神さまであるイエスさまは、すべての点で私たち人間と同じになられたのです。ただ一つ違うところは、罪を犯されなかったという点だけです（参照ヘブ4：15）。他はあらゆる点で私たちと同じ人間としてイエスさまはこの地上を生きました。

みなさん使徒信条を言えますか？ 「我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず」 その次は覚えていますか？ 「主は聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ」ですね。みなさんがお母さんから生まれたように、イエスさまも母マリアから生

まれました。あらゆる点で私たちと同じ人間として歩まれました。みんなと同じように赤ん坊だった時があり、お父さんお母さんに食べさせてもらったり、おむつを替えてもらったりしなければならなかったのです。

みんなに誕生日があるように、イエスさまにも誕生日がありますよ（おそらくクリスマスの日ではないけど）。みんなに家族がいるように、イエスさまにも家族がいました（参照マタ13：55, 56）。みんなが食事をするようにイエスさまも食事をしました。みんなが夜になれば眠るようにイエスさまも眠りました。私たちと同じ体がありましたので、痛さや疲れを感じることもや寒いなあとか暑いなあとか感じることもあったでしょうね。まことの神さまであるイエスさまは、まことの人となられて私たちと同じようにこの世界を生きてくださったということを今日はしっかりと覚えてください。イエスさまは宇宙人のようである日突然どこからともなく現れたのではなくて、ちゃんとマリアという女性からお生ま

れになった「まことの人」であるということです。

### 仲直りしようよ！

まことの神さまであるイエスさまが、まことの人として生まれ、この世を生きてくださったのには目的があります。それは、みんなと神さまが仲直りをするということです。カテキズムが教えている通り、私たちは「神さまに背き、罪を犯し、神さまの怒りと裁きをまねいて」しまったのです。神さまが言う通りに生きることができない。お父さんやお母さんの言うことを聞けない時があるし（第五戒）、お友達と仲良くできない時もあります。人の悪口を言ったり、嘘をついてしまったりします。そうやって私たちが神さまの言うことを聞かないで、無視して生きていくことに神さまは怒ってしまわれたのです。つまり神さまと私たちとの関係は悪くなってしまいました。

誰かと仲直りをしようとする場合、普通は悪いことをしてしまった方が先に、「傷つけてしまってごめんね」とか「ひどいことを言ってしまうてごめんなさい」「約束を破ってしまってごめんなさい」と、傷つけられた側に仲直りを求めるものです。でも神さまと私たちとの場合は違いました。人間に裏切られ無視された神さまの方から、仲直りの手が差し伸べられたのです。「わたしはあなたと仲直りしたいと思ってているよ」という愛のメッセージが人となられたイエスさまです。

神さまは、私たちが謝ったら許してあげるとか、謝る人だけを愛するというお方ではありません。私たちが謝らずと前から、まだ罪を平気で犯していた時も、いや私たちが生まれるずっと前から神さまは私たちが愛してくださっているのです。「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」（ヨハ一4：10）

### わたしに代わって罪を償ってくださった

私たちは神さまの前で「有罪」の判決を受けた者です。その罪をわたしの身代わりに負ってくださる人がいるならば、その人は「無罪」の人でなければなりません。自分が有罪判決を受けている人は、自分の罪を償わなければならないので、他の人の罪を代わってあげることはできないからです。

ですから、わたしの罪を代わりに償ってくださるお方として、イエスさまが「まことの人」となって、ひとつも罪を犯すことなく生きてくださいました。イエスさまはみんなが神さまと仲直りできるように、「一つも罪のないわたしがみんなの代わりに裁きを受けますから」と、私たちの罪を代わりに負ってくださいました。

人となられたイエスさまは、神さまから差し伸べられた愛の手です。その手をしっかりと握って、神さまと仲直りをして生きていきましょう。（小橋口貴人）

---

### 《今週の暗唱聖句》

それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。

（ヘブライ人への手紙2章17節）

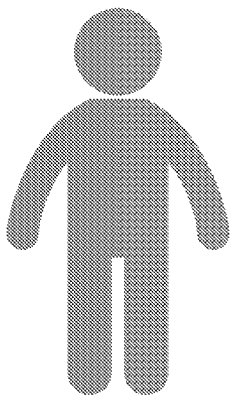
12月27日 ヘブライ人への手紙2章5～18節・子どもと親のカテキズム問28【分級展開例A】

## 子なる神・真の人

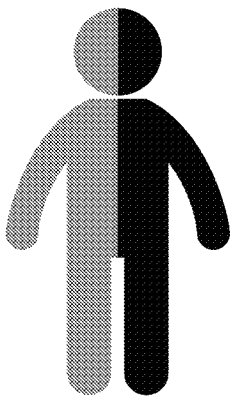
イエスさまは、えいえんのむかしから、天の父なる神さまと共にいた、神の子でした。

けれども、罪をおかした人間を救うために、私たちと同じ人間になって、マリアから生まれました。

では、イエスさまは、神の子でありながら、どのように人間だったのでしょうか。



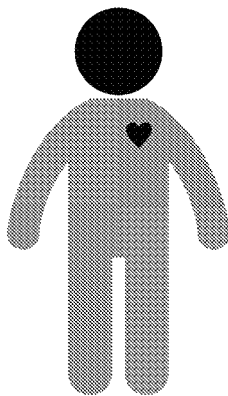
例1 神さま半分・にんげん半分



例2 二つが混ざっている



例3 頭と心だけが神さま



これはどれもまちがいです。

イエスさまは、神さま100%で にんげん100%です。

12月27日 ヘブライ人への手紙2章5～18節・子どもと親のカテキズム問28【分級展開例B】

## 子なる神・真の人

1. まず、ヘブライ人への手紙2章14～18節を読んでみましょう。  
人間を罪から解放するためには、どんな方がどんなことをする必要があるのでしょうか。  
(人間だけが人間の罪を償うことができる)
2. ヘブライ人への手紙2章5～9節を読んでみましょう。  
イエスさまは、父なる神さまや天使、私たち人間と比べてどういう立場の方ですか。  
(元々神さまであるのに、本当の人間になってくださった)
3. もう一度、18節を読んでみましょう。  
イエスさまが私たちと同じ人間になってくださったことで、「試練を受けている人たちを助けることがおできになる」のです。イエスさまが私たちと同じ人間になってくださったことがどれだけすばらしいか話し合ってみましょう。

12月27日 ヘブライ人への手紙2章5～18節・子どもと親のカテキズム問28【分級展開例C】

## 子なる神・真の人

問26では、イエス・キリストはまことの神であると同時にまことの人であることを学びました。今日はイエス・キリストがまことの人間であったことについて学びます。



- ①クリスマスは、神の子キリストが人となって世に生まれたことに感謝するお祝いでした。イエス・キリストが人間になってくださったことには理由がありました。今日の御言葉はそれを説明していますが、何故、イエス・キリストは人間にならねばならなかったのですか？

- ②イエス・キリストとは別の天使が世に来てても良かったのではないですか？

- ③イエス・キリストが人間になることによって、私たちに何が起こりましたか？

- ④あなたは誰かの代わりに罪を償うことができますか？



<p>10月4日</p> <p>だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光をあらわ現すためにしなさい。</p> <p>【コリントー 10:31】</p> 	<p>10月11日</p> <p>わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。</p> <p>【テモテニ3:16】</p> 	<p>10月18日</p> <p>主なる神はアダムを呼ばれた。</p> <p>「どこにいるのか。」</p> <p>【創世記3:9】</p> 
<p>10月25日</p> <p>父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、せつぶんした。</p> <p>【ルカ15:20】</p> 	<p>11月1日</p> <p>イエスはお答えになった。「はっきり言っておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である」</p> <p>【ヨハネ8:34】</p> 	<p>11月8日</p> <p>わたしは咎のうちに産み落とされ 母がわたしを身ごもったときも わたしは罪のうちにあったのです</p> <p>【詩編51:7】</p> 
<p>11月15日</p> <p>「キリスト・イエスは、罪人を救うために世に來られた」という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。</p> <p>【テモテ一1:15】</p> 	<p>11月22日</p> <p>わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。</p> <p>【ローマ7:19】</p> 	<p>11月29日</p> <p>わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。</p> <p>【ヨハネ10:11】</p> 

12月6日

しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。

【ガラテヤ4:4,5】



12月13日

しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

【ローマ5:8】



12月20日

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

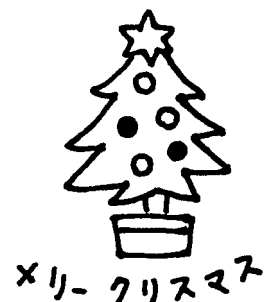
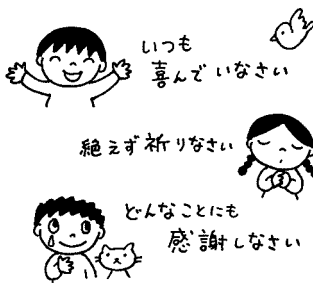
【ヨハネ3:16】



12月27日

それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。

【ヘブライ 2:17】



## 2021年1～3月カリキュラム (第80号)

—救済史に基づく2年サイクル 第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	聖書箇所	暗唱聖句
	単元の目標		
1月3日	教会と共に歩む一年	—	—
		詩編90：1-17	詩編90：12
新年 新しい年も神からの恵みを数えつつ歩もう			
1月10日	イエス・キリストとは	問29	ウ小23、ウ大41、42、ハイデル29,31
		ルカ3：21, 22	マタイ1：21
イエス・キリストの名前の意味とお働きを知ろう			
1月17日	キリストの高い状態と 低い状態	問30	ウ小23-28、ウ大43-56
		フィリピ2：6-11	フィリピ2：11
イエス・キリストは卑謙・高擧の状態で預言者・祭司・王の務めをはたされる			
1月24日	預言者なるキリスト	問31	ウ小24、ウ大43
		ルカ24：13-35	ヨハネ5：39
イエス・キリストはみ言葉と聖霊によって神の御心を教えてくださる			
1月31日	祭司なるキリスト	問32	ウ小25、ウ大44
		ヨハネ14：1-14	ヨハネ14：14
イエス・キリストは私たちの罪のため命を十字架で献げ、今も私たちの祈りを執り成してくださる			
2月7日	王なるキリスト	問33	ウ小26、ウ大45
		マタイ21：1-11	ヨハネ16：33
イエス・キリストはみ言葉と聖霊で私たちに治め、悪の力から守ってくださる			
2月14日	聖霊なる神・ ただ恵みによって	問34	ウ小29、ウ大58, 60
		マルコ10：17-31	マルコ10：27
自力では救えない私たちに神は聖霊によって救いを与えてくださる			
2月21日	聖霊なる神・ キリストとの交わり	問35	ウ小30,31、ウ大59、66,67、76
		1コリント1：26-31	1コリント1：30
聖霊は私たちに罪を認めさせ、悔い改めを与え、信仰を与え、キリストと結び合わせてくださる			
2月28日	救いとは何か	問36	ウ小33-34、ウ大70-74
		ヨハネ3：1-21	ヨハネ3：16
神は私たちのすべての罪を赦し、永遠の命を与え、神の子としてくださる			
3月7日	聖化の歩み	問37	ウ小35、ウ大75,78
		詩編51：1-21	詩編51：12
神は神の子の私たちにイエス様に似るように聖くしてくださる			
3月14日	救いの確かさ	問38	ウ小36、ウ大78-81
		ルカ22：31-34	ルカ22：32
私たちは弱くて信仰を否定しても神が最後まで信仰を守り支えてくださる			
3月21日	再臨・天国を目指す歩み	問39	ウ告白33章
		マタイ25：1-13	フィリピ3：14
私たちは天国の前味を頂いているのでキリストの再臨を信じて希望をもって生きられる			
3月28日	十字架のキリスト	—	—
		マタイ27：32-56	イザヤ53：4
受難週神が十字架の業を通して語る言葉に生きよう			

大会教育委員会

## 「教会学校教案誌」

継続発行のための

### 50万円 自由募金のお願い

弊誌のためにお祈りとご購読をもってお支え下さいます事を、心から感謝するとともに御礼を申し上げます。

大会教育委員会の重要な使命と任務は、日本キリスト改革派教会独自の教案を作成することです。そのために委員会は、なにより「内容」を磨くことに全力を注いでおります。しかしそのためには、教案誌の「安定的発行」が不可欠です。

かつて執筆者には1000円の図書券を贈呈し、最低限の礼を尽くしてまいりました。現在は、何の御礼もさしあげていません。ひとえに誌代を維持したいからです。ギリギリの厳しい状況がつづいています。自由募金に積極的にご参加ください。

教会だけではなく、個人としてのご協力をも伏してお願い致します。

*Soli Deo Gloria!*

※ 購読申し込みは、西堀 元（熊本伝道所：✉ boribori89@gmail.com）

〒862-0924 熊本県熊本市中央区帯山2-13-74 ㊚フックス (096)382-7630

お問い合わせは、相馬伸郎 (iwanoue@me.ccnw.ne.jp) まで。

**目標金額 50万円**

**送金先 郵便振替 00190 - 4 - 451670**

**日本キリスト改革派教会大会教育委員会**

## 大会教育委員会 出版物ご案内



### 神さまと共に歩む道

「子どもと親のカテキズム」解説  
牧田吉和・監修

聖書の信仰を「神さまと共に道を歩む」という動的な概念で位置付けたユニークな信仰問答として親しまれている「子どもと親のカテキズム」。そのカテキズムを信仰的対話の土台として用いるための最良の手引き。(帯より)

定価：2,000円

(改革派内の方は消費税分・送料無料)

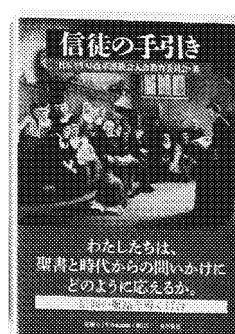
### 既刊書籍



#### 子どもと親のカテキズム

— 神さまと共に歩む道 —

定価：500円



#### 信徒の手引き

定価：2,200円

(改革派内価格：2,000円)

申し込み先：rcjkyoiku@gmail.com

### 〈あとがき〉

●オレオレ〇〇ではありませんが、大会教育委員会はカテキズム解説書を「ダスダス」と報告し続けてきました。ついに、大きな宿題を果たせました。

次は、我々がカテキズム教育の真の実力を研鑽しつつ、深く徹底的に展開する責任があるだろうと思います。これは「知的なキリスト教」の道ではなく、教理を体得し、これを生きる、汗くさい「動的キリスト教」(!?)の道です。これには子どもも大人もありません。教会をあげて取り組みたいと思います。そのための助けとしての「子どもと親のカテキズム」であり、その「解説書」です。また、弊誌創刊の志でした。

(相馬伸郎)

●カテキズム解説が出版されました。教育委員会の二十年來の課題である独自のカテキズム作成と信徒の手引きの改訂という事業が実現したこととなります。自分たちの力のなさを痛感させられるような大きな事業でしたが、これらが教派内でよく用いられ吟味されて「更に優れたものを作成する日」が再び来ることを願いたいと思います。

(長田詠喜)

●教会学校教案誌を、まだ活用していない教会でも、「子どもと親のカテキズム」は常備されていると思います。その解説本は、これから、改革派・長老派の教会だけでなく、多くの主にある教会の必携書となり、さらに用いられて行くと信じます。先の見えないコロナ禍の最中に発行された“伝説”の書として刻まれることになるでしょう。ますます主に栄光がありますように。

(小川 洋)

●「教理問答は、武道で言えば基本的な型のようなものです。古の達人たちが多くの

修練と実践の中から編み出した型には、現代のスポーツジムで行う機器を用いたトレーニングのような華やかさはありません。しかし、それには独自の効用があり、基礎体力の養成と、実践における応用力の涵養に今なお無くてはならないものとして留まっています」(『ウェストミンスター小教理問答』松谷好明氏訳、141頁)。今回の教理『解説本』が学びのよきトレーナーとして多くの方に用いられますように願います。

(西堀 元)

●私たちの教会では今年から「子どもと親のカテキズム」を礼拝で交読しています。

初めて触れる方も多く、よい評価を得ています。ここで解説書が出ることになって感謝しています。祈祷会で学ぶテキストにしたいと考えています。教会員全員に買って読んでもらえるよう努力します。

(牧野信成)

※バックナンバーを御希望の方は下記までご連絡ください。

長野佐久伝道所 牧野信成

〒385-0051

長野県佐久市中込3-9-1

Tel & Fax : 0267-62-2409

E-mail : rcjnaganosaku@gmail.com

## 執筆者一覧

まえがき

相馬伸郎 (名古屋岩の上教会牧師)

巻頭説教

金原義信 (豊明教会牧師)

教会学校教師のための説教準備ガイドⅢ

牧野信成 (長野佐久伝道所宣教教師)

長老の持つべき資質・モラル&常識 (1)

豊川修司 (東部中会引退教師)

障がいのある人と共に (2)

申 成日 (広島教会牧師)

教会学校訪問

川瀬真美 (花小金井教会)

信仰告白の証

小峯 あかり (船橋高根教会)

CS 教師の一言

市川貴規 (名古屋岩の上教会)

イラスト作画

表紙 中村未生 (春日井教会・IBUKI)

高橋乃亜 (湘南恩寵教会・IBUKI)

聖句カード

岡野美佳 (青葉台キリスト教会)

聖書黙想・説教展開例

大宮季三 (芸陽教会牧師)

小澤寿輔 (高知教会牧師)

柏木貴志 (岡山教会牧師)

久保田証一 (尾張旭教会牧師)

高内信嗣 (山田教会牧師)

小橋口貴人 (那加教会牧師)

後登雅博 (高蔵寺教会牧師)

小宮山裕一 (綱島教会牧師)

常石召一 (大阪教会牧師)

袴田清子 (灘教会)

長谷部真 (堺みくに教会牧師)

三川共基 (松戸小金原教会牧師)

三輪 誠 (浜松伝道所宣教教師)

分級展開例

小川 洋 (高松教会牧師)

長田詠喜 (新所沢教会牧師)

小堀尚美 (花小金井教会)

相馬伸郎 (名古屋岩の上教会牧師)

西堀 元 (熊本伝道所宣教教師)

牧野信成 (長野佐久伝道所宣教教師)

## 編集部

相馬伸郎 (長) 名古屋岩の上教会牧師  
牧野信成 長野佐久伝道所宣教教師  
長田詠喜 新所沢教会牧師  
西堀 元 熊本伝道所宣教教師  
小川 洋 高松教会牧師

日本キリスト改革派 大会教育委員会 『教会学校教案誌』 第79号

2020年10・11・12月号 (季刊)

2020年8月1日発行

発行 日本キリスト改革派教会 大会教育委員会  
発行所 日本キリスト改革派教会 大会教育委員会  
名古屋岩の上教会 牧師 相馬伸郎  
〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012  
Tel/Fax 052-895-6701

郵便振替口座 00190-4-451670 「日本キリスト改革派教会大会教育委員会」  
編集・印刷 株式会社あるむ  
頒価 900円 (本体価格)

Reformed Church in Japan  
Board of Education

